



ユーザーガイド

# AWS エンドユーザーメッセージングソー シャル



# AWS エンドユーザーメッセージングソーシャル: ユーザーガイド

Copyright © 2025 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

# Table of Contents

AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルとは .....	1
AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルユーザーは初めてですか？ .....	1
AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルの機能 .....	1
関連サービス .....	2
AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルへのアクセス .....	2
リージョナルな可用性 .....	3
AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのセットアップ .....	8
にサインアップする AWS アカウント .....	8
管理アクセスを持つユーザーを作成する .....	9
次のステップ .....	10
入門 .....	11
WhatsApp にサインアップする .....	11
前提条件 .....	11
コンソールからサインアップする .....	13
次のステップ .....	17
WhatsApp Business Account (WABA) .....	18
WABA を表示する .....	19
WABA を追加する .....	19
WhatsApp ビジネスアカウントタイプ .....	20
追加リソース .....	20
電話番号 .....	21
電話番号に関する考慮事項 .....	21
電話番号を追加する .....	22
前提条件 .....	22
WABA に電話番号を追加する .....	22
電話番号のステータスを表示する .....	24
電話番号の ID を表示する .....	25
メッセージング会話の制限を増やす .....	25
メッセージスループットの向上 .....	26
電話番号の品質評価について .....	27
電話番号の品質評価を表示する .....	27
メッセージテンプレート .....	28
WhatsApp Manager でのメッセージテンプレートの使用 .....	29
を使用してテンプレートを作成する CreateWhatsAppMessageTemplate .....	29

メッセージテンプレートコンポーネント .....	29
基本的な英語ユーティリティテンプレートを作成する .....	29
ボタンを使用して基本的な英語ユーティリティテンプレートを作成する .....	30
ヘッダー、本文、ボタンを使用して複雑な英語ユーティリティメッセージテンプレートを作成する .....	31
基本的なマーケティングメッセージテンプレートを作成する .....	32
複雑なマーケティングメッセージテンプレートを作成する .....	33
次のステップ .....	34
テンプレートのペース調整 .....	34
テンプレートの低いステータスに関するフィードバックを取得する .....	34
テンプレートのステータスと品質評価 .....	35
テンプレートが拒否される理由 .....	37
メッセージとイベントの送信先 .....	38
イベント送信先を追加する .....	38
前提条件 .....	38
メッセージとイベントの宛先を追加する .....	39
暗号化された Amazon SNS トピックポリシー .....	40
Amazon SNS トピックの IAM ポリシー .....	41
Amazon Connect の IAM ポリシー .....	42
次のステップ .....	43
メッセージとイベントの形式 .....	43
AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルイベントヘッダー .....	44
メッセージの WhatsApp JSON の例 .....	45
メディアメッセージの WhatsApp JSON の例 .....	46
メッセージのステータス .....	47
メッセージのステータス .....	47
追加リソース .....	48
メディアファイルのアップロード .....	49
サポートされているメディアファイルタイプ .....	51
メディアファイルタイプ .....	51
メッセージタイプ .....	54
追加リソース .....	54
メッセージの送信 .....	55
テンプレートメッセージを送信する .....	56
メディアメッセージの送信 .....	57
受信したメッセージへの応答 .....	60

メッセージのステータスを読み取りに変更する .....	60
リアクションで応答する .....	61
WhatsApp から Amazon S3 にメディアファイルをダウンロードする .....	61
メッセージへの応答の例 .....	62
前提条件 .....	62
応答 .....	62
追加リソース .....	65
請求について .....	66
会話ごとに課金されます .....	66
Authentication-International FeeType がいつ適用されるか .....	71
例 1: Marketing テンプレートメッセージを送信する .....	72
例 2: サービスの会話を開く .....	72
請求 ISO コード .....	72
メッセージごとに課金 .....	86
Authentication-International FeeType がいつ適用されるか .....	90
例 1: Marketing テンプレートメッセージを送信する .....	90
例 2: サービスの会話を開く .....	91
請求 ISO コード .....	91
モニタリング .....	105
CloudWatch によるモニタリング .....	105
CloudTrail ログ .....	107
AWS CloudTrail でのエンドユーザーメッセージングソーシャルデータイベント .....	109
AWS CloudTrail でのエンドユーザーメッセージングソーシャル管理イベント .....	110
AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルイベントの例 .....	110
ベストプラクティス .....	113
Up-to-dateビジネスプロフィール .....	113
許可を取得する .....	113
禁止メッセージの内容 .....	114
顧客リストを監査する .....	116
エンゲージメントに基づく送信を調整する .....	116
適切な時間に送信する .....	117
セキュリティ .....	118
データ保護 .....	119
データ暗号化 .....	120
転送中の暗号化 .....	120
キー管理 .....	121

ネットワーク間トラフィックのプライバシー .....	121
Identity and Access Management .....	122
対象者 .....	122
アイデンティティを使用した認証 .....	123
ポリシーを使用したアクセスの管理 .....	126
AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルと IAM の連携方法 .....	129
アイデンティティベースのポリシーの例 .....	136
AWS 管理ポリシー .....	139
トラブルシューティング .....	141
コンプライアンス検証 .....	143
耐障害性 .....	144
インフラストラクチャセキュリティ .....	144
サービス間の混乱した代理の防止 .....	145
セキュリティに関するベストプラクティス .....	146
サービスにリンクされたロールの使用 .....	147
AWS End User Messaging Social のサービスにリンクされたロールのアクセス許可 .....	147
End AWS User Messaging Social のサービスにリンクされたロールの作成 .....	148
AWS End User Messaging Social のサービスにリンクされたロールの編集 .....	148
AWS End User Messaging Social のサービスにリンクされたロールの削除 .....	148
AWS End User Messaging Social サービスにリンクされたロールでサポートされている リージョン .....	149
AWS PrivateLink .....	150
考慮事項 .....	150
インターフェイスエンドポイントの作成 .....	150
エンドポイントポリシーを作成する .....	151
クォータ .....	153
ドキュメント履歴 .....	154
.....	clvi

# AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルとは

AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルは、ソーシャルメッセージングとも呼ばれ、開発者が WhatsApp をアプリケーションに統合できるようにするメッセージングサービスです。WhatsApp のメッセージング機能にアクセスできるため、イメージ、動画、ボタンを使用してブランド化されたインタラクティブなコンテンツを作成できます。このサービスを使用すると、SMS やプッシュ通知などの既存のチャンネルとともに WhatsApp メッセージング機能をアプリケーションに追加できます。これにより、希望するコミュニケーションチャンネルを通じて顧客とやり取りできます。

開始するには、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルコンソールのセルフガイドオンボーディングプロセスを使用して新しい WhatsApp Business Account (WABA) を作成するか、既存の WABA をサービスにリンクします。

## トピック

- [AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルユーザーは初めてですか？](#)
- [AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルの機能](#)
- [関連サービス](#)
- [AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルへのアクセス](#)
- [リージョナルな可用性](#)

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルユーザーは初めてですか？

AWS End User Messaging Social を初めて使用する場合は、まず以下のセクションを読むことをお勧めします。

- [AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのセットアップ](#)
- [AWS End User Messaging Social の開始方法](#)
- [AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのベストプラクティス](#)

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルの機能

AWS End User Messaging Social には、次の機能と機能があります。

- [メッセージテンプレートを作成して使用する](#)ことで、一貫性のあるメッセージを設計し、コンテンツをより効果的に再利用します。メッセージテンプレートには、送信するメッセージで再利用するコンテンツと設定が含まれています。
- リッチなメッセージング機能にアクセスして、より魅力的なエクスペリエンスを実現します。テキストやメディア以外にも、場所やインタラクティブメッセージを送信できます。
- 顧客からの受信テキストとメディアメッセージを受信します。
- Meta を通じてビジネスアイデンティティを検証することで、顧客との信頼を構築します。

## 関連サービス

AWS は、マルチチャネルワークフローと一緒に使用できる他のメッセージングサービスを提供します。

- [AWS エンドユーザーメッセージング SMS](#) を使用して SMS メッセージを送信する
- [AWS エンドユーザーメッセージングプッシュ](#) を使用してプッシュ通知を送信する
- [Amazon SES](#) を使用して E メールを送信する

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルへのアクセス

End AWS User Messaging Social には、以下を使用してアクセスできます。

### AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルコンソール

リソースを[作成](#)および管理するウェブインターフェイス。

### AWS Command Line Interface

コマンドラインシェルでコマンド AWS のサービス を使用して を操作します。AWS Command Line Interface は Windows、macOS、Linux でサポートされています。の詳細については AWS CLI、[AWS Command Line Interface 「ユーザーガイド」](#)を参照してください。AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルコマンドは、[AWS CLI コマンドリファレンス](#)にあります。

### AWS SDK

HTTP または HTTPS 経由でリクエストを送信する代わりに、言語固有の APIs を使用してアプリケーションを構築する場合は、 が提供するライブラリ、サンプルコード、チュートリアル、その他のリソースを使用します AWS。これらのライブラリは、リクエストの暗号化による署名、リクエストの再試行、エラーレスポンスの処理など、タスクを自動化する基本的な機能を提供しま

す。これらの関数を使用すると、作業をより効率的に開始できます。詳細については、[「構築するツール AWS」](#)を参照してください。

## リージョナルな可用性

AWS End User Messaging Social は、北米、欧州、アジア、オセアニア AWS リージョン の複数ので利用できます。各リージョンで、は複数のアベイラビリティゾーン AWS を維持します。これらのアベイラビリティゾーンは物理的に相互に分離されていますが、低レイテンシーで高スループットの冗長性に優れたプライベートネットワーク接続で統合されています。これらのアベイラビリティゾーンは、レイテンシーを最小限に抑えながら、高レベルの可用性と冗長性を提供するために使用されます。

詳細については AWS リージョン、『』の[AWS リージョン「アカウントで使用できるを指定する」](#)を参照してください Amazon Web Services 全般のリファレンス。AWS End User Messaging Social が現在利用可能なすべてのリージョンと各リージョンのエンドポイントのリストについては、『』の[「End User Messaging Social API とサービスエンドポイントのエンドポイントとクォータ Amazon Web Services 全般のリファレンス」](#)、または次の表を参照してください。AWS [AWS](#)各リージョンで利用できるアベイラビリティゾーンの数の詳細については、『[AWS グローバルインフラストラクチャ](#)』を参照してください。

### 利用可能なリージョン

リージョン名	リージョン	エンドポイント	WhatsApp API バージョン
米国東部 (バージニア北部)	us-east-1	social-messaging.us-east-1.amazonaws.com	バージョン 20 以降
		social-messaging.us-east-1.api.aws	
		social-messaging-fips.us-east-1.amazonaws.com	
		social-messaging-fips.us-east-1.api.aws	

リージョン名	リージョン	エンドポイント	WhatsApp API バージョン
米国東部 ( オハイオ )	us-east-2	social-messaging.us-east-2.amazonaws.com  social-messaging.us-east-2.api.aws  social-messaging-fips.us-east-2.amazonaws.com  social-messaging-fips.us-east-2.api.aws	バージョン 20 以降
米国西部 (オレゴン )	us-west-2	social-messaging.us-west-2.amazonaws.com  social-messaging.us-west-2.api.aws  social-messaging-fips.us-west-2.amazonaws.com  social-messaging-fips.us-west-2.api.aws	バージョン 20 以降

リージョン名	リージョン	エンドポイント	WhatsApp API バージョン
カナダ (中部)	ca-central-1	social-messaging.ca-central-1.amazonaws.com  social-messaging.ca-central-1.api.aws  social-messaging-fips.ca-central-1.amazonaws.com  social-messaging-fips.ca-central-1.api.aws	バージョン 20 以降
アフリカ (ケープタウン)	af-south-1	social-messaging.af-south-1.amazonaws.com  social-messaging.af-south-1.api.aws	バージョン 20 以降
アジアパシフィック (東京)	ap-northeast-1	social-messaging.ap-northeast-1.amazonaws.com  social-messaging.ap-northeast-1.api.aws	バージョン 20 以降
アジアパシフィック (ソウル)	ap-northeast-2	social-messaging.ap-northeast-2.amazonaws.com  social-messaging.ap-northeast-2.api.aws	バージョン 20 以降

リージョン名	リージョン	エンドポイント	WhatsApp API バージョン
アジアパシフィック (ムンバイ)	ap-south-1	social-messaging.ap-south-1.amazonaws.com  social-messaging.ap-south-1.api.aws	バージョン 20 以降
アジアパシフィック (ハイデラバード)	ap-south-2	social-messaging.ap-south-2.amazonaws.com  social-messaging.ap-south-2.api.aws	バージョン 20 以降
アジアパシフィック (シンガポール)	ap-southeast-1	social-messaging.ap-southeast-1.amazonaws.com  social-messaging.ap-southeast-1.api.aws	バージョン 20 以降
アジアパシフィック (シドニー)	ap-southeast-2	social-messaging.ap-southeast-2.amazonaws.com  social-messaging.ap-southeast-2.api.aws	バージョン 20 以降
欧州 (フランクフルト)	eu-central-1	social-messaging.eu-central-1.amazonaws.com  social-messaging.eu-central-1.api.aws	バージョン 20 以降

リージョン名	リージョン	エンドポイント	WhatsApp API バージョン
欧州 (スペイン)	eu-south-2	social-messaging.eu-south-2.amazonaws.com social-messaging.eu-south-2.api.aws	バージョン 20 以降
欧州 (アイルランド)	eu-west-1	social-messaging.eu-west-1.amazonaws.com social-messaging.eu-west-1.api.aws	バージョン 20 以降
欧州 (ロンドン)	eu-west-2	social-messaging.eu-west-2.amazonaws.com social-messaging.eu-west-2.api.aws	バージョン 20 以降
南米 (サンパウロ)	sa-east-1	social-messaging.sa-east-1.amazonaws.com social-messaging.sa-east-1.api.aws	バージョン 20 以降

# AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのセットアップ

AWS End User Messaging Social を初めて使用する前に、次のステップを完了する必要があります。

トピック

- [にサインアップする AWS アカウント](#)
- [管理アクセスを持つユーザーを作成する](#)
- [次のステップ](#)

## にサインアップする AWS アカウント

がない場合は AWS アカウント、次の手順を実行して作成します。

にサインアップするには AWS アカウント

1. <https://portal.aws.amazon.com/billing/signup> を開きます。
2. オンラインの手順に従います。

サインアップ手順の一環として、電話またはテキストメッセージを受け取り、電話キーパッドで検証コードを入力します。

にサインアップすると AWS アカウント、AWS アカウントのルートユーザー が作成されます。ルートユーザーには、アカウントのすべての AWS のサービス とリソースへのアクセス権があります。セキュリティベストプラクティスとして、ユーザーに管理アクセス権を割り当て、[ルートユーザーアクセスが必要なタスク](#)の実行にはルートユーザーのみを使用するようにしてください。

AWS サインアッププロセスが完了すると、 から確認メールが送信されます。<https://aws.amazon.com/> の [マイアカウント] をクリックして、いつでもアカウントの現在のアクティビティを表示し、アカウントを管理することができます。

## 管理アクセスを持つユーザーを作成する

にサインアップしたら AWS アカウント、日常的なタスクにルートユーザーを使用しないように AWS アカウントのルートユーザー、のセキュリティを確保し AWS IAM Identity Center、を有効にして管理ユーザーを作成します。

を保護する AWS アカウントのルートユーザー

1. ルートユーザーを選択し、AWS アカウント E メールアドレスを入力して、アカウント所有者 [AWS Management Console](#) として にサインインします。次のページでパスワードを入力します。

ルートユーザーを使用してサインインする方法については、AWS サインイン ユーザーガイドの [ルートユーザーとしてサインインする](#) を参照してください。

2. ルートユーザーの多要素認証 (MFA) を有効にします。

手順については、IAM [ユーザーガイドの AWS アカウント 「ルートユーザー \(コンソール\) の仮想 MFA デバイス](#) を有効にする」 を参照してください。

管理アクセスを持つユーザーを作成する

1. IAM アイデンティティセンターを有効にします。

手順については、「AWS IAM Identity Center ユーザーガイド」の「[AWS IAM Identity Center の有効化](#)」を参照してください。

2. IAM アイデンティティセンターで、ユーザーに管理アクセスを付与します。

を ID ソース IAM アイデンティティセンターディレクトリとして使用する方法のチュートリアルについては、AWS IAM Identity Center 「ユーザーガイド」の「[デフォルトを使用してユーザーアクセスを設定する IAM アイデンティティセンターディレクトリ](#)」を参照してください。

管理アクセス権を持つユーザーとしてサインインする

- IAM アイデンティティセンターのユーザーとしてサインインするには、IAM アイデンティティセンターのユーザーの作成時に E メールアドレスに送信されたサインイン URL を使用します。

IAM Identity Center ユーザーを使用してサインインする方法については、AWS サインイン「ユーザーガイド」の [AWS 「アクセスポータルにサインインする](#)」を参照してください。

## 追加のユーザーにアクセス権を割り当てる

1. IAM アイデンティティセンターで、最小特権のアクセス許可を適用するというベストプラクティスに従ったアクセス許可セットを作成します。

手順については、「AWS IAM Identity Center ユーザーガイド」の「[権限設定を作成する](#)」を参照してください。

2. グループにユーザーを割り当て、そのグループにシングルサインオンアクセス権を割り当てます。

手順については、「AWS IAM Identity Center ユーザーガイド」の「[グループの結合](#)」を参照してください。

## 次のステップ

AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルを使用する準備が整いました。WhatsApp ビジネスアカウント (WABA) の作成または既存の WhatsApp ビジネスアカウントの移行[AWS End User Messaging Social の開始方法](#)については、「」を参照してください。

# AWS End User Messaging Social の開始方法

これらのトピックでは、WhatsApp Business Account (WABA) を AWS End User Messaging Social にリンクまたは移行する手順について説明します。

トピック

- [WhatsApp にサインアップする](#)

## WhatsApp にサインアップする

WhatsApp Business Account (WABA) を使用すると、ビジネスは WhatsApp Business Platform を使用して顧客にメッセージを直接送信できます。すべての WABAs は Meta ビジネスポートフォリオの一部です。WABA には、電話番号、テンプレート、WhatsApp Business Profile などの顧客向けアセットが含まれています。WhatsApp Business Profile には、ユーザーが表示するビジネスの連絡先情報が含まれています。WhatsApp ビジネスアカウントの詳細については、「」を参照してください [AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルの WhatsApp Business Account \(WABA\)](#)。

このセクションのステップに従って、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルの使用を開始します。埋め込みサインアッププロセスを使用して、新しい WhatsApp Business Account (WABA) を作成するか、既存の WABA を AWS End User Messaging Social に移行します。

## 前提条件

### Important

#### Meta/WhatsApp の使用

- WhatsApp ビジネスソリューションの使用には、[WhatsApp ビジネス利用規約](#)、[WhatsApp ビジネスソリューション利用規約](#)、[WhatsApp ビジネスメッセージングポリシー](#)、[WhatsApp メッセージングガイドライン](#)、およびそれらに参照として組み込まれているその他のすべての条件、ポリシー、またはガイドライン (それぞれが随時更新される場合があります) が適用されます。
- Meta または WhatsApp は、いつでも WhatsApp ビジネスソリューションの使用を禁止する場合があります。
- Meta と WhatsApp を使用して WhatsApp ビジネスアカウント (「WABA」) を作成する必要があります。

- Meta を使用して Business Manager アカウントを作成し、WABA にリンクする必要があります。
- お客様は、WABA の制御を当社に提供する必要があります。お客様のリクエストに応じて、Meta が提供できる方法を使用して、合理的かつタイムリーな方法で WABA の制御をお客様に移管します。
- WhatsApp ビジネスソリューションの使用に関連して、適用される法律や規制に従って、配布の保護や制限の対象となるコンテンツ、情報、またはデータを送信しません。
- WhatsApp ビジネスソリューションの使用に関する WhatsApp の料金は、[会話ベースの料金表](#)を参照してください。

- WhatsApp Business Account (WABA) を作成するには、ビジネスに [Meta Business アカウント](#)が必要です。会社がすでに Meta Business アカウントを持っているかどうかを確認します。Meta Business アカウントがない場合は、サインアッププロセス中に作成できます。
- WhatsApp Messenger アプリケーションまたは WhatsApp Business アプリケーションで既に使用されている電話番号を使用するには、まず削除する必要があります。
- SMS または音声ワンタイムパスコード (OTP) のいずれかを受信できる電話番号。サインアップに使用される電話番号は WhatsApp アカウントに関連付けられ、メッセージを送信するときに電話番号が使用されます。電話番号は引き続き SMS、MMS、音声メッセージングに使用できます。
- 既存の WABA をインポートする場合は、インポートされた WABA に関連付けられているすべての電話番号の PINs が必要です。紛失または忘れた PIN をリセットするには、WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンスの「[PIN の更新](#)」の指示に従います。

Amazon SNS トピックまたは Amazon Connect インスタンスをメッセージとイベントの宛先として使用するには、次の前提条件を満たす必要があります。

### Amazon SNS トピック

- Amazon SNS トピックが[作成され](#)、[アクセス許可](#)が追加されました。

#### Note

Amazon SNS FIFO トピックはサポートされていません。

- ( オプション ) AWS KMS キーを使用して暗号化された Amazon SNS トピックを使用するには、[既存のキーポリシー](#)に AWS End User Messaging Social アクセス許可を付与する必要があります。

## Amazon Connect インスタンス

- Amazon Connect インスタンスが[作成され](#)、[アクセス許可](#)が追加されました。

## コンソールからサインアップする

新しい WhatsApp アカウントの作成、既存のアカウントの移行、または既存の WABA への電話番号の追加を行うには、次の手順に従ってください。サインアッププロセスの一環として、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルに WhatsApp ビジネスアカウントへのアクセスを許可します。また、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルがメッセージに対して請求することを許可します。WhatsApp ビジネスアカウントの詳細については、「」を参照してください[WhatsApp ビジネスアカウントタイプについて](#)。

1. 「<https://console.aws.amazon.com/social-messaging/>.com で AWS End User Messaging Social コンソールを開きます。
2. ビジネスアカウントを選択します。
3. ビジネスアカウントのリンクページで、Facebook ポータルを起動を選択します。Meta から新しいログインウィンドウが表示されます。
4. メタログインウィンドウで、Facebook アカウントの認証情報を入力します。

WhatsApp ビジネスアカウントページで、WhatsApp 電話番号の追加を選択します。WhatsApp 電話番号の追加ページで、Facebook ポータルを起動を選択します。Meta から新しいログインウィンドウが表示されます。

5. メタログインウィンドウで、Facebook アカウントの認証情報を入力します。
6. サインアッププロセスの一環として、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルに WhatsApp Business Account (WABA) へのアクセスを許可します。また、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルがメッセージに対して請求することを許可します。[Continue] ( 続行 ) を選択します。
7. Meta Business アカウントで、既存の Meta Business アカウントを選択するか、Meta Business アカウントを作成します。

- a. (オプション) Meta Business アカウントを作成する必要がある場合は、次の手順に従います。
  - b. 会社名には、会社名を入力します。
  - c. ビジネスウェブサイトまたはプロフィールページの場合は、会社のウェブサイトの URL を入力するか、会社にウェブサイトがない場合は、ソーシャルメディアページの URL を入力します。
  - d. 国では、ビジネスがある国を選択します。
  - e. (オプション) アドレスを追加を選択し、会社の住所を入力します。
8. [Next (次へ)] を選択します。
  9. WhatsApp ビジネスアカウントを選択する で、既存の WhatsApp ビジネスアカウント (WABA) を選択するか、アカウントを作成する必要がある場合は、WhatsApp ビジネスアカウントの作成を選択します。

WhatsApp ビジネスプロフィールを作成または選択するには、既存の WhatsApp ビジネスプロフィールを選択するか、新しい WhatsApp ビジネスプロフィールを作成します。

10. [Next (次へ)] を選択します。
11. ビジネスプロフィールを作成するには、次の情報を入力します。
  - WhatsApp Business Account Name に、アカウントの名前を入力します。このフィールドは顧客向けではありません。
  - WhatsApp Business Profile の表示名には、お客様からのメッセージを受信したときに表示する名前を入力します。表示名として会社名を使用することをお勧めします。名前は Meta によってレビューされ、[WhatsApp の表示名ルール](#)に準拠する必要があります。会社名とは異なるブランド名を使用するには、会社とブランドの間に外部で公開された関連付けが必要です。この関連付けは、ウェブサイトおよび表示名のウェブサイトで表されるブランドに表示する必要があります。

登録が完了すると、Meta は表示名の確認を実行します。Meta は、表示名が承認または拒否されたかどうかを示す E メールを送信します。表示名が拒否されると、1日あたりのメッセージング制限が引き下げられ、WhatsApp から切断される可能性があります。

 Important

表示名を変更するには、Meta サポートでチケットを作成する必要があります。

- タイムゾーン で、ビジネスが配置されているタイムゾーンを選択します。
  - カテゴリ では、ビジネスに最適なカテゴリを選択します。お客様は、連絡先情報の一部としてカテゴリを表示できます。
  - ビジネスの説明 に、会社の説明を入力します。お客様は、連絡先情報の一部としてビジネスの説明を表示できます。
  - ウェブサイトには、会社のウェブサイトを入力します。お客様は、連絡先情報の一部としてウェブサイトを表示できます。
  - [Next (次へ)] を選択します。
12. WhatsApp の電話番号を追加する に登録する電話番号を入力します。この電話番号は、メッセージを送信するときに顧客に表示されます。
13. 番号の確認方法を選択する で、テキストメッセージまたは電話を選択します。
- 検証コードを受け取る準備ができたなら、次へを選択します。
  - 検証コードを入力し、次へを選択します。
14. 番号が検証されたら、次へ を選択して Meta からウィンドウを閉じることができます。
15. WhatsApp ビジネスアカウントでは、タグを展開します。オプションで、WhatsApp ビジネスアカウントにタグを追加します。
- タグはキーと値のペアであり、オプションで AWS リソースに適用してアクセスや使用状況を制御できます。新しいタグを追加を選択し、アタッチするキーと値のペアを入力します。
16. WhatsApp ビジネスアカウントには、WhatsApp WhatsApp ビジネスアカウントに関連付けられたすべてのリソースのイベントをログに記録する 1 WhatsApp つのメッセージとイベントの送信先を設定できます。顧客メッセージの受信のログ記録など、Amazon SNS でイベントログ記録を有効にするには、メッセージとイベントの発行を有効にする必要があります。詳細については、「[AWS End User Messaging Social のメッセージとイベントの送信先](#)」を参照してください。

 Important

顧客のメッセージに回答できるようにするには、メッセージとイベントの発行を有効にする必要があります。

メッセージとイベントの送信先の詳細セクションで、イベント発行を有効にします。Amazon SNS では、新しい Amazon SNS 標準トピックを選択してトピック名に名前を入力するか、既存

の Amazon SNS 標準トピックを選択してトピック arn ドロップダウンリストからトピックを選択します。

#### 17. 電話番号の下：

WhatsApp 電話番号の下にある各電話番号について：

- a. 電話番号の検証には、既存の PIN を入力するか、新しい PIN コードを入力します。紛失または忘れた PIN をリセットするには、WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンスの「[PIN の更新](#)」の指示に従ってください。
- b. 追加設定の場合：
  - i. データローカリゼーションリージョン - オプションで、保管中のデータを保存する Meta のリージョンのいずれかを選択します。Meta のデータプライバシーポリシーの詳細については、「WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンス」の「[Data Privacy & Security](#)」および「Cloud API Local Storage」を参照してください。<https://developers.facebook.com/docs/whatsapp/cloud-api/overview/local-storage/> WhatsApp
  - ii. タグはキーと値のペアであり、必要に応じて AWS リソースに適用してアクセスや使用状況を制御できます。新しいタグを追加を選択し、アタッチするキーと値のペアを入力します。

18. WhatsApp ビジネスアカウントには、WhatsApp WhatsApp ビジネスアカウントに関連付けられたすべてのリソースのイベントをログに記録する 1 WhatsApp つのメッセージとイベントの送信先を設定できます。顧客メッセージの受信のログ記録を含むイベントログ記録を有効にするには、メッセージとイベントの発行を有効にする必要があります。詳細については、「[AWS End User Messaging Social のメッセージとイベントの送信先](#)」を参照してください。

#### Important

カスタマーメッセージに回答できるようにするには、メッセージとイベントの発行を有効にする必要があります。

メッセージとイベントの送信先の詳細セクションで、イベント発行を有効にします。

#### 19. 送信先タイプで Amazon SNS または Amazon Connect を選択します。

- a. イベントを Amazon SNS 送信先に送信するには、トピック ARN に既存のトピック ARN を入力します。IAM ポリシーの例は [Amazon SNS トピックの IAM ポリシー](#) を参照してください。

## b. Amazon Connect の場合

- i. Connect インスタンスでは、ドロップダウンからインスタンスを選択します。
- ii. ロール ARN で、次のいずれかを選択します。
  - A. 既存の IAM ロールを選択する – 既存の IAM ロールドロップダウンから既存の IAM ポリシーを選択します。IAM ポリシーの例は[Amazon Connect の IAM ポリシー](#)を参照してください。
  - B. IAM ロール ARN を入力する – IAM ポリシーの ARN を既存の IAM ロール Arn を使用するに入力します。IAM ポリシーの例は[Amazon Connect の IAM ポリシー](#)を参照してください。

20. セットアップを完了するには、電話番号の追加を選択します。

## 次のステップ

サインアップが完了したら、メッセージの送信を開始できます。大規模なメッセージ送信を開始する準備ができたなら、[ビジネス検証](#)を完了します。WhatsApp ビジネスアカウントと AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルアカウントがリンクされたので、次のトピックを参照してください。

- [イベントを記録し、受信メッセージを受信するためのイベント送信先](#)について説明します。
- [メッセージテンプレート](#)を作成する方法について説明します。
- [テキストまたはメディアメッセージを送信](#)する方法について説明します。
- [メッセージの受信方法](#)について説明します。
- [公式ビジネスアカウント](#)について、表示名の横に緑色のチェックマークを付けて、メッセージのスループットを向上させる方法について説明します。

# AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルの WhatsApp Business Account (WABA)

WhatsApp ビジネスアカウント (WABA) を使用すると、WhatsApp ビジネスプラットフォームを使用して顧客にメッセージを直接送信できます。すべての WABAs は [Meta Business ポートフォリオ](#) の一部です。WhatsApp ビジネスアカウントには、電話番号、テンプレート、ビジネス連絡先情報などの顧客向けアセットが含まれています。WABA は 1 つの のみ存在できます AWS リージョン。WhatsApp Business Accounts の詳細については、[WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンス](#) の「WhatsApp Business Accounts」を参照してください。

## Important

### Meta/WhatsApp の使用

- WhatsApp ビジネスソリューションの使用には、[WhatsApp ビジネス利用規約](#)、[WhatsApp ビジネスソリューション利用規約](#)、[WhatsApp ビジネスメッセージングポリシー](#)、[WhatsApp メッセージングガイドライン](#) の利用規約、およびそれらに参照として組み込まれているその他のすべての利用規約、ポリシー、またはガイドラインが適用されます。これらは随時更新される可能性があります。
- Meta または WhatsApp は、いつでも WhatsApp ビジネスソリューションの使用を禁止する場合があります。
- Meta と WhatsApp を使用して WhatsApp Business Account (WABA) を作成する必要があります。
- Meta を使用して Business Manager アカウントを作成し、WABA にリンクする必要があります。
- お客様は、WABA の制御を当社に付与する必要があります。お客様のリクエストに応じて、Meta が提供できる方法を使用して、合理的かつタイムリーな方法で WABA の制御をお客様に移管します。
- WhatsApp Business Solution の使用に関連して、適用される法律または規制に従って、配信の保護または制限の対象となるコンテンツ、情報、またはデータを送信しません。
- WhatsApp ビジネスソリューションの使用に関する WhatsApp の料金は、<https://developers.facebook.com/docs/whatsapp/pricing://> で確認できます。

## トピック

- [AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルで WhatsApp Business Account \(WABA\) を表示する](#)
- [AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルに WhatsApp Business Account \(WABA\) を追加する](#)
- [WhatsApp ビジネスアカウントタイプについて](#)

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルで WhatsApp Business Account (WABA) を表示する

に関連付けられている WABA を表示できます AWS アカウント。

アカウントに関連付けられている WABA を表示するには

1. 「<https://console.aws.amazon.com/social-messaging/>.com で AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルコンソールを開きます。
2. ビジネスアカウントで、WABA を選択します。
3. 電話番号タブで、電話番号、表示名、品質評価、およびその日に残したビジネス開始の会話の数を表示します。

イベント送信先タブで、イベント送信先を表示します。イベント送信先を編集するには、「」の指示に従います [AWS End User Messaging Social のメッセージとイベントの送信先](#)。

テンプレートタブで、メッセージテンプレートの管理 を選択して、Meta で WhatsApp テンプレートを編集します。各 WABA には 250 個のテンプレート制限があります。

タグタブでは、WABA リソースタグを管理できます。

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルに WhatsApp Business Account (WABA) を追加する

WhatsApp Business Profile が既にある場合は、アカウントに新しい WABA を追加します。新しい WABA の作成の一環として、WABA に [電話番号](#) を追加する必要があります。

- アカウントに新しい WABA を追加するには、「」のステップに従います [AWS End User Messaging Social の開始方法](#)。

- ステップ 8 で、WhatsApp Business Profile を選択し、新しい WhatsApp Business アカウントを作成するを選択します。

## WhatsApp ビジネスアカウントタイプについて

WhatsApp ビジネスアカウントは、顧客にどのように表示されるかを決定します。WhatsApp アカウントを作成すると、アカウントはビジネスアカウントになります。WhatsApp には 2 種類のビジネスアカウントがあります。

- **ビジネスアカウント:** WhatsApp は、WhatsApp ビジネスプラットフォーム上のすべてのアカウントの信頼性を検証します。ビジネスアカウントがビジネス検証プロセスを完了すると、ビジネス名はすべてのユーザーに表示されます。この機能は、ユーザーが WhatsApp で検証済みのビジネスアカウントを識別するのに役立ちます。
- **公式ビジネスアカウント:** 公式ビジネスアカウントには、ビジネスアカウントの利点に加えて、プロフィールとチャットスレッドヘッダーにグリーンチェックマークバッジがあります。

WhatsApp 公式ビジネスアカウント (OBA) の承認には、記事、ブログ投稿、独立レビューなど、ビジネスがよく知られており、コンシューマーによって認識されている証拠を提供する必要があります。WhatsApp OBA の承認は、ビジネスから必要なドキュメントが提供されていても保証されません。承認プロセスは、WhatsApp によるレビューと承認の対象となります。WhatsApp は、公式ビジネスアカウントのアプリケーションを評価および承認するために使用する特定の基準を公開していません。WhatsApp OBA を求める企業は、評価と認識を示す必要がありますが、最終的な承認は WhatsApp の裁量に委ねられます。

WhatsApp アカウントを作成すると、アカウントはビジネスアカウントになります。ウェブサイト、住所、時間など、ビジネスに関する情報を顧客に提供できます。WhatsApp Business Verification を完了していない企業の場合、表示名はチャットリストや個々のチャットではなく、連絡先ビューの電話番号の横に小さなテキストで表示されます。メタビジネス検証が完了すると、WhatsApp 送信者の表示名がチャットリストと個々のチャットスレッドに表示されます。

## 追加リソース

- ビジネスアカウントと公式ビジネスアカウントの詳細については、WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンスの「[ビジネスアカウント](#)」を参照してください。
- ビジネス検証プロセスの詳細については、WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンスの「[ビジネス検証](#)」を参照してください。

# AWS End User Messaging Social の電話番号

すべての WhatsApp ビジネスアカウントには、WhatsApp で ID を検証するために使用される 1 つ以上の電話番号が含まれており、送信 ID の一部として使用されます。WhatsApp Business Account (WABA) に複数の電話番号を関連付け、異なるブランドの各電話番号を使用できます。

## トピック

- [WhatsApp ビジネスアカウントで使用するための電話番号に関する考慮事項](#)
- [WhatsApp Business Account \(WABA\) に電話番号を追加する](#)
- [電話番号のステータスを表示する](#)
- [AWS End User Messaging Social で電話番号の ID を表示する](#)
- [WhatsApp でメッセージング会話の制限を増やす](#)
- [WhatsApp でのメッセージスループットの向上](#)
- [WhatsApp での電話番号品質評価について](#)

## WhatsApp ビジネスアカウントで使用するための電話番号に関する考慮事項

電話番号を WhatsApp Business Account (WABA) にリンクする場合は、次の点を考慮する必要があります。

- 電話番号は一度に 1 つの WABA にのみリンクできます。
- 電話番号は引き続き SMS、MMS、音声通話に使用できます。
- 各電話番号は Meta の品質評価を受けています。

SMS 対応の電話番号は、次の方法で AWS エンドユーザーメッセージング SMS から取得できます。

1. 電話番号の[国またはリージョン](#)が双方向 SMS をサポートしていることを確認します。
2. [電話番号](#)をリクエストします。国または地域によっては、電話番号の登録が必要になる場合があります。
3. 電話番号の[双方向 SMS メッセージングを有効にします](#)。セットアップが完了すると、受信 SMS メッセージがイベント送信先に送信されます。

## WhatsApp Business Account (WABA) に電話番号を追加する

既存の WhatsApp Business Account (WABA) に電話番号を追加するか、電話番号の新しい WABA を作成できます。

### 前提条件

開始する前に、次の前提条件を満たす必要があります。

- 電話番号は、SMS または音声ワンタイムパスコード (OTP) のいずれかを受信できる必要があります。これは、WABA に追加される電話番号です。
- 電話番号を他の WABA に関連付けることはできません。

Amazon SNS トピックまたは Amazon Connect インスタンスをメッセージとイベントの宛先として使用するには、次の前提条件を満たす必要があります。

#### Amazon SNS トピック

- Amazon SNS トピックが作成され、[アクセス許可](#)が追加されました。

#### Note

Amazon SNS FIFO トピックはサポートされていません。

- ( オプション ) AWS KMS キーを使用して暗号化された Amazon SNS トピックを使用するには、[既存のキーポリシー](#)に AWS End User Messaging Social アクセス許可を付与する必要があります。

#### Amazon Connect インスタンス

- Amazon Connect インスタンスが作成され、[アクセス許可](#)が追加されました。

## WABA に電話番号を追加する

既存の WABA に新しい電話番号を追加するには

1. 「<https://console.aws.amazon.com/social-messaging/>.com で AWS End User Messaging Social コンソールを開きます。

2. ビジネスアカウントを選択し、WhatsApp 電話番号を追加します。
3. WhatsApp 電話番号の追加ページで、Facebook ポータルを起動を選択します。Meta から新しいログインウィンドウが表示されます。
4. Meta ログインウィンドウで、Meta 開発者アカウントの認証情報を入力し、ビジネスポートフォリオを選択します。
5. 電話番号を追加する WABA と WhatsApp Business Profile を選択します。
6. [Next (次へ)] を選択します。
7. WhatsApp の電話番号を追加する に登録する電話番号を入力します。この電話番号は、メッセージを送信するときに顧客に表示されます。
8. 番号の確認方法を選択する で、テキストメッセージまたは電話を選択します。
9. 検証コードを受け取る準備ができたなら、次へ を選択します。
10. 検証コードを入力し、次へを選択します。番号が検証されたら、次へ を選択して Meta からウィンドウを閉じることができます。
11. WhatsApp 電話番号 :
  - a. 電話番号の検証には、既存の PIN を入力するか、新しい PIN コードを入力します。紛失または忘れた PIN をリセットするには、WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンス」の「[PIN の更新](#)」の指示に従います。
  - b. 追加設定の場合 :
    - i. データローカリゼーションリージョン - オプションで、保管中のデータを保存する Meta のリージョンのいずれかを選択します。Meta のデータプライバシーポリシーの詳細については、「WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンス」の「[Data Privacy & Security](#)」および「Cloud API Local Storage」を参照してください。 <https://developers.facebook.com/docs/whatsapp/cloud-api/overview/local-storage/> WhatsApp
    - ii. タグはキーと値のペアであり、オプションで AWS リソースに適用してアクセスや使用状況を制御できます。新しいタグを追加を選択し、アタッチするキーと値のペアを入力します。
12. WhatsApp ビジネスアカウントには、WhatsApp WhatsApp ビジネスアカウントに関連付けられたすべてのリソースのイベントをログに記録する 1 WhatsApp つのメッセージとイベントの送信先を設定できます。顧客メッセージの受信のログ記録など、イベントログ記録を有効にするには、メッセージとイベントの発行をオンにします。詳細については、「[AWS End User Messaging Social のメッセージとイベントの送信先](#)」を参照してください。

**⚠ Important**

カスタマーメッセージに回答できるようにするには、メッセージとイベントの発行を有効にする必要があります。

メッセージとイベントの送信先の詳細セクションで、イベント発行を有効にします。

13. 送信先タイプで Amazon SNS または Amazon Connect を選択します。
  - a. イベントを Amazon SNS 送信先に送信するには、トピック ARN に既存のトピック ARN を入力します。IAM ポリシーの例は [Amazon SNS トピックの IAM ポリシー](#) を参照してください。
  - b. Amazon Connect の場合
    - i. Connect インスタンスでは、ドロップダウンからインスタンスを選択します。
    - ii. 双方向チャネルロールの場合は、次のいずれかを選択します。
      - A. 既存の IAM ロールを選択する – 既存の IAM ロールドロップダウンから既存の IAM ポリシーを選択します。IAM ポリシーの例は [Amazon Connect の IAM ポリシー](#) を参照してください。
      - B. IAM ロール ARN を入力する – IAM ポリシーの ARN を既存の IAM ロール Arn を使用するに入力します。IAM ポリシーの例は [Amazon Connect の IAM ポリシー](#) を参照してください。
14. セットアップを完了するには、電話番号の追加を選択します。

## 電話番号のステータスを表示する

AWS End User Messaging Social でメッセージを送信できるようにするには、電話番号のステータスがアクティブである必要があります。

1. 「<https://console.aws.amazon.com/social-messaging/>.com で AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルコンソールを開きます。
2. [電話番号] を選択します。
3. 電話番号 セクションの「ステータス」列には、各電話番号のステータスが表示されます。

**Note**

電話番号のステータスが不完全な設定の場合は、電話番号を選択し、セットアップの完了を選択して電話番号の設定を完了します。

## AWS End User Messaging Social で電話番号の ID を表示する

でメッセージを送信できるようにするには AWS CLI、送信時に使用する電話番号を識別するために電話番号 ID が必要です。

1. 「<https://console.aws.amazon.com/social-messaging/>.com で AWS End User Messaging Social コンソールを開きます。
2. [電話番号] を選択します。
3. 電話番号 セクションで、電話番号を選択します。
4. 電話番号の詳細セクションには、電話番号の電話番号 ID が含まれています。

## WhatsApp でメッセージング会話の制限を増やす

メッセージングの制限は、会社の電話番号が 24 時間以内に開くことができるビジネス主導の会話の最大数を指します。ビジネス電話番号は、当初、24 時間の移動期間に 250 件のビジネス主導の会話に制限されています。この制限は、メッセージの品質評価と送信するメッセージの数に基づいて、Meta によって引き上げることができます。ビジネス主導の会話では、テンプレートメッセージのみを使用できます。

顧客がメッセージを送ると、24 時間サービスウィンドウが開きます。この間、すべての [メッセージタイプ](#) を送信できます。

以下のガイドラインに従うことで、メッセージングの制限を 1,000 メッセージに引き上げることができます。

- 会社の電話番号は [アクティブステータス](#) である必要があります。
- ビジネス電話番号の [品質評価が低い](#) 場合、品質評価が改善するまで、1 日あたり 250 件のビジネス主導の会話に制限される可能性があります。
- [ビジネス検証](#) に を申請します。ビジネスが承認されると、メッセージング品質が分析され、メッセージングアクティビティがメッセージング制限の引き上げを必要とするかどうかを判断します。

分析に基づいて、メッセージング制限の引き上げリクエストは Meta によって承認または拒否されます。

- [ID 検証](#)を申請します。ID 検証を完了し、ID が確認されると、Meta はメッセージング制限の引き上げを承認します。
- 質の高い評価のテンプレートを使用して、30 日間の移行期間中に 1,000 件以上のビジネス主導の会話を開きます。会話のしきい値が 1,000 に達すると、メッセージング品質が分析され、メッセージングアクティビティがメッセージング制限の引き上げを必要とするかどうかを判断します。目標は、高品質のメッセージを一貫して送信し、メッセージングの制限を引き上げることです。

ビジネス検証またはアイデンティティ検証を完了した場合、または 1,000 件以上のビジネス会話を開いた場合、ビジネス主導の会話が 250 件に制限されている場合は、メッセージ階層のアップグレードを Meta にリクエストしてください。

ビジネスまたはアイデンティティの検証が拒否された場合は、高品質のメッセージを送信することで、承認を受ける可能性を高めることができます。高品質、準拠、オプトインのメッセージを送信することで、メッセージングのアクティビティと品質が再評価され、承認されたメッセージング機能が增加する可能性があります。

WhatsApp のメッセージング品質スコアは、最近のユーザーのフィードバックとインタラクションに基づいて計算され、より最近のデータにより多くの重みが与えられます。これにより、プラットフォームでのメッセージングの全体的な品質と信頼性を評価するのに役立ちます。

#### メッセージ制限レベルの増加

- 1K00 件のビジネス主導の会話
- 10K 件のビジネス主導の会話
- 100K 件のビジネス主導の会話
- ビジネス主導の会話の数に制限がない

## WhatsApp でのメッセージスループットの向上

メッセージスループットは、電話番号の 1 秒あたりの受信メッセージと送信メッセージ (MPS) の数です。デフォルトでは、各電話番号の MPS は 80 です。次の要件を満たすと、Meta は MPS を 1,000 に増やすことができます。

- 電話番号は、[ビジネス主導の会話](#)を無制限に送信する必要があります

- 電話番号の品質評価は中以上である必要があります。

## WhatsApp での電話番号品質評価について

電話番号とメッセージの品質は Meta によって決まります。メッセージング品質スコアは、過去 7 日間に顧客がメッセージを受信した方法に基づいており、最新のメッセージはより重み付けされています。メッセージング品質スコアは、お客様と WhatsApp ユーザー間の会話からの品質シグナルの組み合わせに基づいて計算されます。これらのシグナルには、ブロック、レポート、およびユーザーがビジネスをブロックするときに提供する理由などのユーザーフィードバックが含まれます。Meta は、最近のフィードバックとやり取りに焦点を当てて、WhatsApp で顧客が受け取ったメッセージの品質を評価します。

### WhatsApp 電話番号の品質評価

- 緑: 高品質
- 黄: 中品質
- 赤: 低品質

### WhatsApp 電話番号のステータス

- 接続済み: メッセージクォータ内でメッセージを送信できます。
- フラグ付き: 電話番号の品質が低いため、改善する必要があります。7 日間で品質が改善しない場合、電話番号のステータスは Connected に変更されますが、ビジネス主導の会話制限は 1 階層低くなります。
- 制限: 現在の 24 時間、ビジネス主導の会話制限に達しました。受信メッセージには引き続き応答できません。24 時間が終了したら、再度メッセージを送信できます。

## 電話番号の品質評価を表示する

電話番号の品質を表示するには、次の手順に従ってください。

1. 「<https://console.aws.amazon.com/social-messaging/>.com で AWS End User Messaging Social コンソールを開きます。
2. ビジネスアカウントで、WhatsApp Business Account (WABA) を選択します。
3. 電話番号タブで、電話番号、表示名、品質評価、および 1 日に残したビジネス開始の会話の数を表示します。

# AWS End User Messaging Social でのメッセージテンプレートの使用

## ⚠ Important

4/1/2025 以降、Meta は の米国国コードに送信されるマーケティングメッセージテンプレートブロックします+1。詳細については、[「WhatsApp Business Platform Cloud API Reference」の「Per-User Marketing Template Message LimitsWhatsApp」](#)を参照してください。

メッセージテンプレートを使用して、毎週のニュースレターや予約のリマインダーなど、頻繁に使用するメッセージタイプを作成できます。テンプレートメッセージは、まだメッセージを送信していないお客様、または過去 24 時間以内にメッセージを送信していないお客様に送信できる唯一のタイプのメッセージです。

メタは、各テンプレートに品質評価とステータスを割り当てます。品質評価はテンプレートのステータスに影響を与え、テンプレートのペースまたは送信レートを下げます。

テンプレートは WhatsApp Business Account (WABA) に関連付けられ、WhatsApp Manager を通じて管理され、WhatsApp によってレビューされます。

次のテンプレートタイプを送信できます。

- テキストベース
- メディアベース
- インタラクティブメッセージ
- ロケーションベース
- ワンタイムパスワードボタンを使用した認証テンプレート
- マルチ製品メッセージテンプレート

Meta には、事前に承認されたサンプルテンプレートが用意されています。詳細については、[「メッセージテンプレートのサンプル」](#)を参照してください。

メッセージテンプレートのタイプの詳細については、WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンスの[「メッセージテンプレート」](#)を参照してください。

# WhatsApp Manager でのメッセージテンプレートの使用

[WhatsApp Manager](#) を使用して、テンプレートのステータスを作成、変更、または確認します。

1. <https://console.aws.amazon.com/social-messaging/> で AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルコンソールを開きます。
2. ビジネスアカウントを選択し、WABA を選択します。
3. メッセージテンプレートタブで、メッセージテンプレートの管理を選択します。[WhatsApp マネージャー](#) 新しいウィンドウで開き、メッセージテンプレートを選択してテンプレートを管理できます。

## CreateWhatsAppMessageTemplate API を使用したメッセージテンプレートの作成

End User Messaging Social API を使用して、カスタマイズされた WhatsApp メッセージテンプレートを作成できます。このトピックでは、[CreateWhatsAppMessageTemplate](#) を使用してさまざまな WhatsApp メッセージテンプレートを作成する方法について説明します。

### メッセージテンプレートコンポーネント

WhatsApp メッセージテンプレートには、次のコンポーネントを含めることができます。

- ヘッダー: 上部に表示されるタイトルテキスト
- 本文: 可変プレースホルダーを含むメインメッセージコンテンツ
- フッター: 下部の追加情報
- ボタン: URLs にリンクするクリック可能な要素

次の例では、**ENDPOINT** と **WABA\_ID** を実際のエンドポイント URL と WhatsApp Business Account ID に置き換えます。

### 基本的な英語ユーティリティテンプレートを作成する

この例では、BODYコンポーネントのみを使用し、HEADER、FOOTERまたは BUTTONコンポーネントを含まないユーティリティメッセージテンプレートを英語で作成します。本文テキストは可変プレースホルダーを使用します。

```
$ aws social-messaging create-whats-app-message-template --region us-east-1 --endpoint-  
url ENDPOINT_URL \  
--id WABA_ID \  
--template-definition '{  
  "name": "order_update_basic",  
  "language": "en_US",  
  "allow_category_change": true,  
  "category": "UTILITY",  
  "components": [  
    {  
      "type": "BODY",  
      "text": "Hi {{1}}, your order #{{2}} has been shipped. Track your delivery  
below."  
    }  
  ]  
'
```

## ボタンを使用して基本的な英語ユーティリティテンプレートを作成する

この例では、BODY および BUTTON コンポーネントを含むユーティリティメッセージテンプレートを英語で作成します。

```
$ aws social-messaging create-whats-app-message-template --region us-east-1 --endpoint-  
url ENDPOINT_URL \  
--id WABA_ID \  
--template-definition '{  
  "name": "order_update_with_button",  
  "language": "en_US",  
  "allow_category_change": true,  
  "category": "UTILITY",  
  "components": [  
    {  
      "type": "BODY",  
      "text": "Hi {{1}}, your order #{{2}} has been shipped. Track your delivery  
below."  
    },  
    {  
      "type": "BUTTONS",  
      "buttons": [  
        {  
          "type": "URL",  
          "text": "Track Order",  

```

```
        "url": "https://example.com/track"
      }
    ]
  }
]
}'
```

## ヘッダー、本文、ボタンを使用して複雑な英語ユーティリティメッセージテンプレートを作成する

この例では、HEADER、BODY、BUTTONコンポーネントを含むユーティリティメッセージテンプレートを英語で作成します。

```
$ aws social-messaging create-whats-app-message-template --region us-east-1 --endpoint-  
url ENDPOINT_URL \  
--id WABA_ID \  
--template-definition '{  
  "name": "account_creation_confirmation_3333",  
  "category": "UTILITY",  
  "language": "en_US",  
  "status": "APPROVED",  
  "components": [  
    {  
      "type": "HEADER",  
      "format": "TEXT",  
      "text": "Finalize account set-up"  
    },  
    {  
      "type": "BODY",  
      "text": "Hi {{1}},\n\nYour new account has been created successfully. \n\nPlease  
verify {{2}} to complete your profile.",  
      "example": {  
        "body_text": [  
          [  
            "John",  
            "your email address"  
          ]  
        ]  
      }  
    },  
    {  
      "type": "BUTTONS",
```

```
    "buttons": [
      {
        "type": "URL",
        "text": "Verify account",
        "url": "https://www.example.com/"
      }
    ]
  }
]
}'
```

## 基本的なマーケティングメッセージテンプレートを作成する

この例では、BODYコンポーネントのみを含む基本的なマーケティングメッセージテンプレートを作成します。

```
$ aws social-messaging create-whats-app-message-template --region us-east-1 --endpoint-
url ENDPOINT_URL \
--id WABA_ID \
--template-definition '{
  "id": "1290345849293233",
  "name": "holiday_special_1395238",
  "category": "MARKETING",
  "language": "en_US",
  "status": "PENDING",
  "components": [
    {
      "type": "BODY",
      "text": "Season's Greetings {{1}}!\n\nCelebrate {{2}} with amazing deals up to
{{3}} off.\n\nPlus, get free gift wrapping on all orders above $50.",
      "example": {
        "body_text": [
          [
            "Pawan",
            "Christmas",
            "30%"
          ]
        ]
      }
    }
  ],
  "metaTemplateId": "1290345849293233"
```

```
}'
```

## 複雑なマーケティングメッセージテンプレートを作成する

この例では、HEADER、BODY、BUTTONコンポーネントを含むマーケティングメッセージテンプレートを英語で作成します。

```
$ aws social-messaging create-whats-app-message-template --region us-east-1 \
--endpoint-url ENDPOINT_URL \
--id WABA_ID \
--template-definition '{
  "name": "summer_sale_1",
  "category": "MARKETING",
  "language": "en_US",
  "status": "APPROVED",
  "components": [
    {
      "type": "HEADER",
      "format": "TEXT",
      "text": "Summer Sale!"
    },
    {
      "type": "BODY",
      "text": "Hi {{1}}! Get {{2}} off all summer items. Shop now before stock runs
out!"
    },
    {
      "type": "FOOTER",
      "text": "Valid until August 31st"
    },
    {
      "type": "BUTTONS",
      "buttons": [
        {
          "type": "URL",
          "text": "Shop Now",
          "url": "https://example.com/sale"
        }
      ]
    }
  ]
}'
```

## 次のステップ

テンプレートを作成または編集したら、WhatsApp でレビューのために送信する必要があります。メタのレビューには最大 24 時間かかる場合があります。Meta は Business Manager 管理者に E メールを送信し、WhatsApp マネージャーのテンプレートステータスを更新します。[WhatsApp マネージャー](#)を使用して、テンプレートのステータスを確認します。

## WhatsApp でのテンプレートのペース調整について

テンプレートのペース調整は、Meta が使用する方法です。これにより、新規または変更されたテンプレートに関するお客様からのフィードバックを早期に得ることができます。エンゲージメントやフィードバックが不十分なテンプレートを特定して一時停止するため、テンプレートコンテンツを調整してから、送信する顧客が多すぎます。これにより、顧客からの否定的なフィードバックがビジネスに影響を与えるリスクが軽減されます。たとえば、メッセージを「ブロック」する顧客が多すぎる場合や、テンプレートの読み取りレートが低い場合、テンプレートの品質評価を下げることはできません。

テンプレートのペース調整は、新しく作成されたテンプレート、一時停止されていないテンプレート、および高品質の評価がないテンプレートに影響します。テンプレートのペース調整は、多くの場合、低品質または一時停止したテンプレートの以前の履歴によって開始されます。テンプレートがペース調整されると、そのテンプレートを使用するメッセージは通常、Meta によって決定される特定のしきい値まで送信されます。その後、後続のメッセージはお客様のフィードバックに時間をかけるために保持されます。フィードバックが正の場合、テンプレートのペースはスケールアップされます。フィードバックが負の場合、テンプレートのペースを下げて、テンプレートの内容を調整できます。詳細については、WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンスの「[テンプレートのペース調整](#)」を参照してください。

## WhatsApp Manager でテンプレートのステータスの低下に関するフィードバックを取得する

Meta は、テンプレートのステータスが低下した理由に関する情報を提供します。Meta からのフィードバックを使用してテンプレートを編集し、再承認のために送信するか、別のテンプレートを使用するか、アプリケーションの動作を変更します。メッセージテンプレートを編集して再承認すると、頻繁な否定的なフィードバックや低い読み取り率を受け取らない限り、品質評価は徐々に向上します。

1. <https://console.aws.amazon.com/social-messaging/> で AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルコンソールを開きます。

2. ビジネスアカウントを選択し、WABA を選択します。
3. メッセージテンプレートタブで、メッセージテンプレートの管理を選択します。[WhatsApp マネージャー](#)が新しいウィンドウで開きます。
4. メッセージテンプレートを選択し、テンプレートにカーソルを合わせます。ツールヒントが表示され、評価が下がった理由に関するフィードバックが表示されます。

## WhatsApp でのテンプレートのステータスと品質評価について

各メッセージテンプレートには、使用状況、お客様からのフィードバック、カスタマーエンゲージメントに基づいて品質評価が割り当てられます。テンプレートは、ステータスがアクティブである場合にのみ使用できますが、品質によってテンプレートのペースが決まります。メッセージテンプレートが一貫して否定的なフィードバックを受け取ったり、エンゲージメントが低下したりすると、テンプレートのステータスが変更されます。

Meta は、否定的または肯定的なフィードバックとエンゲージメントに基づいて、テンプレートのステータスまたは品質評価を自動的に変更します。テンプレートのステータスが変更されると、WhatsApp Manager 通知、E メール、イベント通知が送信されます。[WhatsApp マネージャー](#)を使用して、テンプレートのステータスを確認します。

テンプレートが WhatsApp によって拒否された場合は、テンプレートを編集して承認のために再送信するか、WhatsApp に要請を提出できます。詳細については、「[WhatsApp Business Platform Cloud API Reference](#)」の「[Appeals](#)」を参照してください。WhatsApp

[テンプレートのステータス]	品質評価	意味
レビュー中		メッセージテンプレートはレビュー中です。これには最大 24 時間かかる場合があります。
拒否		メッセージテンプレートは拒否され、要請を提出できません。
アクティブ	保留中	メッセージテンプレートはお客様から品質フィードバックや読み取りレート情報を受信

[テンプレートのステータス]	品質評価	意味
		していませんが、メッセージの送信にも使用できます。
アクティブ	高	メッセージテンプレートは、顧客からの否定的なフィードバックをほとんどまたはまったく受け取っておらず、メッセージを送信するために使用できます。
アクティブ	Medium	メッセージテンプレートは顧客から否定的なフィードバックを受け取ったか、読み取りレートが低く、一時停止またはオフになる可能性があります。
アクティブ	低	<p>メッセージテンプレートが顧客から否定的なフィードバックを受け取ったか、読み取りレートが低い。このステータスのメッセージテンプレートを使用できますが、一時停止または無効化されるリスクがあります。</p> <p>テンプレートがアクティブ/低ステータスに移行すると、その送信は一時停止されます。最初の一時停止は 3 時間、2 番目の一時停止は 6 時間で、次の一時停止はテンプレートを無効にします。</p>

[テンプレートのステータス]	品質評価	意味
一時停止中		メッセージテンプレートは、お客様からの否定的なフィードバックが繰り返し発生するか、読み取りレートが低いいため一時停止されています。
無効		お客様からの否定的なフィードバックが繰り返し発生するため、メッセージテンプレートは無効になっています。
リクエストされたアピール		要請がリクエストされました。

## WhatsApp でテンプレートが拒否される理由

メッセージテンプレートが Meta によって確認および拒否されると、テンプレートが拒否された理由を説明する E メールが送信されます。拒否を却下するか、メッセージテンプレートを変更できます。以下は、Meta がメッセージテンプレートを拒否する一般的な理由の一部です。

- 変数パラメータには、#、\$、% などの特殊文字が含まれています。
- 変数パラメータが欠落しているか、中括弧が一致していないか、シーケンシャルではありません。
- メッセージテンプレートには、[WhatsApp コマースポリシー](#)または [WhatsApps ビジネスポリシー](#)に違反するコンテンツが含まれています。

詳細については、[「WhatsApp Business Platform Cloud API Reference」の「Common Rejection ReasonsWhatsApp」](#)を参照してください。

# AWS End User Messaging Social のメッセージとイベントの送信先

イベント送信先は、WhatsApp イベントが送信される Amazon SNS トピックまたは Amazon Connect インスタンスです。イベント発行を有効にすると、すべての送受信イベントがメッセージとイベントの送信先に送信されます。イベントを使用して、アウトバウンドメッセージと受信カスタマー通信のステータスをモニタリング、追跡、分析します。

各 WhatsApp Business Account (WABA) には、1 つのイベント送信先を設定できます。WhatsApp Business Account に関連付けられているすべてのリソースからのすべてのイベントは、そのイベント送信先にログ記録されます。例えば、3 つの電話番号が関連付けられている WhatsApp Business アカウントがあり、それらの電話番号からのすべてのイベントが 1 つのイベント送信先にログ記録されているとします。

## トピック

- [AWS End User Messaging Social にメッセージとイベントの送信先を追加する](#)
- [AWS End User Messaging Social のメッセージとイベント形式](#)
- [WhatsApp メッセージのステータス](#)

## AWS End User Messaging Social にメッセージとイベントの送信先を追加する

メッセージとイベントの発行を有効にすると、WhatsApp Business Account (WABA) によって生成されたすべてのイベントが Amazon SNS トピックに送信されます。これには、WhatsApp ビジネスアカウントに関連付けられた各電話番号のイベントが含まれます。WABA には、1 つの Amazon SNS トピックを関連付けることができます。

## 前提条件

開始する前に、Amazon SNS トピックまたは Amazon Connect インスタンスをメッセージとイベントの宛先として使用するには、次の前提条件を満たす必要があります。

### Amazon SNS トピック

- Amazon SNS トピックが [作成され](#)、[アクセス許可](#)が追加されました。

**Note**

Amazon SNS FIFO トピックはサポートされていません。

- ( オプション ) AWS KMS キーを使用して暗号化された Amazon SNS トピックを使用するには、[既存のキーポリシー](#)に AWS End User Messaging Social アクセス許可を付与する必要があります。

## Amazon Connect インスタンス

- Amazon Connect インスタンスが[作成され](#)、[アクセス許可](#)が追加されました。

## メッセージとイベントの宛先を追加する

1. 「<https://console.aws.amazon.com/social-messaging/>.com で AWS End User Messaging Social コンソールを開きます。
2. ビジネスアカウントを選択し、WABA を選択します。
3. イベント送信先タブで、送信先の編集を選択します。
4. イベント送信先を有効にするには、有効化 を選択します。
5. 送信先タイプで Amazon SNS または Amazon Connect を選択します。
  - a. イベントを Amazon SNS 送信先に送信するには、トピック ARN に既存のトピック ARN を入力します。IAM ポリシーの例は[Amazon SNS トピックの IAM ポリシー](#)を参照してください。
  - b. Amazon Connect の場合
    - i. Connect インスタンスでは、ドロップダウンからインスタンスを選択します。
    - ii. 双方向チャンネルロールの場合は、次のいずれかを選択します。
      - A. 既存の IAM ロールを選択する – 既存の IAM ロールドロップダウンから既存の IAM ポリシーを選択します。IAM ポリシーの例は[Amazon Connect の IAM ポリシー](#)を参照してください。
      - B. IAM ロール ARN を入力する – IAM ポリシーの ARN を既存の IAM ロール Arn を使用して入力します。IAM ポリシーの例は[Amazon Connect の IAM ポリシー](#)を参照してください。

6. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

## 暗号化された Amazon SNS トピックポリシー

AWS KMS キーを使用して暗号化された Amazon SNS トピックを使用して、セキュリティを強化できます。このようなセキュリティの強化は、プライベートなデータや機密性の高いデータを扱うアプリケーションに有効です。AWS KMS キーを使用した Amazon SNS トピックの暗号化の詳細については、「Amazon Simple Notification Service デベロッパーガイド」の「[AWS サービスからのイベントソースと暗号化されたトピック間の互換性を有効にする](#)」を参照してください。

### Note

Amazon SNS FIFO トピックはサポートされていません。

このステートメント例では、混乱した代理問題を回避するために、オプションですが推奨される SourceAccount および SourceArn 条件を使用し、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャル所有者アカウントのみがアクセスできます。混乱した代理問題の詳細については、[IAM ユーザーガイドの「混乱した代理問題」](#)を参照してください。

使用するキーは対称である必要があります。暗号化された Amazon SNS トピックは非対称 AWS KMS キーをサポートしていません。

キーポリシーを変更して、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルがキーを使用できるようにする必要があります。「AWS Key Management Service デベロッパーガイド」の「[キーポリシーの変更](#)」の指示に従って、既存のキーポリシーに次のアクセス許可を追加します。

```
{
  "Effect": "Allow",
  "Principal": {
    "Service": "social-messaging.amazonaws.com"
  },
  "Action": [
    "kms:GenerateDataKey*",
    "kms:Decrypt"
  ],
  "Resource": "*",
  "Condition": {
    "StringEquals": {
```

```
    "aws:SourceAccount": "{ACCOUNT_ID}"
  },
  "ArnLike": {
    "aws:SourceArn": "arn:{PARTITION}:social-messaging:{REGION}:{ACCOUNT_ID}:*"
  }
}
```

## Amazon SNS トピックの IAM ポリシー

既存の IAM ロールを使用するか、新しいロールを作成するには、そのロールに次のポリシーをアタッチして、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルがロールを引き受けられるようにします。ロールの信頼関係を変更する方法については、[IAM ユーザーガイドの「ロールの変更」](#)を参照してください。

以下は、IAM ロールのアクセス許可ポリシーです。アクセス許可ポリシーにより、は Amazon SNS トピックに発行できます。

次の IAM アクセス許可ポリシーで、次の変更を行います。

- **{PARTITION}** を、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルを使用する AWS パーティションに置き換えます。
- **{REGION}** を、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャル AWS リージョン を使用する に置き換えます。
- **{ACCOUNT}** を の一意の ID に置き換えます AWS アカウント。
- **{TOPIC\_NAME}** を、メッセージを受信する Amazon SNS トピックに置き換えます。

```
{
  "Effect": "Allow",
  "Principal": {
    "Service": [
      "social-messaging.amazonaws.com"
    ]
  },
  "Action": "sns:Publish",
  "Resource": "arn:{PARTITION}:sns:{REGION}:{ACCOUNT}:{TOPIC_NAME}"
}
```

## Amazon Connect の IAM ポリシー

AWS End User Messaging Social で既存の IAM ロールを使用する場合、または新しいロールを作成する場合は、そのロールに次のポリシーをアタッチして、AWS End User Messaging Social がロールを引き受けられるようにします。ロールの既存の信頼関係を変更する方法については、[IAM ユーザーガイド](#)の「[ロールの変更](#)」を参照してください。このロールは、イベントの送信と AWS End User Messaging Social から Amazon Connect への電話番号のインポートの両方に使用されます。

新しい IAM ポリシーを作成するには、次の手順を実行します。

1. 「IAM ユーザーガイド」の「[JSON エディタを使用したポリシーの作成](#)」の指示に従って、新しいアクセス許可ポリシーを作成します。
  - ステップ 5 では、IAM ロールのアクセス許可ポリシーを使用して、Amazon Connect への発行を許可します。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "AllowOperationsForEventDelivery",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "connect:SendIntegrationEvent"
      ],
      "Resource": "*"
    },
    {
      "Sid": "AllowOperationsForPhoneNumberImport",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "connect:ImportPhoneNumber",
        "social-messaging:GetLinkedWhatsAppBusinessAccountPhoneNumber",
        "social-messaging:TagResource"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

2. IAM ユーザーガイドの「カスタム信頼ポリシーを使用してロールを作成する」の手順に従って、新しい信頼ポリシーを作成します。 [https://docs.aws.amazon.com/IAM/latest/UserGuide/id\\_roles\\_create\\_for-custom.html](https://docs.aws.amazon.com/IAM/latest/UserGuide/id_roles_create_for-custom.html)
  - a. ステップ 4 では、IAM ロールの信頼ポリシーを使用します。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "Service": [
          "social-messaging.amazonaws.com"
        ]
      },
      "Action": "sts:AssumeRole"
    }
  ]
}
```

- b. ステップ 10 で、前のステップで作成したアクセス許可ポリシーを追加します。

## 次のステップ

Amazon SNS トピックを設定したら、エンドポイントをトピックにサブスクライブする必要があります。エンドポイントは、関連付けられたトピックに発行されたメッセージを受信し始めます。トピックへのサブスクライブの詳細については、[Amazon SNS デベロッパーガイド](#)の「[Amazon SNS トピックへのサブスクライブ](#)」を参照してください。Amazon SNS

## AWS End User Messaging Social のメッセージとイベント形式

イベントの JSON オブジェクトには、AWS イベントヘッダーと WhatsApp JSON ペイロードが含まれます。JSON WhatsApp 通知ペイロードと値のリストについては、「WhatsApp Business Platform Cloud API [リファレンス](#)」の「[Webhooks Notification Payload Reference](#)」と「[Message Status](#)」を参照してください。WhatsApp

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルイベントヘッダー

イベントの JSON オブジェクトには、AWS イベントヘッダーと WhatsApp JSON が含まれます。ヘッダーには、WhatsApp Business Account (WABA) の AWS 識別子と ARNs と電話番号が含まれます。

```
{
  "context": {
    "MetaWabaIds": [
      {
        "wabaId": "1234567890abcde",
        "arn": "arn:aws:social-messaging:us-east-1:123456789012:waba/fb2594b8a7974770b128a409e2example"
      }
    ],
    "MetaPhoneNumberIds": [
      {
        "metaPhoneNumberId": "abcde1234567890",
        "arn": "arn:aws:social-messaging:us-east-1:123456789012:phone-number-id/976c72a700aac43eaf573ae050example"
      }
    ]
  },
  "whatsappWebhookEntry": "{\\\"...JSON STRING....\"",
  "aws_account_id": "123456789012",
  "message_timestamp": "2025-01-08T23:30:43.271279391Z",
  "messageId": "6d69f07a-c317-4278-9d5c-6a84078419ec"
}
//Decoding the contents of whatsappWebhookEntry
{
//Whatsapp notification payload
}
```

前述の例のイベント：

- **1234567890##abcde** は Meta の WABA ID です。
- **abcde1234567890** は Meta の電話番号 ID です。
- **fb2594b8a7974770b128a409e2example** は WhatsApp Business Account (WABA) の ID です。
- **976c72a700aac43eaf573ae050example** は電話番号の ID です。

## メッセージを受信するための WhatsApp JSON の例

以下は、WhatsApp からの受信メッセージのイベントレコードを示しています。で WhatsApp から受信した JSON `whatsappWebhookEntry` は JSON 文字列として受信され、JSON に変換できます。フィールドとその意味のリストについては、[「WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンス」の「Webhooks Notification Payload Reference WhatsApp」](#)を参照してください。

```
{
  "context": {
    "MetaWabaIds": [
      {
        "wabaId": "1234567890abcde",
        "arn": "arn:aws:social-messaging:us-east-1:123456789012:waba/fb2594b8a7974770b128a409e2example"
      }
    ],
    "MetaPhoneNumberIds": [
      {
        "metaPhoneNumberId": "abcde1234567890",
        "arn": "arn:aws:social-messaging:us-east-1:123456789012:phone-number-id/976c72a700aac43eaf573ae050example"
      }
    ]
  },
  "whatsappWebhookEntry": "{\\\"...JSON STRING....\"}",
  "aws_account_id": "123456789012",
  "message_timestamp": "2025-01-08T23:30:43.271279391Z",
  "messageId": "6d69f07a-c317-4278-9d5c-6a84078419ec"
}
```

[jq](#) などのツールを使用して、JSON 文字列を JSON に変換できます。以下は JSON `whatsappWebhookEntry` 形式のです。

```
{
  "id": "503131219501234",
  "changes": [
    {
      "value": {
        "messaging_product": "whatsapp",
        "metadata": {
          "display_phone_number": "14255550123",
          "phone_number_id": "46271669example"
        }
      }
    }
  ]
}
```

```
    },
    "statuses": [
      {
        "id": "wamid.HBgLMTkxNzM5OTI3MzkVAgARGBJBMTM4NDdGRENEREI5Rexample",
        "status": "sent",
        "timestamp": "1736379042",
        "recipient_id": "01234567890",
        "conversation": {
          "id": "62374592e84cb58e52bdaed31example",
          "expiration_timestamp": "1736461020",
          "origin": {
            "type": "utility"
          }
        }
      },
      {
        "pricing": {
          "billable": true,
          "pricing_model": "CBP",
          "category": "utility"
        }
      }
    ]
  },
  "field": "messages"
}
]
```

## メディアメッセージを受信するための WhatsApp JSON の例

以下は、受信メディアメッセージのイベントレコードを示しています。メディアファイルを取得するには、GetWhatsAppMessageMedia API コマンドを使用します。フィールドとその意味のリストについては、[「Webhooks Notification Payload Reference」](#)を参照してください。

```
{
//AWS End User Messaging Social header
}
//Decoding the contents of whatsAppWebhookEntry
{
  "id": "365731266123456",
  "changes": [
    {
      "value": {
        "messaging_product": "whatsapp",
```

```
    "metadata": {
      "display_phone_number": "12065550100",
      "phone_number_id": "321010217760100"
    },
    "contacts": [
      {
        "profile": {
          "name": "Diego"
        },
        "wa_id": "12065550102"
      }
    ],
    "messages": [
      {
        "from": "14255550150",
        "id":
"wamid.HBgLMTQyNTY5ODgzMDIVAgASGCBDNzBDRjM5MDU2ODEwMDkwREY4ODBDRE0RjVGRkexample",
        "timestamp": "1723506230",
        "type": "image",
        "image": {
          "mime_type": "image/jpeg",
          "sha256": "BTD0xlqSZ7l02o+/upusiNStlEZhA/urkvKf143Uqjk=",
          "id": "530339869524171"
        }
      }
    ]
  },
  "field": "messages"
}
]
```

## WhatsApp メッセージのステータス

メッセージを送信すると、メッセージに関するステータスの更新が表示されます。これらの通知を受信するには、イベントログを有効にする必要があります。「」を参照してください[AWS End User Messaging Social のメッセージとイベントの送信先](#)。

### メッセージのステータス

次の表に、考えられるメッセージステータスを示します。

ステータス名	説明
削除済み	顧客はメッセージを削除し、サーバーにダウンロードされた場合はメッセージも削除する必要があります。
配信済み	メッセージは正常に顧客に配信されました。
失敗	メッセージの送信に失敗しました。
read	顧客がメッセージを読みました。このステータスは、顧客が読み取り受信を有効にしている場合にのみ送信されます。
送信済み	メッセージは送信されましたが、まだ転送中です。
警告	メッセージには、使用できない、または存在しない項目が含まれています。

## 追加リソース

詳細については、「WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンス」の [「メッセージステータス」](#) を参照してください。

# WhatsApp で送信するメディアファイルのアップロード

メディアファイルを送受信するときは、Amazon S3 バケットに保存し、WhatsApp からアップロードまたは取得する必要があります。Amazon S3 バケットは、WhatsApp Business Account (WABA) と同じ AWS アカウントと AWS リージョンに存在する必要があります。WhatsApp これらの手順は、Amazon S3 バケットの作成、ファイルのアップロード、およびファイルへの URL の構築の方法を示しています。Amazon S3 コマンドの詳細については、[「AWS CLI で高レベル \(s3\) コマンドを使用する」](#)を参照してください。の設定の詳細については AWS CLI、[「AWS Command Line Interface ユーザーガイド」](#)の[「AWS CLI の設定」](#)および[Amazon S3 ユーザーガイド](#)の[「バケットの作成」](#)および[「オブジェクトのアップロード」](#)を参照してください。

## Note

WhatsApp はメディアファイルを削除する前に 30 日間保存します。WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンスの[「メディアのアップロード」](#)を参照してください。

メディアファイルへの[署名付き URL](#)を作成することもできます。署名付き URL を使用すると、オブジェクトへの時間制限付きアクセスを許可し、他のユーザーに AWS セキュリティ認証情報やアクセス許可を要求せずにオブジェクトをアップロードできます。

1. Amazon S3 バケットを作成するには、[create-bucket](#) AWS CLI コマンドを使用します。コマンドラインで以下のコマンドを入力します。

```
aws s3api create-bucket --region 'us-east-1' --bucket BucketName
```

上記のコマンドでは:

- *us-east-1* を、WABA AWS リージョンが存在するに置き換えます。
  - *BucketName* を新しいバケットの名前に置き換えます。
2. Amazon S3 バケットにファイルをコピーするには、[cp](#) AWS CLI コマンドを使用します。コマンドラインで以下のコマンドを入力します。

```
aws s3 cp SourceFilePathAndName s3://BucketName/FileName
```

上記のコマンドでは:

- `SourceFilePathAndName` をコピーするファイルパスと名前に置き換えます。
- `BucketName` をバケットの名前に置き換えます。
- `FileName` をファイルに使用する名前に置き換えます。

送信時に使用する URL は次のとおりです。

```
s3://BucketName/FileName
```

[署名付き URL](#) を作成するには、`#####`を独自の情報に置き換えます。

```
aws s3 presign s3://amzn-s3-demo-bucket1/mydoc.txt --expires-in 604800 --region af-south-1 --endpoint-url https://s3.af-south-1.amazonaws.com
```

返される URL は次のとおりです。 `https://amzn-s3-demo-bucket1.s3.af-south-1.amazonaws.com/mydoc.txt?{Headers}`

3. `post-whatsapp-message-media` コマンドを使用して、メディアファイルを WhatsApp にアップロードします。 [post-whatsapp-message-media](#) 正常に完了すると、コマンドはメディアメッセージを送信するために必要な `{MEDIA_ID}` を返します。

```
aws socialmessaging post-whatsapp-message-media --origination-phone-number-id {ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID} --source-s3-file bucketName={BUCKET},key={MEDIA_FILE}
```

上記のコマンドで、次の操作を行います。

- `{ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID}` を電話番号の ID に置き換えます。
- `{BUCKET}` を Amazon S3 バケットの名前に置き換えます。
- `{MEDIA_FILE}` をメディアファイルの名前に置き換えます。

`--source-s3-presigned-url` の代わりに [を使用して、署名付き URL](#) を使用してアップロードすることもできます `--source-s3-file`。 `headers` フィールド `Content-Type` で追加する必要があります。両方を使用すると、 `InvalidParameterException` が返されます。

```
--source-s3-presigned-url headers={"Name":"Value"},url=https://BUCKET.s3.REGION/MEDIA_FILE
```

4. 正常に完了すると、***MEDIA\_ID*** が返されます。***MEDIA\_ID*** は、メディア [メッセージを送信するときにメディア](#) ファイルを参照するために使用されます。

## WhatsApp でサポートされているメディアファイルの種類とサイズ

メディアメッセージを送受信する場合、ファイルタイプは最大ファイルサイズでサポートされている必要があります。詳細については、「WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンス」の「[サポートされているメディアタイプ](#)」を参照してください。

### メディアファイルタイプ

#### オーディオ形式

オーディオタイプ	拡張機能	MIME タイプ	Max Size
AAC	.aac	audio/aac	16 MB
AMR	.amr	audio/amr	16 MB
MP3	.mp3	audio/mpeg	16 MB
MP4 オーディオ	.m4a	audio/mp4	16 MB
OGG オーディオ	.ogg	audio/ogg	16 MB

#### ドキュメント形式

ドキュメントタイプ	拡張機能	MIME タイプ	Max Size
[テキスト]	.text	text/plain	100 MB
Microsoft Excel	.xls、.xlsx	application/vnd.ms-excel、application/vnd.openxmlformats-officedocument.spreadsheetml.sheet	100 MB
Microsoft Word	.doc、.docx	application/msword、application/vnd.o	100 MB

ドキュメントタイプ	拡張機能	MIME タイプ	Max Size
		penxmlformats-officedocument.wordprocessingml.document	
Microsoft PowerPoint	.ppt、.pptx	application/vnd.ms-powerpoint、application/vnd.openxmlformats-officedocument.presentationml.presentation	100 MB
PDF	.pdf	アプリケーション/pdf	100 MB

### イメージ形式

イメージタイプ	拡張機能	MIME タイプ	Max Size
JPEG	.jpeg	image/jpeg	5 MB
PNG	.png	image/png	5 MB

### シール形式

シールタイプ	拡張機能	MIME タイプ	Max Size
アニメーション化されたステッカー	.webp	イメージ/ウェブ	500 KB
静的ステッカー	.webp	イメージ/ウェブ	100 KB

### 動画形式

ビデオタイプ	拡張機能	MIME タイプ	Max Size
3GPP	.3gp	ビデオ/3gp	16 MB

ビデオタイプ	拡張機能	MIME タイプ	Max Size
MP4 ビデオ	.mp4	ビデオ/mp4	16 MB

## WhatsApp メッセージタイプ

このトピックでは、サポートされているメッセージタイプとその使用について説明します。メッセージタイプのリストについては、[「WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンス」](#)の「[メッセージ](#)」を参照してください。 WhatsApp

メッセージの種類	説明
[テキスト]	顧客にテキストメッセージまたは URL を送信します。
メディア	オーディオ、ドキュメント、イメージ、ステッカー、またはビデオファイルを送信します。メディアファイルのリンクを送信することもできます。
Reaction	絵文字を、親指を上げたようなメッセージへの反応として送信します。
テンプレート	テンプレートメッセージを送信します。
場所	ロケーションを送信します。
問い合わせ	連絡先カードを送信します。
インタラクティブ	インタラクティブメッセージを送信します。

## 追加リソース

WhatsApp メッセージオブジェクトのリストについては、[「WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンス」](#)の「[メッセージWhatsApp](#)」を参照してください。

# AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルを使用して WhatsApp 経由でメッセージを送信する

メッセージを送信する前に、WhatsApp Business Account (WABA) をセットアップし、ユーザーがユーザーからメッセージを受信するようにオプトインする必要があります。詳細については、「[許可を取得する](#)」を参照してください。

ユーザーがメッセージを受信すると、カスタマーサービスウィンドウと呼ばれる 24 時間のタイマーが起動または更新されます。テンプレートメッセージを除くすべてのメッセージタイプは、お客様とユーザーの間でカスタマーサービスウィンドウが開いている場合にのみ送信できます。テンプレートメッセージは、ユーザーがユーザーからのメッセージの受信をオプトインしている限り、いつでも送信できます。

送受信するメッセージごとに、メッセージステータスが生成され、イベント送信先に送信されます。顧客が WhatsApp にサインアップしていない場合、メッセージステータスのイベントが生成されます fail。メッセージ [ステータス](#) を受信するには、[メッセージとイベントの送信先](#) を有効にする必要があります。

メッセージタイプのリストについては、「[WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンス](#)」の「[メッセージ WhatsApp](#)」を参照してください。

## Important

### Meta/WhatsApp の使用

- WhatsApp ビジネスソリューションの使用には、[WhatsApp ビジネス利用規約](#)、[WhatsApp ビジネスソリューション利用規約](#)、[WhatsApp ビジネスメッセージングポリシー](#)、[WhatsApp メッセージングガイドライン](#)、およびそれらに参照として組み込まれているその他のすべての条件、ポリシー、またはガイドラインが適用されます。これらは随時更新される可能性があります。
- Meta または WhatsApp は、いつでも WhatsApp ビジネスソリューションの使用を禁止する場合があります。
- WhatsApp ビジネスソリューションの使用に関連して、適用される法律または規制に従って、配布の保護または制限の対象となるコンテンツ、情報、またはデータを送信しません。

## トピック

- [AWS End User Messaging Social でテンプレートメッセージを送信する例](#)
- [AWS End User Messaging Social でメディアメッセージを送信する例](#)

# AWS End User Messaging Social でテンプレートメッセージを送信する例

送信できるメッセージテンプレートのタイプの詳細については、WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンスの「[メッセージテンプレート](#)」を参照してください。送信できるメッセージタイプのリストについては、「[WhatsApp Business Platform Cloud API Reference](#)」の「[MessagesWhatsApp](#)」を参照してください。

次の例は、テンプレートを使用して を使用して顧客に [メッセージを送信](#) する方法を示しています AWS CLI。の設定の詳細については AWS CLI、[AWS Command Line Interface ユーザーガイド](#) の「[の設定 AWS CLI](#)」を参照してください。

### Note

AWS CLI バージョン 2 を使用する場合は、base64 エンコーディングを指定する必要があります。これを行うには、AWS CLI パラメータを追加する `--cli-binary-format raw-in-base64-out` が、AWS CLI グローバル設定ファイルを変更します。詳細については、「[バージョン 2 のコマンドラインインターフェイスユーザーガイド](#)」の「[cli\\_binary\\_format](#)」の「」を参照してください。AWS

```
aws socialmessaging send-whatsapp-message --message
  '{"messaging_product":"whatsapp","to":"' {PHONE_NUMBER} "','type":"template","template":
{"name":"statement","language":{"code":"en_US"},"components":
[{"type":"body","parameters":[{"type":"text","text":"1000"}]}]}' --origination-phone-
number-id {ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID} --meta-api-version v20.0
```

上記のコマンドで、次の操作を行います。

- **{PHONE\_NUMBER}** を顧客の電話番号に置き換えます。
- **{ORIGINATION\_PHONE\_NUMBER\_ID}** を電話番号の ID に置き換えます。

次の例は、コンポーネントを含まないテンプレートメッセージを送信する方法を示しています。

```
aws socialmessaging send-whatsapp-message --message '{"messaging_product":
  "whatsapp","to": "'{PHONE_NUMBER}'","type": "template","template":
  {"name":"simple_template","language": {"code": "en_US"}}}' --origination-phone-number-
id {ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID} --meta-api-version v20.0
```

- `{PHONE_NUMBER}` を顧客の電話番号に置き換えます。
- `{ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID}` を電話番号の ID に置き換えます。

## AWS End User Messaging Social でメディアメッセージを送信する例

次の例は、を使用して顧客にメディアメッセージを送信する方法を示しています AWS CLI。の設定の詳細については AWS CLI、[AWS Command Line Interface ユーザーガイド](#)の「[AWS CLIの設定](#)」を参照してください。サポートされているメディアファイルタイプのリストについては、「」を参照してください[WhatsApp でサポートされているメディアファイルの種類とサイズ](#)。

### Note

WhatsApp はメディアファイルを削除する前に 30 日間保存します。WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンスの「[メディアのアップロード](#)」を参照してください。

1. メディアファイルを Amazon S3 バケットにアップロードします。詳細については、「[WhatsApp で送信するメディアファイルのアップロード](#)」を参照してください。
2. `post-Whatsapp-message-media` コマンドを使用して、メディアファイルを WhatsApp にアップロードします。[post-whatsapp-message-media](#) 正常に完了すると、コマンドはメディアメッセージを送信するために必要な `{MEDIA_ID}` を返します。

```
aws socialmessaging post-whatsapp-message-media --origination-
phone-number-id {ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID} --source-s3-file
bucketName={BUCKET},key={MEDIA_FILE}
```

上記のコマンドで、次の操作を行います。

- `{ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID}` を電話番号の ID に置き換えます。

- `{BUCKET}` を Amazon S3 バケットの名前に置き換えます。
- `{MEDIA_FILE}` をメディアファイルの名前に置き換えます。

--source-s3-presigned-url の代わりに [を使用して、署名付き URL](#) を使用してアップロードすることもできます--source-s3-file。headers フィールドContent-Typeでを追加する必要があります。両方を使用すると、InvalidParameterException が返されます。

```
--source-s3-presigned-url headers={"Name":"Value"},url=https://BUCKET.s3.REGION/MEDIA_FILE
```

3. `send-whatapp-message` コマンドを使用してメディアメッセージを送信します。

```
aws socialmessaging send-whatapp-message --message
 '{"messaging_product":"whatsapp","to":"' {PHONE_NUMBER} "',"type":"image","image":
 {"id":"' {MEDIA_ID} '"}' --origination-phone-number-id {ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID}
 --meta-api-version v20.0
```

#### Note

AWS CLI バージョン 2 を使用する場合は、base64 エンコーディングを指定する必要があります。これを行うには、AWS CLI パラメータを追加する--cli-binary-format raw-in-base64-outか、AWS CLI グローバル設定ファイルを変更します。詳細については、「バージョン 2 コマンドラインインターフェイスユーザーガイド [cli\\_binary\\_format](#)」の「」を参照してください。AWS

```
aws socialmessaging send-whatapp-message --message
 '{"messaging_product":"whatsapp","to":"' {PHONE_NUMBER} "',"type":"image","image":
 {"id":"' {MEDIA_ID} '"}' --origination-phone-number-id {ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID}
 --meta-api-version v20.0 --cli-binary-format raw-in-base64-out
```

上記のコマンドで、次の操作を行います。

- `{PHONE_NUMBER}` を顧客の電話番号に置き換えます。
- `{ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID}` を電話番号の ID に置き換えます。
- `{MEDIA_ID}` を前のステップから返されたメディア ID に置き換えます。

4. メディアファイルが不要になった場合は、`delete-whatsapp-message-media` コマンドを使用して WhatsApp から削除できます。 [delete-whatsapp-message-media](#) これにより、メディアファイルは WhatsApp からのみ削除され、Amazon S3 バケットからは削除されません。

```
aws socialmessaging delete-whatsapp-message-media --media-id {MEDIA_ID} --  
origination-phone-number-id {ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID}
```

上記のコマンドで、次の操作を行います。

- *{ORIGINATION\_PHONE\_NUMBER\_ID}* を電話番号の ID に置き換えます。
- *{MEDIA\_ID}* をメディア ID に置き換えます。

# AWS End User Messaging Social でのメッセージへの応答

テキストまたはメディアメッセージを受信する前に、WhatsApp Business Account (WABA) とイベント送信先を設定しておく必要があります。受信メッセージを受信すると、イベントはイベント送信先の Amazon SNS トピックに保存されます。通知を受信するには、Amazon SNS トピックエンドポイントをサブスクライブする必要があります。

受信したメディアメッセージのイベント例については、「」を参照してください[メディアメッセージを受信するための WhatsApp JSON の例](#)。の設定の詳細については AWS CLI、「[AWS Command Line Interface ユーザーガイド](#)」の「[の設定 AWS CLI](#)」を参照してください。サポートされているメディアファイルタイプのリストについては、「」を参照してください[WhatsApp でサポートされているメディアファイルの種類とサイズ](#)。

## ⚠ Important

受信メッセージを受信するには、WABA で[イベント送信先](#)が有効になっている必要があります。詳細については、「[AWS End User Messaging Social にメッセージとイベントの送信先を追加する](#)」を参照してください。

## AWS End User Messaging Social でメッセージのステータスを読み取りに変更する例

[メッセージのステータス](#)を に設定readして、エンドユーザーの画面に 2 つの青いチェックマークを表示できます。

```
aws socialmessaging send-whatsapp-message --message
 '{"messaging_product":"whatsapp","message_id":"' {MESSAGE_ID} ','status":"read"}' --
 origination-phone-number-id {ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID} --meta-api-version v20.0
```

上記のコマンドで、次の操作を行います。

- `{ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID}` を電話番号の ID に置き換えます。
- `{MESSAGE_ID}` をメッセージの一意の識別子に置き換えます。Amazon SNS トピックのメッセージオブジェクトで `id` フィールドの値を使用します。

## AWS End User Messaging Social でリアクションを含むメッセージに応答する例

親指を上げたような反応をメッセージに追加できます。

```
aws socialmessaging send-whatsapp-message --message
 '{"messaging_product":"whatsapp","recipient_type":"individual","to":"' {PHONE_NUMBER} ','type":
 "reaction","reaction": {"message_id": "' {MESSAGE_ID} ','emoji":"\uD83D\uDC4D"}' --
 origination-phone-number-id {ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID} --meta-api-version v20.0
```

上記のコマンドで、次の操作を行います。

- `{PHONE_NUMBER}` を顧客の電話番号に置き換えます。
- `{MESSAGE_ID}` をメッセージの一意の識別子に置き換えます。Amazon SNS トピックのメッセージオブジェクトで `id` フィールドの値を使用します。
- `{ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID}` を電話番号の ID に置き換えます。

## WhatsApp から Amazon S3 にメディアファイルをダウンロードする

メディアファイルを取得して Amazon S3 バケットに保存するには、[get-whatsapp-message-media](#) コマンドを使用します。

```
aws socialmessaging get-whatsapp-message-media --media-id {MEDIA_ID} --
 origination-phone-number-id {ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID} --destination-s3-file
 bucketName={BUCKET},key=inbound_
 {
   "mimeType": "image/jpeg",
   "fileSize": 78144
 }
```

上記のコマンドで、次の操作を行います。

- `{BUCKET}` を Amazon S3 バケットの名前に置き換えます。
- `{MEDIA_ID}` を、受信したイベントの `id` フィールドの値に置き換えます。受信メディアイベントの例については、「」を参照してください [メディアメッセージを受信するための WhatsApp JSON の例](#)。

- `{ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID}` を電話番号の ID に置き換えます。

Amazon S3 バケットからメディアを取得するには、次のコマンドを使用します。

```
aws s3 cp s3://{BUCKET}/inbound_{MEDIA_ID}.jpeg
```

上記のコマンドで、次の操作を行います。

- `{BUCKET}` を Amazon S3 バケットの名前に置き換えます。
- `{MEDIA_ID}` を前のステップから返された MEDIA\_ID に置き換えます。

## 読み取り受信とリアクションを含むメッセージへの応答の例

この例では、顧客である Diego から「Hi」というメッセージが送信され、読み取り受信とハンドウェーブ絵文字で応答しました。

### 前提条件

Diego がメッセージを送信したという通知を受信するには、イベント送信先の Amazon SNS トピックを設定し、トピックエンドポイントにサブスクライブしている必要があります。

### 応答

1. Diego からのメッセージを受信すると、トピックのエンドポイントにイベントが発行されます。以下は、トピックが発行する内容のスニペットです。

#### Note

Diego は会話を開始したため、ビジネスが開始した会話のクォータにはカウントされません。

この例 `whatsAppWebhookEntry` のは JSON 表記で示されています。を JSON sting `whatsAppWebhookEntry` から JSON に変換する例については、「」を参照してください [メッセージを受信するための WhatsApp JSON の例](#)。

```
{
  "context": {
    "MetaWabaIds": [
```

```
{
  "wabaId": "1234567890abcde",
  "arn": "arn:aws:social-messaging:us-east-1:123456789012:waba/
fb2594b8a7974770b128a409e2example"
},
"MetaPhoneNumberIds": [
  {
    "metaPhoneNumberId": "abcde1234567890",
    "arn": "arn:aws:social-messaging:us-east-1:123456789012:phone-number-
id/976c72a700aac43eaf573ae050example"
  }
],
"whatsAppWebhookEntry": "{\\\"...JSON STRING....\",
"aws_account_id": "123456789012",
"message_timestamp": "2025-01-08T23:30:43.271279391Z"
}
//Decoding the contents of whatsAppWebhookEntry
{
  "id": "365731266123456",
  "changes": [
    {
      "value": {
        "messaging_product": "whatsapp",
        "metadata": {
          "display_phone_number": "12065550100",
          "phone_number_id": "321010217712345"
        },
        "contacts": [
          {
            "profile": {
              "name": "Diego"
            },
            "wa_id": "12065550102"
          }
        ],
        "messages": [
          {
            "from": "14255550150",
            "id":
"wamid.HBgLMTQyNTY5ODgzMDIVAgASGCBDNzBDRjM5MDU2ODEwMDkwREY4ODBDRE0RjVGRkexample",
            "timestamp": "1723506035",
            "text": {
```

```

        "body": "Hi"
      },
      "type": "text"
    }
  ]
},
"field": "messages"
}
]
}

```

2. メッセージを受信した Diego を表示するには、ステータスを `read` に設定します。Diego は、デバイスのメッセージの横にある 2 つの青いチェックマークを表示します。

### Note

AWS CLI バージョン 2 を使用する場合は、base64 エンコードを指定する必要があります。これを行うには、AWS CLI パラメータを追加する `--cli-binary-format raw-in-base64-out` が、AWS CLI グローバル設定ファイルを変更します。詳細については、「バージョン 2 コマンドラインインターフェイスユーザーガイド [cli\\_binary\\_format](#)」の「」を参照してください。AWS

```

aws socialmessaging send-whatsapp-message --message
'{"messaging_product":"whatsapp","message_id":"' {MESSAGE_ID} "',"status":"read"}'
--origination-phone-number-id {ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID} --meta-api-version
v20.0

```

上記のコマンドで、次の操作を行います。

- `{ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID}` を、Diego が にメッセージを送信した電話番号 ID に置き換えます `phone-number-id-976c72a700aac43eaf573ae050example`。
- `{MESSAGE_ID}` をメッセージの一意の識別子に置き換えます。これは、受信したメッセージの `id` フィールドの値と同じです `wamid.HBGlMTQyNTY5ODgzMDIVAgASGCBDNzBDRjM5MDU20DEwMDkwREY4ODBDRE0RjVGRke`

3. Diego に手波リアクションを送信できます。

```

aws socialmessaging send-whatsapp-message --message
'{"messaging_product":"whatsapp","recipient_type":"individual","to":"' {PHONE_NUMBER} "',"ty

```

```
"reaction", "reaction": {"message_id": "'{MESSAGE_ID}'", "emoji": "\uD83D\uDC4B"}'
--origination-phone-number-id {ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID} --meta-api-version
v20.0
```

上記のコマンドで、次の操作を行います。

- `{PHONE_NUMBER}` を Diego の電話番号 に置き換えます14255550150。
- `{MESSAGE_ID}` をメッセージの一意の識別子に置き換えます。  
これは、受信したメッセージの id フィールドの値と同じです  
wamid.HBgLMTQyNTY5ODgzMDIVAgASGCBDNzBDRjM5MDU20DEwMDkwREY4ODBDRDE0RjVGRke
- `{ORIGINATION_PHONE_NUMBER_ID}` を、Diego がメッセージを送信した電話番号 ID に置き換えます。 phone-number-id-976c72a700aac43eaf573ae050example

## 追加リソース

- [イベントの送信先](#) を有効にして、イベントをログに記録し、受信メッセージを受信します。
- WhatsApp メッセージオブジェクトのリストについては、[「WhatsApp Business Platform Cloud API リファレンス」の「メッセージWhatsApp」](#) を参照してください。

# AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルの WhatsApp 請求と使用状況レポートについて

AWS End User Messaging Social には、2 種類の WhatsApp 請求レポートと使用状況レポートがあります。

- 会話ごとに課金されます
- メッセージごとに課金

これらの請求タイプとレポートタイプの詳細については、以下のトピックを参照してください。

トピック

- [会話ごとに課金されます](#)
- [メッセージごとに課金](#)

## 会話ごとに課金されます

### Note

2025 年 7 月 1 日以降、AWS End User Messaging Social では、Meta WhatsApp メッセージの会話ごとではなく、メッセージごとに課金されます。つまり、に加えて、メタ料金MetaTemplateMessageFeeConversationFeeの代わりにが AWS 課金されますMessageFee。これらの変更は、2025 年 8 月に受け取った 2025 年 7 月の請求書から毎月の請求書に含まれます。メッセージごとに課金される際の請求と使用状況レポートについては、「」を参照してください[the section called “メッセージごとに課金”](#)。

AWS End User Messaging Social チャンネルは、次の形式の 5 つのフィールドを含む使用タイプを生成します: *Region code-MessagingType-ISO-FeeDescription-FeeType*。WhatsApp の会話、WhatsApp の会話ごとに 2 WhatsApp つの請求項目がありConversationFee、AWS ごとにありますMessageFee。

テンプレートメッセージを送信して会話を開始すると、1 つの WhatsApp とごとに 1 つの WhatsApp に対して課金されますMessageFee。ConversationFee AWS これにより、24 時間の

ウィンドウが開き、同じ顧客との間で送受信した各メッセージは、AWS ごとに として請求されま  
ずMessageFee。

WhatsApp 会話のタイプと料金の詳細については、「WhatsApp ビジネスプラットフォームデベロッ  
パーガイド」の「[会話ベースの料金](#)」を参照してください。 WhatsApp

次の表は、使用タイプのフィールドに設定できる値と説明を示しています。 AWS エンドユーザー  
メッセージングソーシャルの料金の詳細については、「[エンドユーザーメッセージングの料金](#)  
AWS 」の「[WhatsApp](#)」を参照してください。

フィールド	オプション	説明
#####	<ul style="list-style-type: none"> <li>USE1 – 米国東部 (バージニア北部) リージョン</li> <li>USE2 – 米国東部 (オハイオ) リージョン</li> <li>USW2 – 米国西部 (オレゴン) リージョン</li> <li>APS3 – アジアパシフィック (ムンバイ) リージョン</li> <li>APS5 – アジアパシフィック (ハイデラバード) リージョン</li> <li>APS1 – アジアパシフィック (シンガポール) リージョン</li> <li>APS2 – アジアパシフィック (シドニー) リージョン</li> <li>EU – 欧州 (アイルランド) リージョン</li> <li>EUW2 – 欧州 (ロンドン) リージョン</li> <li>APN1 – アジアパシフィック (東京) リージョン</li> <li>APN2 – アジアパシフィック (ソウル) リージョン</li> </ul>	WhatsApp メッセージが送 受信された場所を示す AWS リージョン プレフィックス。

フィールド	オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• EUC1 – 欧州 (フランクフルト) リージョン</li> <li>• EUS2 – 欧州 (スペイン) リージョン</li> <li>• SAE1 – 南米 (サンパウロ) リージョン</li> <li>• AFS1 – アフリカ (ケープタウン) リージョン</li> <li>• CAN1 – カナダ (中部) リージョン</li> </ul>	
<i>MessagingType</i>	WhatsApp	このフィールドは、送信されるメッセージタイプを識別します。
<i>ISO</i>	<a href="#">サポートされている国</a> を表示する	メッセージの送信先の 2 桁の ISO 国コード。
<i>FeeDescription</i>	ConversationFee , MessageFee	このフィールドは、AWS ごとに WhatsApp ConversationFee または を指定し、MessageFee を指定します。

フィールド	オプション	説明
<i>FeeType</i>	Authentication , Authentication-International , Marketing , Service, Utility, Standard	<p>このフィールドには、使用された会話タイプのタイプが表示されるか、メッセージあたりの料金の標準を指定します。</p> <p><b>ビジネス開始ConversationFee</b> カテゴリ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Marketing – 意識の向上から販売の促進、顧客の再ターゲット化まで、幅広い目標を達成するために使用します。例としては、新製品、サービス、または機能の発表、ターゲットを絞ったプロモーション/オファー、カート中止のリマインダーなどがあります。</li> <li>• Utility – ユーザーアクションまたはリクエストをフォローアップするために使用されます。例としては、オプトインの確認、注文/配送管理 (配送の更新など)、アカウントの更新またはアラート (支払いリマインダーなど)、フィードバックアンケートなどがあります。</li> <li>• Authentication – ログインプロセスの複数のステップ (アカウント検証、アカウント復旧、整合性の課題など) で、ワンタイムパス</li> </ul>

フィールド	オプション	説明
		<p>コードを使用してユーザーを認証するために使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Authentication-International</b> – 同じを使用しました <b>Authentication</b> が、お客様のビジネスは別の国を拠点とする <a href="#">Authentication-International</a> 料金の対象となり、会話は国の開始時刻以降に開かれました。</li> <li>• <b>Service</b> – 顧客の問い合わせを解決するために使用されます。</li> </ul> <p>ユーザーが開始した <b>ConversationFee</b> カテゴリ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Service</b> – 顧客の問い合わせを解決するために使用されます。</li> </ul> <p><b>MessageFee</b> カテゴリ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Standard</b> – メッセージの送信または受信あたりの料金。</li> </ul>

テンプレートメッセージを送信して会話を開始すると、1つの **ConversationFee** と 1つの **MessageFee** に対して課金されます。これにより、同じ顧客に送信する各テンプレートメッセージが個別のとして請求される 24 時間のウィンドウが開きます **MessageFee**。24 時間の間に、テンプレートメッセージは同じタイプである必要があります。そうしないと、新しい会話が開始されます。

例えば、マーケティングテンプレートメッセージを顧客に送信すると、ConversationFeeと に対して課金されますMessageFee。

```
Marketing Template Message 1: APS1-WhatsApp-CA-ConversationFee-Marketing
Marketing Template Message 1: APS1-WhatsApp-CA-MessageFee-Standard
Marketing Template Message 2: APS1-WhatsApp-CA-MessageFee-Standard
```

顧客がメッセージを送信して応答した場合、新しいService会話とメッセージを開くと課金されま  
す。

```
Service Message 1: APS1-WhatsApp-CA-ConversationFee-Service
Service Message 1: APS1-WhatsApp-CA-MessageFee-Standard
Service Message 2: APS1-WhatsApp-CA-MessageFee-Standard
Service Message 3: APS1-WhatsApp-CA-MessageFee-Standard
```

## Authentication-International FeeType がいつ適用されるか

Authentication-International FeeType がある国のリストについては、AWS 「エンドユー  
ザーメッセージング料金表」の[WhatsApp](#)」を参照してください。

国呼び出しコードに Authentication-International FeeType がある WhatsApp ユーザーと  
のAuthentication会話を開くと、次の場合にその国のAuthentication-International料金が請求  
されます。

1. ビジネスは、WhatsApp ビジネスアカウント全体で 30 日間に 750K000 件を超える会話を開き、  
国通話コードが Authentication-International レートの国である WhatsApp ユーザーと  
やり取りします。詳細については、WhatsApp ビジネスプラットフォームデベロッパーガイド」  
の「[適格性](#)」を参照してください。

### Important

Meta は、ビジネスが対象であると判断した場合Authentication-International、該  
当する国と 30 日間の移行開始時刻に関する E メール通知の送信を試みます。

2. お客様のビジネスは別の国を拠点としています。ビジネスロケーションの管理の詳細について  
は、WhatsApp [ビジネスプラットフォームデベロッパーガイド](#)」の「[プライマリビジネスロケー  
ション](#)」を参照してください。
3. その国の開始時刻以降に会話が開かれた

## 例 1: Marketing テンプレートメッセージを送信する

例えば、マーケティングテンプレートメッセージを顧客に送信すると、1 つの WhatsApp と ごとに 1 つの WhatsApp に対して課金されます MessageFee。 ConversationFee AWS

```
Marketing Template Message 1: APS1-WhatsApp-CA-ConversationFee-Marketing
Marketing Template Message 1: APS1-WhatsApp-CA-MessageFee-Standard
```

## 例 2: サービスの会話を開く

サービス会話料金は、ビジネスによって開始されたアクティブな 24 時間の会話ウィンドウの範囲外にあるユーザーのインバウンドメッセージにビジネスが応答する場合に適用されます。このシナリオでは、インバウンドメッセージ ConversationFee とアウトバウンドメッセージごとに 1 つの WhatsApp と が AWS MessageFee 請求されます。

```
Service Message 1: APS1-WhatsApp-CA-ConversationFee-Service
Service Message 1: APS1-WhatsApp-CA-MessageFee-Standard
Service Message 2: APS1-WhatsApp-CA-MessageFee-Standard
Service Message 3: APS1-WhatsApp-CA-MessageFee-Standard
```

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャル請求 ISO コードと WhatsApp 会話料金のマッピング

サポートされている国

2 桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
AF	Afghanistan	Rest of Asia Pacific
AX	Aland Islands	Other
AL	Albania	Rest of Central & Eastern Europe
DZ	Algeria	Rest of Africa
AS	American Samoa	Other
AD	Andorra	Other

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
AO	Angola	Rest of Africa
AI	Anguilla	Other
AQ	Antarctica	Other
AG	Antigua and Barbuda	Other
AR	Argentina	Argentina
AM	Armenia	Rest of Central & Eastern Europe
AW	Aruba	Other
AC	Ascension Island	Other
AU	Australia	Rest of Asia Pacific
AT	Austria	Rest of Western Europe
AZ	Azerbaijan	Rest of Central & Eastern Europe
BS	Bahamas	Other
BH	Bahrain	Rest of Middle East
BD	Bangladesh	Rest of Asia Pacific
BB	Barbados	Other
BY	Belarus	Rest of Central & Eastern Europe
BE	Belgium	Rest of Western Europe
BZ	Belize	Other

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
BJ	Benin	Rest of Africa
BM	Bermuda	Other
BT	Bhutan	Other
BO	Bolivia	Rest of Latin America
BQ	Bonaire	Other
BA	Bosnia and Herzegovina	Other
BW	Botswana	Rest of Africa
BV	Bouvet Island	Other
BR	Brazil	Brazil
IO	British Indian Ocean Territory	Other
VG	British Virgin Islands	Other
BN	Brunei Darussalam	Other
BG	Bulgaria	Rest of Central & Eastern Europe
BF	BurkinaFaso	Rest of Africa
BI	Burundi	Rest of Africa
KH	Cambodia	Rest of Asia Pacific
CM	Cameroon	Rest of Africa
CA	Canada	North America
CV	Cape Verde	Other

2 桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
KY	Cayman Islands	Other
CF	Central African Republic	Other
TD	Chad	Rest of Africa
CL	Chile	Chile
CN	China	Rest of Asia Pacific
CX	Christmas Island	Other
CC	Cocos(Keeling) Islands	Other
CO	Colombia	Colombia
KM	Comoros	Other
CK	Cook Islands	Other
CR	Costa Rica	Rest of Latin America
CI	Cote d'Ivoire	Rest of Africa
HR	Croatia	Rest of Central & Eastern Europe
CW	Curacao	Other
CY	Cyprus	Other
CZ	Czech Republic	Rest of Central & Eastern Europe
CD	Democratic Republic of the Congo	Rest of Africa
DK	Denmark	Rest of Western Europe

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
DJ	Djibouti	Other
DM	Dominica	Other
DO	Dominican Republic	Rest of Latin America
EC	Ecuador	Rest of Latin America
EG	Egypt	Egypt
SV	El Salvador	Rest of Latin America
GQ	Equatorial Guinea	Other
ER	Eritrea	Rest of Africa
EE	Estonia	Other
ET	Ethiopia	Rest of Africa
SZ	Eswatini	Rest of Africa
FK	Falkland Islands	Other
FO	Faroe Islands	Other
FJ	Fiji	Other
FI	Finland	Rest of Western Europe
FR	France	France
GF	French Guiana	Other
PF	French Polynesia	Other
TF	French Southern Territories	Other
GA	Gabon	Rest of Africa

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
GM	Gambia	Rest of Africa
GE	Georgia	Rest of Central & Eastern Europe
DE	Germany	Germany
GH	Ghana	Rest of Africa
GI	Gibraltar	Other
GR	Greece	Rest of Central & Eastern Europe
GL	Greenland	Other
GD	Grenada	Other
GP	Guadeloupe	Other
GU	Guam	Other
GT	Guatemala	Rest of Latin America
GG	Guernsey	Other
GN	Guinea	Other
GW	Guinea-Bissau	Rest of Africa
GY	Guyana	Other
HT	Haiti	Rest of Latin America
HM	Heard and McDonald Islands	Other
HN	Honduras	Rest of Latin America
HK	Hong Kong	Rest of Asia Pacific

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
HU	Hungary	Rest of Central & Eastern Europe
IS	Iceland	Other
IN	India	India
ID	Indonesia	Indonesia
IQ	Iraq	Rest of Middle East
IE	Ireland	Rest of Western Europe
IM	Isle of Man	Other
IL	Israel	Israel
IT	Italy	Italy
JM	Jamaica	Rest of Latin America
JP	Japan	Rest of Asia Pacific
JE	Jersey	Other
JO	Jordan	Rest of Middle East
KZ	Kazakhstan	Other
KE	Kenya	Rest of Africa
KI	Kiribati	Other
XK	Kosovo	Other
KW	Kuwait	Rest of Middle East
KG	Kyrgyzstan	Other

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
LA	Lao PDR	Rest of Asia Pacific
LV	Latvia	Rest of Central & Eastern Europe
LB	Lebanon	Rest of Middle East
LS	Lesotho	Rest of Africa
LR	Liberia	Rest of Africa
LY	Libya	Rest of Africa
LI	Liechtenstein	Other
LT	Lithuania	Rest of Central & Eastern Europe
LU	Luxembourg	Other
MO	Macao	Other
MK	Macedonia	Rest of Central & Eastern Europe
MG	Madagascar	Rest of Africa
MW	Malawi	Rest of Africa
MY	Malaysia	Malaysia
MV	Maldives	Other
ML	Mali	Rest of Africa
MT	Malta	Other
MH	Marshall Islands	Other

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
MQ	Martinique	Other
MR	Mauritania	Rest of Africa
MU	Mauritius	Other
YT	Mayotte	Other
MX	Mexico	Mexico
FM	Micronesia	Other
MD	Moldova	Rest of Central & Eastern Europe
MC	Monaco	Other
MN	Mongolia	Rest of Asia Pacific
ME	Montenegro	Other
MS	Montserrat	Other
MA	Morocco	Rest of Africa
MZ	Mozambique	Rest of Africa
MM	Myanmar	Other
NA	Namibia	Rest of Africa
NR	Nauru	Other
NP	Nepal	Rest of Asia Pacific
NL	Netherlands	Netherlands
NC	New Caledonia	Other

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
NZ	New Zealand	Rest of Asia Pacific
NI	Nicaragua	Rest of Latin America
NE	Niger	Rest of Africa
NG	Nigeria	Nigeria
NU	Niue	Other
NF	Norfolk Island	Other
MP	Northern Mariana Islands	Other
NO	Norway	Rest of Western Europe
OM	Oman	Rest of Middle East
PK	Pakistan	Pakistan
PW	Palau	Other
PS	Palestinian Territory	Other
PA	Panama	Rest of Latin America
PG	Papua New Guinea	Rest of Asia Pacific
PY	Paraguay	Rest of Latin America
PE	Peru	Peru
PH	Philippines	Rest of Asia Pacific
PN	Pitcairn	Other
PL	Poland	Rest of Central & Eastern Europe

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
PT	Portugal	Rest of Western Europe
PR	Puerto Rico	Rest of Latin America
QA	Qatar	Rest of Middle East
CG	Republic of Congo	Other
RE	Reunion	Other
RO	Romania	Rest of Central & Eastern Europe
RU	Russian Federation	Russia
RW	Rwanda	Rest of Africa
SH	Saint Helena	Other
KN	Saint Kitts and Nevis	Other
LC	Saint Lucia	Other
PM	Saint Pierre and Miquelon	Other
VC	Saint Vincent and Grenadines	Other
BL	Saint-Barthelemy	Other
MF	Saint-Martin	Other
WS	Samoa	Other
SM	San Marino	Other
ST	Sao Tome and Principe	Other
SA	Saudi Arabia	Saudi Arabia

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
SN	Senegal	Rest of Africa
RS	Serbia	Rest of Central & Eastern Europe
SC	Seychelles	Other
SL	Sierra Leone	Rest of Africa
SG	Singapore	Rest of Asia Pacific
SX	Sint Maarten	Other
SK	Slovakia	Rest of Central & Eastern Europe
SI	Slovenia	Rest of Central & Eastern Europe
SB	Solomon Islands	Other
SO	Somalia	Rest of Africa
ZA	South Africa	South Africa
GS	South Georgia and the South Sandwich Islands	Other
KR	South Korea	Other
SS	South Sudan	Rest of Africa
ES	Spain	Spain
LK	Sri Lanka	Rest of Asia Pacific
SR	Suriname	Other

2 桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
SJ	Svalbard and Jan Mayen Islands	Other
SE	Sweden	Rest of Western Europe
CH	Switzerland	Rest of Western Europe
TW	Taiwan	Rest of Asia Pacific
TJ	Tajikistan	Rest of Asia Pacific
TZ	Tanzania	Rest of Africa
TH	Thailand	Rest of Asia Pacific
TL	Timor-Leste	Other
TG	Togo	Rest of Africa
TK	Tokelau	Other
TO	Tonga	Other
TT	Trinidad and Tobago	Other
TA	Tristan da Cunha	Other
TN	Tunisia	Rest of Africa
TR	Turkey	Turkey
TM	Turkmenistan	Rest of Asia Pacific
TC	Turks and Caicos Islands	Other
TV	Tuvalu	Other
UG	Uganda	Rest of Africa

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
UA	Ukraine	Rest of Central & Eastern Europe
AE	United Arab Emirates	United Arab Emirates
GB	United Kingdom	United Kingdom
US	United States	North America
UY	Uruguay	Rest of Latin America
UM	US Minor Outlying Islands	Other
UZ	Uzbekistan	Rest of Asia Pacific
VU	Vanuatu	Other
VA	Vatican City State	Other
VE	Venezuela	Rest of Latin America
VN	Vietnam	Rest of Asia Pacific
VI	Virgin Islands	Other
WF	Wallis and Futuna Islands	Other
EH	Western Sahara	Other
YE	Yemen	Rest of Middle East
ZM	Zambia	Rest of Africa
ZW	Zimbabwe	Other

## メッセージごとに課金

### Note

2025 年 7 月 1 日以降、AWS End User Messaging Social では、Meta WhatsApp メッセージの会話ごとではなく、メッセージごとに課金されます。つまり、に加えて、メタ料金MetaTemplateMessageFeeConversationFeeの代わりにが AWS 課金されま  
すMessageFee。これらの変更は、2025 年 8 月に受け取った 2025 年 7 月の請求書から毎月  
の請求書に含まれます。に基づく以前の請求についてはConversationFee、「」を参照し  
てください[the section called “会話ごとに課金されます”](#)。

AWS End User Messaging Social チャンネルは、次の形式の 5 つのフィールドを含む使用タイプを生成します: *Region code-MessagingType-ISO-FeeDescription-FeeType*。WhatsApp メッセージごとに、MetaTemplateMessageFeeと の 2 つの請求項目があります AWS MessageFee。

テンプレートメッセージを送信すると、1 つの WhatsApp と ごとに 1 つの WhatsApp に対して課金  
されますMessageFee。MetaTemplateMessageFee AWS

次の表は、使用タイプのフィールドに設定できる値と説明を示しています。AWS エンドユーザー  
メッセージングソーシャルの料金の詳細については、AWS 「エンドユーザーメッセージングの料  
金」の「[WhatsApp](#)」を参照してください。

フィールド	オプション	説明
#####	<ul style="list-style-type: none"> <li>USE1 – 米国東部 (バージニア北部) リージョン</li> <li>USE2 – 米国東部 (オハイオ) リージョン</li> <li>USW2 – 米国西部 (オレゴン) リージョン</li> <li>APS3 – アジアパシフィック (ムンバイ) リージョン</li> <li>APS5 – アジアパシフィック (ハイデラバード) リージョン</li> <li>APS1 – アジアパシフィック (シンガポール) リージョン</li> </ul>	WhatsApp メッセージが送受信された場所を示す AWS リージョン プレフィックス。

フィールド	オプション	説明
	<ul style="list-style-type: none"> <li>• APS2 – アジアパシフィック (シドニー) リージョン</li> <li>• EU – 欧州 (アイルランド) リージョン</li> <li>• EUW2 – 欧州 (ロンドン) リージョン</li> <li>• APN1 – アジアパシフィック (東京) リージョン</li> <li>• APN2 – アジアパシフィック (ソウル) リージョン</li> <li>• EUC1 – 欧州 (フランクフルト) リージョン</li> <li>• EUS2 – 欧州 (スペイン) リージョン</li> <li>• SAE1 – 南米 (サンパウロ) リージョン</li> <li>• AFS1 – アフリカ (ケープタウン) リージョン</li> <li>• CAN1 – カナダ (中部) リージョン</li> </ul>	
<i>MessagingType</i>	WhatsApp	このフィールドは、送信されるメッセージタイプを識別します。
<i>ISO</i>	<a href="#">サポートされている国</a> を表示する	メッセージの送信先の 2 桁の ISO 国コード。
<i>FeeDescription</i>	MetaTemplateMessageFee , MessageFee	このフィールドは、AWS ごとに WhatsApp MetaTemplateMessageFee または を指定し、MessageFee を指定します。

フィールド	オプション	説明
<i>FeeType</i>	Authentication , Authentication-International , Marketing , Service, Utility, Standard	<p>このフィールドには、使用されているメッセージのタイプが表示されるか、メッセージあたりの料金の標準を指定します。</p> <p>ビジネス開始MetaTemplateMessageFee カテゴリ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Marketing – 意識の向上から販売の促進、顧客の再ターゲット化まで、幅広い目標を達成するために使用します。例としては、新製品、サービス、または機能の発表、ターゲットを絞ったプロモーション/オファー、カート中止のリマインダーなどがあります。</li> <li>• Utility – ユーザーアクションまたはリクエストをフォローアップするために使用されます。例としては、オプトインの確認、注文/配送管理 (配送の更新など)、アカウントの更新またはアラート (支払いリマインダーなど)、フィードバックアンケートなどがあります。</li> <li>• Authentication – ログインプロセスの複数の</li> </ul>

フィールド	オプション	説明
		<p>ステップ (アカウント検証、アカウント復旧、整合性の課題など) で、ワンタイムパスコードを使用してユーザーを認証するために使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Authentication-International</b> – 同じ を使用しました <b>Authentication</b> が、お客様のビジネスは別の国を拠点とする <a href="#">Authentication-International</a> 料金の対象となり、メッセージはその国の開始時刻以降に送信されました。</li> <li>• <b>Service</b> – 顧客の問い合わせを解決するために使用されます。</li> </ul> <p><b>ユーザーが開始した MetaTemplateMessageFee</b> カテゴリ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Service</b> – 顧客の問い合わせを解決するために使用されます。</li> </ul> <p><b>MessageFee</b> カテゴリ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Standard</b> – メッセージの送信または受信あたりの料金。</li> </ul>

テンプレートメッセージを送信すると、1つの MetaTemplateMessageFee とに対して課金され、1つの MessageFee。自由形式のテキストメッセージを送信するか、受信メッセージを受信すると、1つの MessageFee に対して課金され、1つの MessageFee。

例えば、マーケティングテンプレートメッセージを顧客に送信すると、MetaTemplateMessageFee とに対して課金され、1つの MessageFee。

## Authentication-International FeeType がいつ適用されるか

Authentication-International FeeType がある国のリストについては、AWS 「エンドユーザーメッセージング料金表」の [WhatsApp](#) を参照してください。

国呼び出しコードに Authentication-International FeeType がある WhatsApp ユーザーに Authentication メッセージを送信すると、次の場合にその国の Authentication-International 料金が請求されます。

1. ビジネスは、国通話コードが Authentication-International レートの国にある WhatsApp ユーザーを持つすべての WhatsApp ビジネスアカウントで、30 日間にわたって 750K000 件を超えるメッセージを開きます。詳細については、WhatsApp ビジネスプラットフォームデベロッパーガイド」の [「適格性」](#) を参照してください。

### Important

Meta がお客様のビジネスが対象であると判断した場合 Authentication-International、該当する国と 30 日間の移行開始時刻に関する E メール通知の送信を試みます。

2. お客様のビジネスは別の国を拠点としています。ビジネスロケーションの管理の詳細については、WhatsApp [「ビジネスプラットフォームデベロッパーガイド」](#)の [「プライマリビジネスロケーション」](#) を参照してください。
3. メッセージは、その国の 30 日間の開始時刻以降に送信されました。

## 例 1: Marketing テンプレートメッセージを送信する

例えば、マーケティングテンプレートメッセージを顧客に送信すると、1つの WhatsApp とともに 1つの WhatsApp に対して課金され、1つの MessageFee。MetaTemplateMessageFee AWS

```
Marketing Template Message 1: APS1-WhatsApp-CA-MetaTemplateMessageFee-Marketing_Regular
```

## Marketing Template Message 1: APS1-WhatsApp-CA-MessageFee-Standard

## 例 2: サービスの会話を開く

サービス会話は、ユーザーが開始したメッセージを受信してから 24 時間以内にビジネスがユーザーのインバウンドメッセージに回答したときに作成されます。このシナリオでは、インバウンドメッセージとアウトバウンドメッセージ MessageFee ごとに 1 つの MetaTemplateMessageFee-Service-Regular 料金とが AWS 請求されます。たとえば、ユーザーが 1 つのメッセージを開始し、ビジネスが回答し、ユーザーが回答した場合、3 つのメッセージの料金は次のようになります。

```
User Initiated Message 1: APS1-WhatsApp-CA-MessageFee-StandardService
Business Initiated Message 2: APS1-WhatsApp-CA-MetaTemplateMessageFee-Service-Regular
Business Initiated Message 2: APS1-WhatsApp-CA-MessageFee-StandardService
User Initiated Message 3: APS1-WhatsApp-CA-MessageFee-StandardService
```

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャル請求 ISO コードと MetaTemplateMessageFee マッピング

サポートされている国

2 桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
AF	Afghanistan	Rest of Asia Pacific
AX	Aland Islands	Other
AL	Albania	Rest of Central & Eastern Europe
DZ	Algeria	Rest of Africa
AS	American Samoa	Other
AD	Andorra	Other
AO	Angola	Rest of Africa
AI	Anguilla	Other

2 桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
AQ	Antarctica	Other
AG	Antigua and Barbuda	Other
AR	Argentina	Argentina
AM	Armenia	Rest of Central & Eastern Europe
AW	Aruba	Other
AC	Ascension Island	Other
AU	Australia	Rest of Asia Pacific
AT	Austria	Rest of Western Europe
AZ	Azerbaijan	Rest of Central & Eastern Europe
BS	Bahamas	Other
BH	Bahrain	Rest of Middle East
BD	Bangladesh	Rest of Asia Pacific
BB	Barbados	Other
BY	Belarus	Rest of Central & Eastern Europe
BE	Belgium	Rest of Western Europe
BZ	Belize	Other
BJ	Benin	Rest of Africa
BM	Bermuda	Other

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
BT	Bhutan	Other
BO	Bolivia	Rest of Latin America
BQ	Bonaire	Other
BA	Bosnia and Herzegovina	Other
BW	Botswana	Rest of Africa
BV	Bouvet Island	Other
BR	Brazil	Brazil
IO	British Indian Ocean Territory	Other
VG	British Virgin Islands	Other
BN	Brunei Darussalam	Other
BG	Bulgaria	Rest of Central & Eastern Europe
BF	BurkinaFaso	Rest of Africa
BI	Burundi	Rest of Africa
KH	Cambodia	Rest of Asia Pacific
CM	Cameroon	Rest of Africa
CA	Canada	North America
CV	Cape Verde	Other
KY	Cayman Islands	Other
CF	Central African Republic	Other

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
TD	Chad	Rest of Africa
CL	Chile	Chile
CN	China	Rest of Asia Pacific
CX	Christmas Island	Other
CC	Cocos(Keeling) Islands	Other
CO	Colombia	Colombia
KM	Comoros	Other
CK	Cook Islands	Other
CR	Costa Rica	Rest of Latin America
CI	Cote d'Ivoire	Rest of Africa
HR	Croatia	Rest of Central & Eastern Europe
CW	Curacao	Other
CY	Cyprus	Other
CZ	Czech Republic	Rest of Central & Eastern Europe
CD	Democratic Republic of the Congo	Rest of Africa
DK	Denmark	Rest of Western Europe
DJ	Djibouti	Other
DM	Dominica	Other

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
DO	Dominican Republic	Rest of Latin America
EC	Ecuador	Rest of Latin America
EG	Egypt	Egypt
SV	El Salvador	Rest of Latin America
GQ	Equatorial Guinea	Other
ER	Eritrea	Rest of Africa
EE	Estonia	Other
ET	Ethiopia	Rest of Africa
SZ	Eswatini	Rest of Africa
FK	Falkland Islands	Other
FO	Faroe Islands	Other
FJ	Fiji	Other
FI	Finland	Rest of Western Europe
FR	France	France
GF	French Guiana	Other
PF	French Polynesia	Other
TF	French Southern Territories	Other
GA	Gabon	Rest of Africa
GM	Gambia	Rest of Africa

2 桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
GE	Georgia	Rest of Central & Eastern Europe
DE	Germany	Germany
GH	Ghana	Rest of Africa
GI	Gibraltar	Other
GR	Greece	Rest of Central & Eastern Europe
GL	Greenland	Other
GD	Grenada	Other
GP	Guadeloupe	Other
GU	Guam	Other
GT	Guatemala	Rest of Latin America
GG	Guernsey	Other
GN	Guinea	Other
GW	Guinea-Bissau	Rest of Africa
GY	Guyana	Other
HT	Haiti	Rest of Latin America
HM	Heard and McDonald Islands	Other
HN	Honduras	Rest of Latin America
HK	Hong Kong	Rest of Asia Pacific

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
HU	Hungary	Rest of Central & Eastern Europe
IS	Iceland	Other
IN	India	India
ID	Indonesia	Indonesia
IQ	Iraq	Rest of Middle East
IE	Ireland	Rest of Western Europe
IM	Isle of Man	Other
IL	Israel	Israel
IT	Italy	Italy
JM	Jamaica	Rest of Latin America
JP	Japan	Rest of Asia Pacific
JE	Jersey	Other
JO	Jordan	Rest of Middle East
KZ	Kazakhstan	Other
KE	Kenya	Rest of Africa
KI	Kiribati	Other
XK	Kosovo	Other
KW	Kuwait	Rest of Middle East
KG	Kyrgyzstan	Other

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
LA	Lao PDR	Rest of Asia Pacific
LV	Latvia	Rest of Central & Eastern Europe
LB	Lebanon	Rest of Middle East
LS	Lesotho	Rest of Africa
LR	Liberia	Rest of Africa
LY	Libya	Rest of Africa
LI	Liechtenstein	Other
LT	Lithuania	Rest of Central & Eastern Europe
LU	Luxembourg	Other
MO	Macao	Other
MK	Macedonia	Rest of Central & Eastern Europe
MG	Madagascar	Rest of Africa
MW	Malawi	Rest of Africa
MY	Malaysia	Malaysia
MV	Maldives	Other
ML	Mali	Rest of Africa
MT	Malta	Other
MH	Marshall Islands	Other

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
MQ	Martinique	Other
MR	Mauritania	Rest of Africa
MU	Mauritius	Other
YT	Mayotte	Other
MX	Mexico	Mexico
FM	Micronesia	Other
MD	Moldova	Rest of Central & Eastern Europe
MC	Monaco	Other
MN	Mongolia	Rest of Asia Pacific
ME	Montenegro	Other
MS	Montserrat	Other
MA	Morocco	Rest of Africa
MZ	Mozambique	Rest of Africa
MM	Myanmar	Other
NA	Namibia	Rest of Africa
NR	Nauru	Other
NP	Nepal	Rest of Asia Pacific
NL	Netherlands	Netherlands
NC	New Caledonia	Other

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
NZ	New Zealand	Rest of Asia Pacific
NI	Nicaragua	Rest of Latin America
NE	Niger	Rest of Africa
NG	Nigeria	Nigeria
NU	Niue	Other
NF	Norfolk Island	Other
MP	Northern Mariana Islands	Other
NO	Norway	Rest of Western Europe
OM	Oman	Rest of Middle East
PK	Pakistan	Pakistan
PW	Palau	Other
PS	Palestinian Territory	Other
PA	Panama	Rest of Latin America
PG	Papua New Guinea	Rest of Asia Pacific
PY	Paraguay	Rest of Latin America
PE	Peru	Peru
PH	Philippines	Rest of Asia Pacific
PN	Pitcairn	Other
PL	Poland	Rest of Central & Eastern Europe

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
PT	Portugal	Rest of Western Europe
PR	Puerto Rico	Rest of Latin America
QA	Qatar	Rest of Middle East
CG	Republic of Congo	Other
RE	Reunion	Other
RO	Romania	Rest of Central & Eastern Europe
RU	Russian Federation	Russia
RW	Rwanda	Rest of Africa
SH	Saint Helena	Other
KN	Saint Kitts and Nevis	Other
LC	Saint Lucia	Other
PM	Saint Pierre and Miquelon	Other
VC	Saint Vincent and Grenadines	Other
BL	Saint-Barthelemy	Other
MF	Saint-Martin	Other
WS	Samoa	Other
SM	San Marino	Other
ST	Sao Tome and Principe	Other
SA	Saudi Arabia	Saudi Arabia

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
SN	Senegal	Rest of Africa
RS	Serbia	Rest of Central & Eastern Europe
SC	Seychelles	Other
SL	Sierra Leone	Rest of Africa
SG	Singapore	Rest of Asia Pacific
SX	Sint Maarten	Other
SK	Slovakia	Rest of Central & Eastern Europe
SI	Slovenia	Rest of Central & Eastern Europe
SB	Solomon Islands	Other
SO	Somalia	Rest of Africa
ZA	South Africa	South Africa
GS	South Georgia and the South Sandwich Islands	Other
KR	South Korea	Other
SS	South Sudan	Rest of Africa
ES	Spain	Spain
LK	Sri Lanka	Rest of Asia Pacific
SR	Suriname	Other

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
SJ	Svalbard and Jan Mayen Islands	Other
SE	Sweden	Rest of Western Europe
CH	Switzerland	Rest of Western Europe
TW	Taiwan	Rest of Asia Pacific
TJ	Tajikistan	Rest of Asia Pacific
TZ	Tanzania	Rest of Africa
TH	Thailand	Rest of Asia Pacific
TL	Timor-Leste	Other
TG	Togo	Rest of Africa
TK	Tokelau	Other
TO	Tonga	Other
TT	Trinidad and Tobago	Other
TA	Tristan da Cunha	Other
TN	Tunisia	Rest of Africa
TR	Turkey	Turkey
TM	Turkmenistan	Rest of Asia Pacific
TC	Turks and Caicos Islands	Other
TV	Tuvalu	Other
UG	Uganda	Rest of Africa

2桁の ISO 国コード	国名	WhatsApp 会話請求リージョン
UA	Ukraine	Rest of Central & Eastern Europe
AE	United Arab Emirates	United Arab Emirates
GB	United Kingdom	United Kingdom
US	United States	North America
UY	Uruguay	Rest of Latin America
UM	US Minor Outlying Islands	Other
UZ	Uzbekistan	Rest of Asia Pacific
VU	Vanuatu	Other
VA	Vatican City State	Other
VE	Venezuela	Rest of Latin America
VN	Vietnam	Rest of Asia Pacific
VI	Virgin Islands	Other
WF	Wallis and Futuna Islands	Other
EH	Western Sahara	Other
YE	Yemen	Rest of Middle East
ZM	Zambia	Rest of Africa
ZW	Zimbabwe	Other

# AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのモニタリング

モニタリングは、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルやその他の AWS ソリューションの信頼性、可用性、パフォーマンスを維持する上で重要な部分です。AWS には、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルを監視し、問題が発生したときに報告し、必要に応じて自動アクションを実行するための以下のモニタリングツールが用意されています。

- Amazon CloudWatch は、AWS リソースと、で実行しているアプリケーションを AWS リアルタイムでモニタリングします。メトリクスの収集と追跡、カスタマイズしたダッシュボードの作成、および指定したメトリクスが指定したしきい値に達したときに通知またはアクションを実行するアラームの設定を行うことができます。例えば、CloudWatch で Amazon EC2 インスタンスの CPU 使用率などのメトリクスを追跡し、必要に応じて新しいインスタンスを自動的に起動できます。詳細については、「[Amazon CloudWatch ユーザーガイド](#)」を参照してください。
- Amazon CloudWatch Logs では、Amazon EC2 インスタンス、CloudTrail、その他ソースから得たログファイルのモニタリング、保存、およびアクセスが可能です。CloudWatch Logs は、ログファイル内の情報をモニタリングし、特定のしきい値が満たされたときに通知します。高い耐久性を備えたストレージにログデータをアーカイブすることも可能です。詳細については、「[Amazon CloudWatch Logs ユーザーガイド](#)」を参照してください。
- AWS CloudTrail は、AWS アカウントによって、またはアカウントに代わって行われた API コールおよび関連イベントをキャプチャし、指定した Amazon S3 バケットにログファイルを配信します。呼び出し元のユーザーとアカウント AWS、呼び出し元の送信元 IP アドレス、呼び出しの発生日時を特定できます。詳細については、「[AWS CloudTrail ユーザーガイド](#)」を参照してください。

## Amazon CloudWatch による AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのモニタリング

CloudWatch を使用して AWS CloudWatch は raw データを収集し、読み取り可能なほぼリアルタイムのメトリクスに加工します。これらの統計は 15 か月間保持されるため、履歴情報にアクセスし、ウェブアプリケーションまたはサービスの動作をよりの確に把握できます。また、特定のしきい値を監視するアラームを設定し、これらのしきい値に達したときに通知を送信したりアクションを実行したりできます。詳細については、「[Amazon CloudWatch ユーザーガイド](#)」を参照してください。

AWS End User Messaging Social では、`WhatsAppMessageFeeCount`、支出のしきい値に達したときにアラームを監視`WhatsAppConversationFeeCount`してトリガーすることもできます。

### Note

CloudWatch メトリクスを使用する前に、[サービスリンクロールを作成](#)する必要があります。

次の表に、AWS End User Messaging Social がAWS/SocialMessaging名前空間にエクスポートするメトリクスとディメンションを示します。

メトリクス	単位	説明
<code>WhatsAppConversationFeeCount</code>	カウント	WhatsApp 会話料金の数
<code>WhatsAppMessageFeeCount</code>	カウント	WhatsApp メッセージ料金の数
<code>MetaTemplateMessageFeeCount</code>	カウント	メタテンプレートメッセージ料金の数

### Note

`WhatsAppConversationFeeCount` メトリクスは、2025 年 7 月 1 日以降は使用できません。

ディメンション	説明
<code>MessageFeeType</code>	有効な料金タイプは標準です
<code>DestinationCountryCode</code>	国の 2 文字の ISO コード
<code>WhatsAppPhoneNumberArn</code>	電話番号の ARN

ディメンション	説明
MetaTemplateMessageFeeType	有効な料金タイプは、通常、free_customer_service、free_entry_point です。
MetaTemplateMessageFeeCategory	有効な料金カテゴリは、サービス、マーケティング、ユーティリティ、認証、Authentication_international です。
ConversationFeeType	有効な料金カテゴリは、サービス、マーケティング、ユーティリティ、認証、Authentication_international です。

 Note

ConversationFeeType 分割は、2025 年 7 月 1 日以降は使用できません。

## を使用した AWS エンドユーザーメッセージングソーシャル API コールのログ記録 AWS CloudTrail

AWS End User Messaging Social は、ユーザー[AWS CloudTrail](#)、ロール、または [IAM Identity Center](#) によって実行されたアクションを記録するサービスであると統合されています AWS のサービス。CloudTrail は、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのすべての API コールをイベントとしてキャプチャします。キャプチャされた呼び出しには、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルコンソールからの呼び出しと AWS、エンドユーザーメッセージングソーシャル API オペレーションへのコード呼び出しが含まれます。CloudTrail によって収集された情報を使用して、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルに対して行われたリクエスト、リクエスト元の IP アドレス、リクエスト日時などの詳細を確認できます。

各イベントまたはログエントリには、誰がリクエストを生成したかという情報が含まれます。アイデンティティ情報は、以下を判別するのに役立ちます。

- ルートユーザーまたはユーザー認証情報のどちらを使用してリクエストが送信されたか。
- リクエストが IAM Identity Center ユーザーに代わって行われたかどうか。

- リクエストがロールまたはフェデレーションユーザーのテンポラリなセキュリティ認証情報を使用して行われたかどうか。
- リクエストが、別の AWS のサービスによって送信されたかどうか。

アカウント AWS アカウント を作成すると CloudTrail は アクティブになり、CloudTrail イベント履歴に自動的にアクセスできます。CloudTrail の [イベント履歴] では、AWS リージョンで過去 90 日間に記録された 管理イベントの表示、検索、およびダウンロードが可能で、変更不可能な記録を確認できます。詳細については、「AWS CloudTrail ユーザーガイド」の「[CloudTrail イベント履歴の使用](#)」を参照してください。[イベント履歴] の閲覧には CloudTrail の料金はかかりません。

AWS アカウント 過去 90 日間のイベントの継続的な記録については、証跡または [CloudTrail Lake](#) イベントデータストアを作成します。

## CloudTrail 証跡

追跡により、CloudTrail はログファイルを Amazon S3 バケットに配信できます。を使用して作成されたすべての証跡 AWS Management Console はマルチリージョンです。AWS CLIを使用する際は、単一リージョンまたは複数リージョンの証跡を作成できます。アカウント AWS リージョン 内のすべての アクティビティをキャプチャするため、マルチリージョン証跡を作成することをお勧めします。単一リージョンの証跡を作成する場合、証跡の AWS リージョンに記録されたイベントのみを表示できます。証跡の詳細については、「AWS CloudTrail ユーザーガイド」の「[AWS アカウントの証跡の作成](#)」および「[組織の証跡の作成](#)」を参照してください。

証跡を作成すると、進行中の管理イベントのコピーを 1 つ無料で CloudTrail から Amazon S3 バケットに配信できますが、Amazon S3 ストレージには料金がかかります。CloudTrail の料金の詳細については、「[AWS CloudTrail の料金](#)」を参照してください。Amazon S3 の料金に関する詳細については、「[Amazon S3 の料金](#)」を参照してください。

## CloudTrail Lake イベントデータストア

[CloudTrail Lake] を使用すると、イベントに対して SQL ベースのクエリを実行できます。CloudTrail Lake は、行ベースの JSON 形式の既存のイベントを [Apache ORC](#) 形式に変換します。ORC は、データを高速に取得するために最適化された単票ストレージ形式です。イベントは、イベントデータストアに集約されます。イベントデータストアは、[高度なイベントセレクト](#)を適用することによって選択する条件に基づいた、イベントのイミュータブルなコレクションです。どのイベントが存続し、クエリに使用できるかは、イベントデータストアに適用するセレクトが制御します。CloudTrail Lake の詳細については、AWS CloudTrail ユーザーガイドの [AWS CloudTrail 「Lake の使用](#)」を参照してください。

CloudTrail Lake のイベントデータストアとクエリにはコストがかかります。イベントデータストアを作成する際に、イベントデータストアに使用する[料金オプション](#)を選択します。料金オプションによって、イベントの取り込みと保存にかかる料金、および、そのイベントデータストアのデフォルトと最長の保持期間が決まります。CloudTrail の料金の詳細については、「[AWS CloudTrail の料金](#)」を参照してください。

## AWS CloudTrail でのエンドユーザーメッセージングソーシャルデータイベント

[データイベント](#)では、リソース上またはリソース内で実行されるリソースオペレーション (Amazon S3 オブジェクトの読み取りまたは書き込みなど) についての情報が得られます。これらのイベントは、データプレーンオペレーションとも呼ばれます。データイベントは、多くの場合、高ボリュームのアクティビティです。デフォルトでは、CloudTrail はデータイベントをログ記録しません。CloudTrail [イベント履歴] にはデータイベントは記録されません。

追加の変更がイベントデータに適用されます。CloudTrail の料金の詳細については、「[AWS CloudTrail の料金](#)」を参照してください。

CloudTrail コンソール、または CloudTrail CloudTrail API オペレーションを使用して AWS CLI、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルリソースタイプのデータイベントをログに記録できます。データイベントをログに記録する方法の詳細については、「AWS CloudTrail ユーザーガイド」の「[AWS Management Consoleを使用したデータイベントのログ記録](#)」および「[AWS Command Line Interfaceを使用したデータイベントのログ記録](#)」を参照してください。

次の表に、データイベントをログ記録できる AWS End User Messaging Social リソースタイプを示します。データイベントタイプ (コンソール) 列には、CloudTrail コンソールの [データイベントタイプ] リストから選択する値が表示されます。resources.type 値列には、AWS CLI または CloudTrail APIs を使用して高度なイベントセレクタを設定するときに指定する resources.type 値が表示されます。CloudTrail に記録されたデータ API 列には、リソースタイプの CloudTrail にログ記録された API コールが表示されます。

データイベントタイプ (コンソール)	resources.type 値	CloudTrail にログ記録されたデータ API
ソーシャルメッセージングの電話番号 ID	AWS::SocialMessaging::PhoneNumberId	<ul style="list-style-type: none"> <li><a href="#">DeleteWhatsAppMessageMedia</a></li> </ul>

データイベントタイプ (コンソール)	resources.type 値	CloudTrail にログ記録されたデータ API
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">GetWhatsAppMessageMedia</a></li> <li>• <a href="#">PostWhatsAppMessageMedia</a></li> <li>• <a href="#">SendWhatsAppMessage</a></li> </ul>

eventName、readOnly、および resources.ARN フィールドでフィルタリングして、自分にとって重要なイベントのみをログに記録するように高度なイベントセレクタを設定できます。オブジェクトの詳細については、「AWS CloudTrail API リファレンス」の「[AdvancedFieldSelector](#)」を参照してください。

## AWS CloudTrail でのエンドユーザーメッセージングソーシャル管理イベント

[管理イベント](#)は、のリソースで実行される管理オペレーションに関する情報を提供します AWS アカウント。これらのイベントは、コントロールプレーンオペレーションとも呼ばれます。CloudTrail は、デフォルトで管理イベントをログ記録します。

AWS End User Messaging Social は、すべての AWS End User Messaging Social コントロールプレーンオペレーションを管理イベントとしてログに記録します。AWS End User Messaging Social が CloudTrail に記録する AWS End User Messaging Social コントロールプレーンオペレーションのリストについては、[AWS 「End User Messaging Social API リファレンス」](#)を参照してください。

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルイベントの例

各イベントは任意の送信元からの単一のリクエストを表し、リクエストされた API オペレーション、オペレーションの日時、リクエストパラメータなどに関する情報を含みます。CloudTrail ログファイルは、パブリック API コールの順序付けられたスタックトレースではないため、イベントは特定の順序で表示されません。

次の例は、 オペレーションを示す CloudTrail イベントを示しています。

```
{
  "eventVersion": "1.09",
  "userIdentity": {
```

```
    "type": "AssumedRole",
    "principalId": "GR632462JDSBDSHHGS39:session",
    "arn": "arn:aws:sts::123456789101:assumed-role/Role_name/Session_name",
    "accountId": "123456789101",
    "accessKeyId": "12345678901234567890",
    "sessionContext": {
      "sessionIssuer": {
        "type": "Role",
        "principalId": "GR632462JDSBDEXAMPLE",
        "arn": "arn:aws:sts::123456789101:assumed-role/Role_name/
Session_name",
        "accountId": "123456789101",
        "userName": "user"
      },
      "attributes": {
        "creationDate": "2024-10-03T17:25:08Z",
        "mfaAuthenticated": "false"
      }
    }
  },
  "eventTime": "2024-10-03T17:25:23Z",
  "eventSource": "social-messaging.amazonaws.com",
  "eventName": "SendWhatsAppMessage",
  "awsRegion": "us-east-1",
  "sourceIPAddress": "1.x.x.x",
  "userAgent": "agent",
  "requestParameters": {
    "originationPhoneNumberId": "phone-number-id-
aa012345678901234567890123456789",
    "metaApiVersion": "v20.0",
    "message": "Hi"
  },
  "responseElements": {
    "messageId": "message_id"
  },
  "requestID": "request_id",
  "eventID": "event_id",
  "readOnly": false,
  "resources": [{
    "accountId": "123456789101",
    "type": "AWS::SocialMessaging::PhoneNumberId",
    "ARN": "arn:aws:social-messaging:us-east-1:123456789101:phone-number-id/
phone-number-id-aa012345678901234567890123456789"
  }],
```

```
"eventType": "AwsApiCall",
"managementEvent": false,
"recipientAccountId": "123456789101",
"eventCategory": "Data",
"tlsDetails": {
  "clientProvidedHostHeader": "social-messaging.us-east-1.amazonaws.com"
}
}
```

CloudTrail レコードの内容については、「AWS CloudTrail ユーザーガイド」の「[CloudTrail record contents](#)」を参照してください。

# AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのベストプラクティス

このセクションでは、カスタマーエンゲージメントを向上させ、アカウントの停止を回避するのに役立ついくつかのベストプラクティスについて説明します。ただし、このセクションには法的なアドバイスは含まれていないことに注意してください。法的なアドバイスを受けるには、弁護士に相談してください。

WhatsApp のベストプラクティスの最新リストについては、「[WhatsApp ビジネスメッセージングポリシー](#)」を参照してください。

## トピック

- [Up-to-dateビジネスプロフィール](#)
- [許可を取得する](#)
- [禁止メッセージの内容](#)
- [顧客リストを監査する](#)
- [エンゲージメントに基づく送信を調整する](#)
- [適切な時間に送信する](#)

## Up-to-dateビジネスプロフィール

E メールアドレス、ウェブサイトアドレス、電話番号などのカスタマーサポートの連絡先情報を含む、正確でup-to-date WhatsApp Business プロフィールを維持します。提供された情報が誠実であり、別のビジネスを偽ったり偽装したりしていないことを確認します。

## 許可を取得する

送信する予定のメッセージについて特定のタイプの受信を明示的に要求していない受信者には、決してメッセージを送信しないでください。次のオプトイン情報を保持します。

- オプトインプロセスでは、WhatsApp 経由でビジネスからメッセージまたは通話を受信することに同意していることをユーザーに明確に通知する必要があります。ビジネスの名前を明示的に記述する必要があります。

- お客様は、オプトインの同意を取得する方法を決定する責任を単独で負います。オプトインプロセスが、コミュニケーションに適用されるすべての適用法に準拠していることを確認します。必要なすべての通知を提供し、関連する法律で必要なすべての許可を取得します。

WhatsApp オプトイン要件の詳細については、[「Get Opt-in for WhatsApp」](#)を参照してください。

受信者がオンラインフォームを使用してメッセージを受信するためにサインアップできる場合は、自動スクリプトが知らないユーザーをサブスクライブしないようにします。また、ユーザーが1回のセッションで電話番号を送信できる回数を制限します。

WhatsApp のオン/オフを問わず、連絡先リストからそのユーザーを削除するなど、通信をブロック、中止、またはオプトアウトするために行われたすべてのリクエストを尊重します。

日付、時刻、各オプトインリクエストおよび確認のソースが含まれる記録を保持してください。これは、顧客リストの定期的な監査の実行にも役立ちます。

## 禁止メッセージの内容

### Important

#### Meta/WhatsApp の使用

- WhatsApp ビジネスソリューションの使用には、[WhatsApp ビジネス利用規約](#)、[WhatsApp ビジネスソリューション利用規約](#)、[WhatsApp ビジネスメッセージングポリシー](#)、[WhatsApp メッセージングガイドライン](#)、およびそれらに参照として組み込まれているその他のすべての条件、ポリシー、またはガイドライン (それぞれが随時更新される場合があります) の条件が適用されます。
- Meta または WhatsApp は、いつでも WhatsApp ビジネスソリューションの使用を禁止する場合があります。
- WhatsApp ビジネスソリューションの使用に関連して、適用される法律または規制に従って、配信の保護または制限の対象となるコンテンツ、情報、またはデータを送信しません。

WhatsApp ポリシーに違反すると、アカウントが一定期間メッセージの送信をブロックされたり、要請を提出するまでロックされたり、完全にブロックされたりする可能性があります。Meta は、アカウントまたはアセットがポリシーに違反したかどうかを E メールと WhatsApp Business Manager

を通じて通知します。すべての要請は Meta に対して行う必要があります。ポリシー違反を表示したり、Meta で要請を提出したりするには、Meta Business ヘルプセンターの「[WhatsApp Business アカウントのポリシー違反の詳細を表示する](#)」を参照してください。禁止されているメッセージコンテンツの最新のリストについては、[WhatsApp Business Messaging Policy](#)」を参照してください。

以下は、すべてのメッセージタイプでグローバルに禁止されているコンテンツカテゴリです。WhatsApp でメッセージを送信する場合は、次のガイドラインに従ってください。

カテゴリ	例
ギャンブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>• カジノ</li> <li>• 宝くじ</li> <li>• アプリケーション/ウェブサイト</li> </ul>
高リスク金融サービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 給料日ローン</li> <li>• 短期高利ローン</li> <li>• 自動車ローン</li> <li>• 住宅ローン</li> <li>• 学生ローン</li> <li>• 債権回収</li> <li>• 在庫アラート</li> <li>• Cryptocurrency</li> </ul>
債権放棄	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 債務統合</li> <li>• 債務削減</li> <li>• 信用回復プログラム</li> </ul>
一攫千金計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 在宅就業プログラム</li> <li>• リスク投資の機会</li> <li>• ピラミッドまたはマルチレベルのマーケティングスキーム</li> </ul>
違法物	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 大麻/CBD</li> </ul>
フィッシング/スミッシング	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザーに個人情報やウェブサイトのログイン情報を開示させようと試みること。</li> </ul>

カテゴリ	例
S.H.A.F.T。	<ul style="list-style-type: none"><li>• 性別</li><li>• 憎悪</li><li>• アルコール</li><li>• 銃器</li><li>• タバコ/パイプ</li></ul>
サードパーティーのリード生成	<ul style="list-style-type: none"><li>• 消費者情報を購入、販売、共有する企業</li></ul>

## 顧客リストを監査する

定期的な WhatsApp メッセージを送信する場合は、顧客リストを定期的に監査します。顧客リストを監査することで、メッセージを受信する顧客が、メッセージを受信する顧客だけであることを確認することができます。

リストを監査するときは、オプトインしている各顧客に、サブスクライブしていることを再確認するメッセージを送信し、サブスクライブ解除に関する情報を提供します。

## エンゲージメントに基づく送信を調整する

顧客の優先順位は時間の経過とともに変わる可能性があります。顧客がメッセージを必要としなくなった場合、メッセージを完全にオプトアウトしたり、メッセージを未承諾として報告したり可能性すらあります。このため、顧客とのエンゲージメントに基づいて送信手続きを調整することは重要です。

メッセージにめったに反応しない顧客の場合、メッセージの頻度を調整する必要があります。例えば、反応の多い顧客にメッセージを毎週送信している場合、反応の少ない顧客用に別の毎月のダイジェストを作成できます。

最後に、まったく反応のない顧客を顧客リストから削除します。このステップにより、顧客がメッセージを不満に感じることはなくなります。また、コストを削減し、送信者としての評判を維持することもできます。

## 適切な時間に送信する

通常の営業時間内にメッセージを送信します。夕方または夜中にメッセージを送信すると、混乱を避けるために顧客がリストからサブスクリプションを解除する可能性が高くなります。顧客がすぐに応答できない場合、WhatsApp メッセージを送信しないようにすることをお勧めします。

# AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのセキュリティ

でのクラウドセキュリティが最優先事項 AWS です。お客様は AWS、セキュリティを最も重視する組織の要件を満たすように構築されたデータセンターとネットワークアーキテクチャを活用できます。

セキュリティは、AWS お客様とお客様の間の責任共有です。[責任共有モデル](#)では、これをクラウドのセキュリティおよびクラウド内のセキュリティと説明しています。

- クラウドのセキュリティ – AWS は、で AWS サービスを実行するインフラストラクチャを保護する責任を担います AWS クラウド。は、お客様が安全に使用できるサービス AWS も提供します。サードパーティーの監査者は、[AWS コンプライアンスプログラム](#)コンプライアンスプログラムの一環として、当社のセキュリティの有効性を定期的にテストおよび検証。AWS End User Messaging Social に適用されるコンプライアンスプログラムの詳細については、「[コンプライアンスプログラムAWS による対象範囲内のサービスコンプライアンスプログラム](#)」を参照してください。
- クラウド内のセキュリティ – お客様の責任は、使用する AWS サービスによって決まります。また、ユーザーは、データの機密性、会社の要件、適用される法律や規制など、その他の要因についても責任を負います。

このドキュメントは、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルを使用する際に責任共有モデルを適用する方法を理解するのに役立ちます。以下のトピックでは、セキュリティおよびコンプライアンスの目的を達成するように AWS End User Messaging Social を設定する方法について説明します。また、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルリソースのモニタリングや保護に役立つ他の AWS サービスの使用方法についても説明します。

## トピック

- [AWS End User Messaging Social でのデータ保護](#)
- [AWS End User Messaging Social の Identity and Access Management](#)
- [AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのコンプライアンス検証](#)
- [AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルの耐障害性](#)
- [AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのインフラストラクチャセキュリティ](#)
- [サービス間の混乱した代理の防止](#)

- [セキュリティに関するベストプラクティス](#)
- [End AWS User Messaging Social のサービスにリンクされたロールの使用](#)

## AWS End User Messaging Social でのデータ保護

責任 AWS [共有モデル](#)、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのデータ保護に適用されます。このモデルで説明されているように、AWS はすべての を実行するグローバルインフラストラクチャを保護する責任があります AWS クラウド。ユーザーは、このインフラストラクチャでホストされるコンテンツに対する管理を維持する責任があります。また、使用する「AWS のサービス」のセキュリティ設定と管理タスクもユーザーの責任となります。データプライバシーの詳細については、[データプライバシーに関するよくある質問](#)を参照してください。欧州でのデータ保護の詳細については、AWS セキュリティブログに投稿された [AWS 責任共有モデルおよび GDPR](#) のブログ記事を参照してください。

データ保護の目的で、認証情報を保護し AWS アカウント、AWS IAM Identity Center または AWS Identity and Access Management (IAM) を使用して個々のユーザーを設定することをお勧めします。この方法により、それぞれのジョブを遂行するために必要な権限のみが各ユーザーに付与されます。また、次の方法でデータを保護することもお勧めします：

- 各アカウントで多要素認証 (MFA) を使用します。
- SSL/TLS を使用して AWS リソースと通信します。TLS 1.2 が必須で、TLS 1.3 をお勧めします。
- で API とユーザーアクティビティのログ記録を設定します AWS CloudTrail。CloudTrail 証跡を使用して AWS アクティビティをキャプチャする方法については、「AWS CloudTrail ユーザーガイド」の [CloudTrail 証跡の使用](#) を参照してください。
- AWS 暗号化ソリューションと、その中のすべてのデフォルトのセキュリティコントロールを使用します AWS のサービス。
- Amazon Macie などの高度な管理されたセキュリティサービスを使用します。これらは、Amazon S3 に保存されている機密データの検出と保護を支援します。
- コマンドラインインターフェイスまたは API AWS を介して にアクセスするときに FIPS 140-3 検証済み暗号化モジュールが必要な場合は、FIPS エンドポイントを使用します。利用可能な FIPS エンドポイントの詳細については、「[連邦情報処理規格 \(FIPS\) 140-3](#)」を参照してください。

お客様の E メールアドレスなどの極秘または機密情報を、タグ、または [名前] フィールドなどの自由形式のテキストフィールドに含めないことを強くお勧めします。これは、コンソール、API、または SDK を使用して AWS End User Messaging Social AWS CLI または他の AWS のサービス を使用

する場合も同様です。AWS SDKs タグ、または名前に使用される自由記述のテキストフィールドに入力したデータは、請求または診断ログに使用される場合があります。外部サーバーに URL を提供する場合、そのサーバーへのリクエストを検証できるように、認証情報を URL に含めないことを強くお勧めします。

#### Important

WhatsApp は、安全な通信に Signal プロトコルを使用します。ただし、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルはサードパーティーであるため、WhatsApp はこれらのメッセージを end-to-end 暗号化と見なしません。WhatsApp データ保護の詳細については、[「データプライバシーとセキュリティ」](#) および [WhatsApp 暗号化の概要](#) ホワイトペーパーを参照してください。

## データ暗号化

AWS エンドユーザーメッセージング ソーシャルデータは、転送中および AWS 境界内で保管中に暗号化されます。AWS End User Messaging Social にデータを送信すると、受信時にデータが暗号化され、保存されます。AWS End User Messaging Social からデータを取得すると、現在のセキュリティプロトコルを使用してデータが送信されます。

### 保管中の暗号化

AWS End User Messaging Social は、AWS 境界内に保存するすべてのデータを暗号化します。これには、設定データ、登録データ、および AWS End User Messaging Social に追加するデータが含まれます。データを暗号化するために、AWS End User Messaging Social は、サービスがユーザーに代わって所有および維持する internal AWS Key Management Service (AWS KMS) キーを使用します。AWS KMSの詳細については、『[AWS Key Management Service デベロッパーガイド](#)』を参照してください。

### 転送中の暗号化

AWS End User Messaging Social は、HTTPS および Transport Layer Security (TLS) 1.2 を使用して、クライアント、アプリケーション、および Meta と通信します。他の AWS サービスと通信するために、AWS End User Messaging Social は HTTPS および TLS 1.2 を使用します。さらに、コンソール、AWS SDK、またはを使用して AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルリソースを作成および管理する場合 AWS Command Line Interface、すべての通信は HTTPS および TLS 1.2 を使用して保護されます。

## キー管理

データを暗号化するために、AWS End User Messaging Social は、サービスがユーザーに代わって所有および維持する内部 AWS KMS キーを使用します。これらのキーは定期的に更新されます。End AWS User Messaging Social に保存したデータを暗号化するために、独自のキー AWS KMS やその他のキーをプロビジョニングして使用することはできません。

## ネットワーク間トラフィックのプライバシー

インターネットワークトラフィックのプライバシーとは、AWS End User Messaging Social とオンプレミスのクライアントとアプリケーション間、および AWS End User Messaging Social と同じ内の他の AWS リソース間の接続とトラフィックを保護することです AWS リージョン。以下の機能とプラクティスは、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのインターネットネットワークトラフィックのプライバシーを保護するのに役立ちます。

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルとオンプレミスのクライアントとアプリケーション間のトラフィック

End AWS User Messaging Social とオンプレミスネットワーク上のクライアントとアプリケーションの間にプライベート接続を確立するには、使用できます AWS Direct Connect。これにより、標準の光ファイバーイーサネットケーブルを使用して、ネットワークを AWS Direct Connect 口ーションにリンクできます。ケーブルの一端はユーザーのルーターに接続します。もう 1 つのエンドは AWS Direct Connect ルーターに接続されています。詳細については、「AWS Direct Connect ユーザーガイド」の「[What is AWS Direct Connect ?](#)」(とは?) を参照してください。

公開された APIs を通じて AWS End User Messaging Social へのアクセスを保護するために、API コールの AWS End User Messaging Social 要件に準拠することをお勧めします。AWS End User Messaging Social では、クライアントが Transport Layer Security (TLS) 1.2 以降を使用する必要があります。また、クライアントは、Ephemeral Diffie-Hellman (DHE) や Elliptic Curve Diffie-Hellman Ephemeral (ECDHE) などの Perfect Forward Secrecy (PFS) を使用した暗号スイートもサポートしている必要があります。モードは、Java 7 以降など、最近のほとんどのシステムでサポートされています。

さらに、リクエストは、AWS アカウントの AWS Identity and Access Management (IAM) プリンシパルに関連付けられているアクセスキー ID とシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。または、[AWS Security Token Service](#) (AWS STS) を使用して一時的なセキュリティ認証情報を生成し、リクエストに署名することもできます。

# AWS End User Messaging Social の Identity and Access Management

AWS Identity and Access Management (IAM) は、管理者が AWS リソースへのアクセスを安全に制御 AWS のサービス するのに役立つです。IAM 管理者は、誰を認証 (サインイン) し、誰に AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルリソースの使用を許可する (アクセス許可を付与する) かを制御します。IAM は、追加料金なしで使用できる AWS のサービス です。

## トピック

- [対象者](#)
- [アイデンティティを使用した認証](#)
- [ポリシーを使用したアクセスの管理](#)
- [AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルと IAM の連携方法](#)
- [AWS End User Messaging Social のアイデンティティベースのポリシーの例](#)
- [AWSAWS エンドユーザーメッセージングソーシャルの マネージドポリシー](#)
- [AWS エンドユーザーメッセージングのソーシャルアイデンティティとアクセスのトラブルシューティング](#)

## 対象者

AWS Identity and Access Management (IAM) の使用方法は、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルで行う作業によって異なります。

サービスユーザー – AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルサービスを使用してジョブを実行する場合、管理者から必要な認証情報とアクセス許可が提供されます。さらに多くの AWS End User Messaging Social 機能を使用して作業を行う場合は、追加のアクセス許可が必要になる場合があります。アクセスの管理方法を理解すると、管理者に適切なアクセス許可をリクエストするのに役に立ちます。AWS End User Messaging Social の機能にアクセスできない場合は、「」を参照してください[AWS エンドユーザーメッセージングのソーシャルアイデンティティとアクセスのトラブルシューティング](#)。

サービス管理者 – 社内の AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルリソースを担当している場合は、通常、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルへのフルアクセスがあります。サービスユーザーがどの AWS エンドユーザーメッセージングソーシャル機能やリソースにアクセスするかを決めるのは管理者の仕事です。その後、IAM 管理者にリクエストを送信して、サービスユーザーの権限を変更する必要があります。このページの情報を点検して、IAM の基本概念を理解してくだ

さい。会社が AWS End User Messaging Social で IAM を使用方法の詳細については、「」を参照してください[AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルと IAM の連携方法](#)。

IAM 管理者 – IAM 管理者は、AWS End User Messaging Social へのアクセスを管理するポリシーの作成方法の詳細について確認する場合があります。IAM で使用できる AWS End User Messaging Social アイデンティティベースのポリシーの例を表示するには、「」を参照してください[AWS End User Messaging Social のアイデンティティベースのポリシーの例](#)。

## アイデンティティを使用した認証

認証とは、ID 認証情報 AWS を使用して にサインインする方法です。として、IAM ユーザーとして AWS アカウントのルートユーザー、または IAM ロールを引き受けることによって、認証 ( にサインイン AWS) される必要があります。

ID ソースを介して提供された認証情報を使用して、フェデレーティッド ID AWS として にサインインできます。AWS IAM Identity Center ( IAM Identity Center) ユーザー、会社のシングルサインオン認証、Google または Facebook 認証情報は、フェデレーション ID の例です。フェデレーティッド ID としてサインインする場合、IAM ロールを使用して、前もって管理者により ID フェデレーションが設定されています。フェデレーション AWS を使用して にアクセスすると、間接的にロールを引き受けることになります。

ユーザーの種類に応じて、AWS Management Console または AWS アクセスポータルにサインインできます。へのサインインの詳細については AWS、AWS サインイン ユーザーガイドの「[へのサインイン方法 AWS アカウント](#)」を参照してください。

AWS プログラムで にアクセスする場合、 はソフトウェア開発キット (SDK) とコマンドラインインターフェイス (CLI) AWS を提供し、認証情報を使用してリクエストを暗号化して署名します。AWS ツールを使用しない場合は、自分でリクエストに署名する必要があります。リクエストに自分で署名する推奨方法の使用については、「IAM ユーザーガイド」の「[API リクエストに対する AWS Signature Version 4](#)」を参照してください。

使用する認証方法を問わず、追加セキュリティ情報の提供をリクエストされる場合もあります。たとえば、では、アカウントのセキュリティを高めるために多要素認証 (MFA) を使用する AWS ことをお勧めします。詳細については、「AWS IAM Identity Center ユーザーガイド」の「[多要素認証](#)」および「IAM ユーザーガイド」の「[IAM の AWS 多要素認証](#)」を参照してください。

## AWS アカウント ルートユーザー

を作成するときは AWS アカウント、アカウント内のすべての およびリソースへの AWS のサービス完全なアクセス権を持つ 1 つのサインインアイデンティティから始めます。この ID は AWS アカウ

ント ルートユーザーと呼ばれ、アカウントの作成に使用した E メールアドレスとパスワードでサインインすることでアクセスできます。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザーの認証情報は保護し、ルートユーザーでしか実行できないタスクを実行するときに使用します。ルートユーザーとしてサインインする必要があるタスクの完全なリストについては、「IAM ユーザーガイド」の「[ルートユーザー認証情報が必要なタスク](#)」を参照してください。

## フェデレーティッドアイデンティティ

ベストプラクティスとして、管理者アクセスを必要とするユーザーを含む人間のユーザーに、ID プロバイダーとのフェデレーションを使用して一時的な認証情報 AWS のサービス を使用して にアクセスすることを要求します。

フェデレーティッド ID は、エンタープライズユーザーディレクトリ、ウェブ ID プロバイダー、AWS Directory Service、アイデンティティセンターディレクトリ、または ID ソースを介して提供された認証情報 AWS のサービス を使用して にアクセスするユーザーです。フェデレーティッド ID がアクセスすると AWS アカウント、ロールを引き受け、ロールは一時的な認証情報を提供します。

アクセスを一元管理する場合は、AWS IAM Identity Centerを使用することをお勧めします。IAM Identity Center でユーザーとグループを作成するか、独自の ID ソースのユーザーとグループのセットに接続して同期し、すべての AWS アカウント とアプリケーションで使用できます。IAM Identity Center の詳細については、「AWS IAM Identity Center ユーザーガイド」の「[What is IAM Identity Center?](#)」(IAM Identity Center とは) を参照してください。

## IAM ユーザーとグループ

[IAM ユーザー](#)は、単一のユーザーまたはアプリケーションに対して特定のアクセス許可 AWS アカウント を持つ 内の ID です。可能であれば、パスワードやアクセスキーなどの長期的な認証情報を保有する IAM ユーザーを作成する代わりに、一時的な認証情報を使用することをお勧めします。ただし、IAM ユーザーでの長期的な認証情報が必要な特定のユースケースがある場合は、アクセスキーをローテーションすることをお勧めします。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[長期的な認証情報を必要とするユースケースのためにアクセスキーを定期的にローテーションする](#)」を参照してください。

[IAM グループ](#)は、IAM ユーザーの集団を指定するアイデンティティです。グループとしてサインインすることはできません。グループを使用して、複数のユーザーに対して一度に権限を指定できます。多数のユーザーグループがある場合、グループを使用することで権限の管理が容易になります。例えば、IAMAdmins という名前のグループを設定して、そのグループに IAM リソースを管理する許可を与えることができます。

ユーザーは、ロールとは異なります。ユーザーは 1 人の人または 1 つのアプリケーションに一意に関連付けられますが、ロールはそれを必要とする任意の人が引き受けるようになっています。ユーザーには永続的な長期の認証情報がありますが、ロールでは一時認証情報が提供されます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM ユーザーに関するユースケース](#)」を参照してください。

## IAM ロール

[IAM ロール](#)は、特定のアクセス許可 AWS アカウント を持つ内の ID です。これは IAM ユーザーに似ていますが、特定のユーザーには関連付けられていません。IAM ロールを一時的に引き受けるには AWS Management Console、[ユーザーから IAM ロール \(コンソール\) に切り替える](#)ことができます。ロールを引き受けるには、または AWS API オペレーションを AWS CLI 呼び出すか、カスタム URL を使用します。ロールを使用する方法の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[ロールを引き受けるための各種方法](#)」を参照してください。

IAM ロールと一時的な認証情報は、次の状況で役立ちます:

- フェデレーションユーザーアクセス - フェデレーテッド ID に許可を割り当てるには、ロールを作成してそのロールの許可を定義します。フェデレーテッド ID が認証されると、その ID はロールに関連付けられ、ロールで定義されている許可が付与されます。フェデレーションのロールについては、「IAM ユーザーガイド」の「[サードパーティー ID プロバイダー \(フェデレーション\) 用のロールを作成する](#)」を参照してください。IAM Identity Center を使用する場合は、許可セットを設定します。アイデンティティが認証後にアクセスできるものを制御するため、IAM Identity Center は、権限セットを IAM のロールに関連付けます。アクセス許可セットの詳細については、「AWS IAM Identity Center User Guide」の「[Permission sets](#)」を参照してください。
- 一時的な IAM ユーザー権限 - IAM ユーザーまたはロールは、特定のタスクに対して複数の異なる権限を一時的に IAM ロールで引き受けることができます。
- クロスアカウントアクセス - IAM ロールを使用して、自分のアカウントのリソースにアクセスすることを、別のアカウントの人物 (信頼済みプリンシパル) に許可できます。クロスアカウントアクセス権を付与する主な方法は、ロールを使用することです。ただし、一部の AWS サービス、(プロキシとしてロールを使用する代わりに) リソースに直接ポリシーをアタッチできます。クロスアカウントアクセスにおけるロールとリソースベースのポリシーの違いについては、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM でのクロスアカウントのリソースへのアクセス](#)」を参照してください。
- クロスサービスアクセス - 一部の他の機能 AWS のサービス を使用します AWS のサービス。例えば、あるサービスで呼び出しを行うと、通常そのサービスによって Amazon EC2 でアプリケーションが実行されたり、Amazon S3 にオブジェクトが保存されたりします。サービスで

は、呼び出し元プリンシパルの許可、サービスロール、またはサービスリンクロールを使用してこれを行う場合があります。

- 転送アクセスセッション (FAS) – IAM ユーザーまたはロールを使用してアクションを実行すると AWS、プリンシパルと見なされます。一部のサービスを使用する際に、アクションを実行することで、別のサービスの別のアクションがトリガーされることがあります。FAS は、 を呼び出すプリンシパルのアクセス許可を AWS のサービス、ダウンストリームサービス AWS のサービスへのリクエストをリクエストすると組み合わせて使用します。FAS リクエストは、サービスが他の AWS のサービス またはリソースとのやり取りを完了する必要があるリクエストを受け取った場合にのみ行われます。この場合、両方のアクションを実行するためのアクセス許可が必要です。FAS リクエストを行う際のポリシーの詳細については、「[転送アクセスセッション](#)」を参照してください。
- サービスロール - サービスがユーザーに代わってアクションを実行するために引き受ける [IAM ロール](#)です。IAM 管理者は、IAM 内からサービスロールを作成、変更、削除することができます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[AWS のサービスに許可を委任するロールを作成する](#)」を参照してください。
- サービスにリンクされたロール – サービスにリンクされたロールは、 にリンクされたサービスロールの一種です AWS のサービス。サービスは、ユーザーに代わってアクションを実行するロールを引き受けることができます。サービスにリンクされたロールは に表示され AWS アカウント、サービスによって所有されます。IAM 管理者は、サービスリンクロールのアクセス許可を表示できますが、編集することはできません。
- Amazon EC2 で実行されているアプリケーション – IAM ロールを使用して、EC2 インスタンスで実行され、AWS CLI または AWS API リクエストを行うアプリケーションの一時的な認証情報を管理できます。これは、EC2 インスタンス内でのアクセスキーの保存に推奨されます。EC2 インスタンスに AWS ロールを割り当て、そのすべてのアプリケーションで使用できるようにするには、インスタンスにアタッチされたインスタンスプロファイルを作成します。インスタンスプロファイルにはロールが含まれ、EC2 インスタンスで実行されるプログラムは一時的な認証情報を取得できます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[Amazon EC2 インスタンスで実行されるアプリケーションに IAM ロールを使用して許可を付与する](#)」を参照してください。

## ポリシーを使用したアクセスの管理

でアクセスを制御する AWS には、ポリシーを作成し、ID AWS またはリソースにアタッチします。ポリシーは AWS、アイデンティティまたはリソースに関連付けられているときにアクセス許可を定義する のオブジェクトです。 は、プリンシパル (ユーザー、ルートユーザー、またはロールセッション) がリクエストを行うときに、これらのポリシー AWS を評価します。ポリシーでの権限によ

り、リクエストが許可されるか拒否されるかが決まります。ほとんどのポリシーは JSON ドキュメント AWS として に保存されます。JSON ポリシードキュメントの構造と内容の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[JSON ポリシー概要](#)」を参照してください。

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

デフォルトでは、ユーザーやロールに権限はありません。IAM 管理者は、リソースに必要なアクションを実行するための権限をユーザーに付与する IAM ポリシーを作成できます。その後、管理者はロールに IAM ポリシーを追加し、ユーザーはロールを引き受けることができます。

IAM ポリシーは、オペレーションの実行方法を問わず、アクションの許可を定義します。例えば、iam:GetRole アクションを許可するポリシーがあるとします。そのポリシーを持つユーザーは、AWS Management Console、AWS CLI または AWS API からロール情報を取得できます。

## アイデンティティベースのポリシー

アイデンティティベースポリシーは、IAM ユーザーグループ、ユーザーのグループ、ロールなど、アイデンティティにアタッチできる JSON 許可ポリシードキュメントです。これらのポリシーは、ユーザーとロールが実行できるアクション、リソース、および条件をコントロールします。アイデンティティベースポリシーの作成方法については、「IAM ユーザーガイド」の「[カスタマー管理ポリシーでカスタム IAM アクセス許可を定義する](#)」を参照してください。

アイデンティティベースのポリシーは、さらにインラインポリシーまたはマネージドポリシーに分類できます。インラインポリシーは、単一のユーザー、グループ、またはロールに直接埋め込まれています。管理ポリシーは、内の複数のユーザー、グループ、ロールにアタッチできるスタンドアロンポリシーです AWS アカウント。管理ポリシーには、AWS 管理ポリシーとカスタマー管理ポリシーが含まれます。マネージドポリシーまたはインラインポリシーのいずれかを選択する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「[管理ポリシーとインラインポリシーのいずれかを選択する](#)」を参照してください。

## リソースベースのポリシー

リソースベースのポリシーは、リソースに添付する JSON ポリシードキュメントです。リソースベースのポリシーには例として、IAM ロールの信頼ポリシーや Amazon S3 バケットポリシーがあげられます。リソースベースのポリシーをサポートするサービスでは、サービス管理者はポリシーを使用して特定のリソースへのアクセスを制御できます。ポリシーがアタッチされているリソースの場合、指定されたプリンシパルがそのリソースに対して実行できるアクションと条件は、ポリシーによって定義されます。リソースベースのポリシーでは、[プリンシパルを指定する](#)必要があります。プ

リンシパルには、アカウント、ユーザー、ロール、フェデレーテッドユーザー、または を含めることができます AWS のサービス。

リソースベースのポリシーは、そのサービス内にあるインラインポリシーです。リソースベースのポリシーでは、IAM の AWS マネージドポリシーを使用できません。

## アクセスコントロールリスト (ACL)

アクセスコントロールリスト (ACL) は、どのプリンシパル (アカウントメンバー、ユーザー、またはロール) がリソースにアクセスするための許可を持つかを制御します。ACL はリソースベースのポリシーに似ていますが、JSON ポリシードキュメント形式は使用しません。

Amazon S3、および Amazon VPC は AWS WAF、ACLs。ACL の詳細については、「Amazon Simple Storage Service デベロッパーガイド」の「[アクセスコントロールリスト \(ACL\) の概要](#)」を参照してください。

## その他のポリシータイプ

AWS は、追加のあまり一般的ではないポリシータイプをサポートしています。これらのポリシータイプでは、より一般的なポリシータイプで付与された最大の権限を設定できます。

- **アクセス許可の境界** - アクセス許可の境界は、アイデンティティベースポリシーによって IAM エンティティ (IAM ユーザーまたはロール) に付与できる権限の上限を設定する高度な機能です。エンティティにアクセス許可の境界を設定できます。結果として得られる権限は、エンティティのアイデンティティベースポリシーとそのアクセス許可の境界の共通部分になります。Principal フィールドでユーザーまたはロールを指定するリソースベースのポリシーでは、アクセス許可の境界は制限されません。これらのポリシーのいずれかを明示的に拒否した場合、権限は無効になります。アクセス許可の境界の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM エンティティのアクセス許可の境界](#)」を参照してください。
- **サービスコントロールポリシー (SCPs)** – SCPs は、 の組織または組織単位 (OU) の最大アクセス許可を指定する JSON ポリシーです AWS Organizations。AWS Organizations は、ビジネスが所有する複数の をグループ化して一元管理するためのサービス AWS アカウントです。組織内のすべての機能を有効にすると、サービスコントロールポリシー (SCP) を一部またはすべてのアカウントに適用できます。SCP は、各 を含むメンバーアカウントのエンティティのアクセス許可を制限します AWS アカウントのルートユーザー。Organizations と SCP の詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「[サービスコントロールポリシー \(SCP\)](#)」を参照してください。
- **リソースコントロールポリシー (RCP)** – RCP は、所有する各リソースにアタッチされた IAM ポリシーを更新することなく、アカウント内のリソースに利用可能な最大数のアクセス許可を設定する

ために使用できる JSON ポリシーです。RCP は、メンバーアカウントのリソースのアクセス許可を制限し、組織に属しているかどうかにかかわらず AWS アカウントのルートユーザー、を含む ID の有効なアクセス許可に影響を与える可能性があります。RCP をサポートする のリストを含む Organizations と RCP の詳細については、AWS Organizations 「ユーザーガイド AWS のサービス」の「[リソースコントロールポリシー \(RCPs\)](#)」を参照してください。RCPs

- セッションポリシー - セッションポリシーは、ロールまたはフェデレーションユーザーの一時的なセッションをプログラムで作成する際にパラメータとして渡す高度なポリシーです。結果としてセッションの権限は、ユーザーまたはロールのアイデンティティベースポリシーとセッションポリシーの共通部分になります。また、リソースベースのポリシーから権限が派生する場合があります。これらのポリシーのいずれかを明示的に拒否した場合、権限は無効になります。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[セッションポリシー](#)」を参照してください。

## 複数のポリシータイプ

1 つのリクエストに複数のタイプのポリシーが適用されると、結果として作成される権限を理解するのがさらに難しくなります。が複数のポリシータイプが関与する場合にリクエストを許可するかどうか AWS を決定する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「[ポリシー評価ロジック](#)」を参照してください。

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルと IAM の連携方法

IAM を使用して AWS End User Messaging Social へのアクセスを管理する前に、AWS End User Messaging Social で使用できる IAM 機能を確認してください。

### AWS End User Messaging Social で使用できる IAM 機能

IAM の機能	AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルサポート
<a href="#">アイデンティティベースポリシー</a>	はい
<a href="#">リソースベースのポリシー</a>	いいえ
<a href="#">ポリシーアクション</a>	はい
<a href="#">ポリシーリソース</a>	あり
<a href="#">ポリシー条件キー</a>	Yes

IAM の機能	AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルサポート
<a href="#">ACL</a>	いいえ
<a href="#">ABAC (ポリシー内のタグ)</a>	部分的
<a href="#">一時的な認証情報</a>	はい
<a href="#">プリンシパル権限</a>	はい
<a href="#">サービスロール</a>	はい
<a href="#">サービスリンクロール</a>	はい

AWS End User Messaging Social およびその他の AWS のサービスがほとんどの IAM 機能と連携する方法の概要については、IAM ユーザーガイドの[AWS 「IAM と連携する のサービス」](#)を参照してください。

## AWS End User Messaging Social のアイデンティティベースのポリシー

アイデンティティベースのポリシーのサポート: あり

アイデンティティベースポリシーは、IAM ユーザーグループ、ユーザーのグループ、ロールなど、アイデンティティにアタッチできる JSON 許可ポリシードキュメントです。これらのポリシーは、ユーザーとロールが実行できるアクション、リソース、および条件をコントロールします。ID ベースのポリシーの作成方法については、「IAM ユーザーガイド」の「[カスタマー管理ポリシーでカスタム IAM アクセス許可を定義する](#)」を参照してください。

IAM アイデンティティベースのポリシーでは、許可または拒否するアクションとリソース、およびアクションを許可または拒否する条件を指定できます。プリンシパルは、それが添付されているユーザーまたはロールに適用されるため、アイデンティティベースのポリシーでは指定できません。JSON ポリシーで使用できるすべての要素について学ぶには、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM JSON ポリシーの要素のリファレンス](#)」を参照してください。

### AWS End User Messaging Social のアイデンティティベースのポリシーの例

AWS End User Messaging Social のアイデンティティベースのポリシーの例を表示するには、「」を参照してください[AWS End User Messaging Social のアイデンティティベースのポリシーの例](#)。

## AWS End User Messaging Social 内のリソースベースのポリシー

リソースベースのポリシーのサポート: なし

リソースベースのポリシーは、リソースに添付する JSON ポリシードキュメントです。リソースベースのポリシーには例として、IAM ロールの信頼ポリシーや Amazon S3 バケットポリシーがあげられます。リソースベースのポリシーをサポートするサービスでは、サービス管理者はポリシーを使用して特定のリソースへのアクセスを制御できます。ポリシーがアタッチされているリソースの場合、指定されたプリンシパルがそのリソースに対して実行できるアクションと条件は、ポリシーによって定義されます。リソースベースのポリシーでは、[プリンシパルを指定する](#)必要があります。プリンシパルには、アカウント、ユーザー、ロール、フェデレーテッドユーザー、またはを含めることができます AWS のサービス。

クロスアカウントアクセスを有効にするには、アカウント全体、または別のアカウントの IAM エンティティをリソースベースのポリシーのプリンシパルとして指定します。リソースベースのポリシーにクロスアカウントのプリンシパルを追加しても、信頼関係は半分しか確立されない点に注意してください。プリンシパルとリソースが異なる場合 AWS アカウント、信頼されたアカウントの IAM 管理者は、プリンシパルエンティティ (ユーザーまたはロール) にリソースへのアクセス許可も付与する必要があります。IAM 管理者は、アイデンティティベースのポリシーをエンティティにアタッチすることで権限を付与します。ただし、リソースベースのポリシーで、同じアカウントのプリンシパルへのアクセス権が付与されている場合は、アイデンティティベースのポリシーをさらに付与する必要はありません。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM でのクロスアカウントリソースアクセス](#)」を参照してください。

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのポリシーアクション

ポリシーアクションのサポート: あり

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

JSON ポリシーの Action 要素にはポリシー内のアクセスを許可または拒否するために使用できるアクションが記述されます。ポリシーアクションの名前は通常、関連付けられた AWS API オペレーションと同じです。一致する API オペレーションのない許可のみのアクションなど、いくつかの例外があります。また、ポリシーに複数のアクションが必要なオペレーションもあります。これらの追加アクションは依存アクションと呼ばれます。

このアクションは関連付けられたオペレーションを実行するためのアクセス許可を付与するポリシーで使用されます。

AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルアクションのリストを確認するには、「サービス認可リファレンス」の[AWS 「エンドユーザーメッセージングソーシャルで定義されるアクション」](#)を参照してください。

AWS End User Messaging Social のポリシーアクションは、アクションの前に次のプレフィックスを使用します。

```
social-messaging
```

単一のステートメントで複数のアクションを指定するには、アクションをカンマで区切ります。

```
"Action": [  
  "social-messaging:action1",  
  "social-messaging:action2"  
]
```

AWS End User Messaging Social のアイデンティティベースのポリシーの例を表示するには、「」を参照してください[AWS End User Messaging Social のアイデンティティベースのポリシーの例](#)。

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのポリシーリソース

ポリシーリソースのサポート: あり

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

Resource JSON ポリシー要素はアクションが適用されるオブジェクトを指定します。ステートメントには Resource または NotResource 要素を含める必要があります。ベストプラクティスとして、[Amazon リソースネーム \(ARN\)](#) を使用してリソースを指定します。これは、リソースレベルの許可と呼ばれる特定のリソースタイプをサポートするアクションに対して実行できます。

オペレーションのリスト化など、リソースレベルの権限をサポートしないアクションの場合は、ステートメントがすべてのリソースに適用されることを示すために、ワイルドカード (\*) を使用します。

```
"Resource": "*"
```

AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルリソースタイプとその ARNs [AWS 「エンドユーザーメッセージングソーシャルで定義されるリソース」](#) を参照してください。各リソースの ARN を指定できるアクションについては、[AWS 「エンドユーザーメッセージングソーシャルで定義されるアクション」](#) を参照してください。

AWS End User Messaging Social のアイデンティティベースのポリシーの例を表示するには、「」を参照してください [AWS End User Messaging Social のアイデンティティベースのポリシーの例](#)。

## AWS End User Messaging Social のポリシー条件キー

サービス固有のポリシー条件キーのサポート: あり

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

Condition 要素 (または Condition ブロック) を使用すると、ステートメントが有効な条件を指定できます。Condition 要素はオプションです。イコールや未満などの [条件演算子](#) を使用して条件式を作成して、ポリシーの条件とリクエスト内の値を一致させることができます。

1つのステートメントに複数の Condition 要素を指定する場合、または 1つの Condition 要素に複数のキーを指定する場合、AWS では AND 論理演算子を使用してそれらを評価します。1つの条件キーに複数の値を指定すると、は論理ORオペレーションを使用して条件 AWS を評価します。ステートメントの権限が付与される前にすべての条件が満たされる必要があります。

条件を指定する際にプレースホルダー変数も使用できます。例えば IAM ユーザーに、IAM ユーザー名がタグ付けされている場合のみリソースにアクセスできる権限を付与することができます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM ポリシーの要素: 変数およびタグ](#)」を参照してください。

AWS は、グローバル条件キーとサービス固有の条件キーをサポートしています。すべての AWS グローバル条件キーを確認するには、「IAM ユーザーガイド」の [AWS 「グローバル条件コンテキストキー」](#) を参照してください。

AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルの条件キーのリストを確認するには、「サービス認可リファレンス」の [AWS 「エンドユーザーメッセージングソーシャルの条件キー」](#) を参照してください。条件キーを使用できるアクションとリソースについては、[AWS 「エンドユーザーメッセージングソーシャルで定義されるアクション」](#) を参照してください。

AWS End User Messaging Social のアイデンティティベースのポリシーの例を表示するには、「」を参照してください[AWS End User Messaging Social のアイデンティティベースのポリシーの例](#)。

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルACLs

ACL のサポート: なし

アクセスコントロールリスト (ACL) は、どのプリンシパル (アカウントメンバー、ユーザー、またはロール) がリソースにアクセスするための許可を持つかを制御します。ACL はリソースベースのポリシーに似ていますが、JSON ポリシードキュメント形式は使用しません。

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルを使用した ABAC

ABAC (ポリシー内のタグ) のサポート: 一部

属性ベースのアクセス制御 (ABAC) は、属性に基づいてアクセス許可を定義する認可戦略です。では AWS、これらの属性はタグと呼ばれます。タグは、IAM エンティティ (ユーザーまたはロール) および多くの AWS リソースにアタッチできます。エンティティとリソースのタグ付けは、ABAC の最初の手順です。その後、プリンシパルのタグがアクセスしようとしているリソースのタグと一致した場合にオペレーションを許可するように ABAC ポリシーをします。

ABAC は、急成長する環境やポリシー管理が煩雑になる状況で役立ちます。

タグに基づいてアクセスを管理するには、`aws:ResourceTag/key-name`、`aws:RequestTag/key-name`、または `aws:TagKeys` の条件キーを使用して、ポリシーの[条件要素](#)でタグ情報を提供します。

サービスがすべてのリソースタイプに対して 3 つの条件キーすべてをサポートする場合、そのサービスの値はありです。サービスが一部のリソースタイプに対してのみ 3 つの条件キーのすべてをサポートする場合、値は「部分的」になります。

ABAC の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[ABAC 認可でアクセス許可を定義する](#)」を参照してください。ABAC をセットアップする手順を説明するチュートリアルについては、「IAM ユーザーガイド」の「[属性ベースのアクセスコントロール \(ABAC\) を使用する](#)」を参照してください。

## AWS End User Messaging Social での一時的な認証情報の使用

一時的な認証情報のサポート: あり

一部の AWS のサービスは、一時的な認証情報を使用してサインインすると機能しません。一時的な認証情報 AWS のサービスを使用するなどの詳細については、IAM ユーザーガイドの「IAM [AWS のサービスと連携する](#)」を参照してください。

ユーザー名とパスワード以外の方法 AWS Management Console を使用してにサインインする場合、一時的な認証情報を使用します。たとえば、会社のシングルサインオン (SSO) リンク AWS を使用してにアクセスすると、そのプロセスによって一時的な認証情報が自動的に作成されます。また、ユーザーとしてコンソールにサインインしてからロールを切り替える場合も、一時的な認証情報が自動的に作成されます。ロールの切り替えに関する詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[ユーザーから IAM ロールに切り替える \(コンソール\)](#)」を参照してください。

一時的な認証情報は、AWS CLI または AWS API を使用して手動で作成できます。その後、これらの一時的な認証情報を使用してアクセスすることができます AWS。長期的なアクセスキーを使用する代わりに、一時的な認証情報を動的に生成 AWS することをお勧めします。詳細については、「[IAM の一時的セキュリティ認証情報](#)」を参照してください。

## AWS End User Messaging Social のクロスサービスプリンシパルアクセス許可

転送アクセスセッション (FAS) のサポート: あり

IAM ユーザーまたはロールを使用してでアクションを実行すると AWS、プリンシパルと見なされます。一部のサービスを使用する際に、アクションを実行することで、別のサービスの別のアクションがトリガーされることがあります。FAS は、を呼び出すプリンシパルのアクセス許可を AWS のサービス、ダウンストリームサービス AWS のサービスへのリクエストをリクエストすると組み合わせて使用します。FAS リクエストは、サービスが他の AWS のサービスまたはリソースとのやり取りを完了する必要があるリクエストを受け取った場合にのみ行われます。この場合、両方のアクションを実行するためのアクセス許可が必要です。FAS リクエストを行う際のポリシーの詳細については、「[転送アクセスセッション](#)」を参照してください。

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのサービスロール

サービスロールのサポート: あり

サービスロールとは、サービスがユーザーに代わってアクションを実行するために引き受ける [IAM ロール](#)です。IAM 管理者は、IAM 内からサービスロールを作成、変更、削除できます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[AWS のサービスに許可を委任するロールを作成する](#)」を参照してください。

**⚠ Warning**

サービスロールのアクセス許可を変更すると、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャル機能が破損する可能性があります。End User Messaging Social AWS が指示する場合にのみ、サービスロールを編集します。

## AWS End User Messaging Social のサービスにリンクされたロール

サービスリンクロールのサポート: あり

サービスにリンクされたロールは、にリンクされたサービスロールの一種です AWS のサービス。サービスは、ユーザーに代わってアクションを実行するロールを引き受けることができます。サービスにリンクされたロールは に表示され AWS アカウント、サービスによって所有されます。IAM 管理者は、サービスにリンクされたロールのアクセス許可を表示できますが、編集することはできません。

サービスにリンクされたロールの作成または管理の詳細については、「[IAM と提携するAWS のサービス](#)」を参照してください。表の「サービスリンクロール」列に Yes と記載されたサービスを見つけます。サービスにリンクされたロールに関するドキュメントをサービスで表示するには、[はい] リンクを選択します。

## AWS End User Messaging Social のアイデンティティベースのポリシーの例

デフォルトでは、ユーザーとロールには AWS End User Messaging Social リソースを作成または変更するアクセス許可はありません。また、AWS Command Line Interface ( AWS CLI ) AWS Management Console、または AWS API を使用してタスクを実行することはできません。IAM 管理者は、リソースで必要なアクションを実行するための権限をユーザーに付与する IAM ポリシーを作成できます。その後、管理者はロールに IAM ポリシーを追加し、ユーザーはロールを引き継ぐことができます。

これらサンプルの JSON ポリシードキュメントを使用して、IAM アイデンティティベースのポリシーを作成する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM ポリシーを作成する \(コンソール\)](#)」を参照してください。

各リソースタイプの ARN の形式など、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルで定義されるアクションとリソースタイプの詳細については、「サービス認可リファレンス」の [AWS 「エンド](#)

[ユーザーメッセージングソーシャルのアクション、リソース、および条件キー](#)」を参照してください。ARNs

## トピック

- [ポリシーに関するベストプラクティス](#)
- [AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルコンソールの使用](#)
- [自分の権限の表示をユーザーに許可する](#)

## ポリシーに関するベストプラクティス

ID ベースのポリシーは、アカウント内の AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルリソースを作成、アクセス、または削除できるかどうかを決定します。これらのアクションを実行すると、AWS アカウントに料金が発生する可能性があります。アイデンティティベースポリシーを作成したり編集したりする際には、以下のガイドラインと推奨事項に従ってください:

- AWS 管理ポリシーを開始し、最小特権のアクセス許可に移行する - ユーザーとワークロードにアクセス許可の付与を開始するには、多くの一般的なユースケースにアクセス許可を付与する AWS 管理ポリシーを使用します。これらはで使用できます AWS アカウント。ユースケースに固有の AWS カスタマー管理ポリシーを定義することで、アクセス許可をさらに減らすことをお勧めします。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[AWS マネージドポリシー](#)」または「[ジョブ機能のAWS マネージドポリシー](#)」を参照してください。
- 最小特権を適用する - IAM ポリシーで許可を設定する場合は、タスクの実行に必要な許可のみを付与します。これを行うには、特定の条件下で特定のリソースに対して実行できるアクションを定義します。これは、最小特権アクセス許可とも呼ばれています。IAM を使用して許可を適用する方法の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM でのポリシーとアクセス許可](#)」を参照してください。
- IAM ポリシーで条件を使用してアクセスをさらに制限する - ポリシーに条件を追加して、アクションやリソースへのアクセスを制限できます。例えば、ポリシー条件を記述して、すべてのリクエストを SSL を使用して送信するように指定できます。条件を使用して、サービスアクションがなどの特定の を通じて使用されている場合に AWS のサービス、サービスアクションへのアクセスを許可することもできます AWS CloudFormation。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM JSON ポリシー要素:条件](#)」を参照してください。
- IAM Access Analyzer を使用して IAM ポリシーを検証し、安全で機能的な権限を確保する - IAM Access Analyzer は、新規および既存のポリシーを検証して、ポリシーが IAM ポリシー言語 (JSON) および IAM のベストプラクティスに準拠するようにします。IAM アクセスアナライザーは 100 を超えるポリシーチェックと実用的な推奨事項を提供し、安全で機能的なポリシーの作成をサ

ポートします。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM Access Analyzer でポリシーを検証する](#)」を参照してください。

- 多要素認証 (MFA) を要求する – で IAM ユーザーまたはルートユーザーを必要とするシナリオがある場合は AWS アカウント、MFA をオンにしてセキュリティを強化します。API オペレーションが呼び出されるときに MFA を必須にするには、ポリシーに MFA 条件を追加します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[MFA を使用した安全な API アクセス](#)」を参照してください。

IAM でのベストプラクティスの詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM でのセキュリティのベストプラクティス](#)」を参照してください。

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルコンソールの使用

AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルコンソールにアクセスするには、最小限のアクセス許可のセットが必要です。これらのアクセス許可により、の AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルリソースの詳細を一覧表示および表示できます AWS アカウント。最小限必要な許可よりも制限が厳しいアイデンティティベースのポリシーを作成すると、そのポリシーを持つエンティティ (ユーザーまたはロール) に対してコンソールが意図したとおりに機能しません。

AWS CLI または AWS API のみを呼び出すユーザーには、最小限のコンソールアクセス許可を付与する必要はありません。代わりに、実行しようとしている API オペレーションに一致するアクションのみへのアクセスが許可されます。

ユーザーとロールが引き続き AWS End User Messaging Social コンソールを使用できるようにするには、エンティティに AWS End User Messaging Social *ConsoleAccess* または *ReadOnly* AWS マネージドポリシーもアタッチします。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[ユーザーへのアクセス許可の追加](#)」を参照してください。

## 自分の権限の表示をユーザーに許可する

この例では、ユーザーアイデンティティにアタッチされたインラインおよびマネージドポリシーの表示を IAM ユーザーに許可するポリシーの作成方法を示します。このポリシーには、コンソールで、または AWS CLI または AWS API を使用してプログラムでこのアクションを実行するアクセス許可が含まれています。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "ViewOwnUserInfo",
```

```
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "iam:GetUserPolicy",
      "iam:ListGroupsWithUser",
      "iam:ListAttachedUserPolicies",
      "iam:ListUserPolicies",
      "iam:GetUser"
    ],
    "Resource": ["arn:aws:iam::*:user/${aws:username}"]
  },
  {
    "Sid": "NavigateInConsole",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "iam:GetGroupPolicy",
      "iam:GetPolicyVersion",
      "iam:GetPolicy",
      "iam:ListAttachedGroupPolicies",
      "iam:ListGroupPolicies",
      "iam:ListPolicyVersions",
      "iam:ListPolicies",
      "iam:ListUsers"
    ],
    "Resource": "*"
  }
]
```

## AWSAWS エンドユーザーメッセージングソーシャルの マネージドポリシー

ユーザー、グループ、ロールにアクセス許可を追加するには、自分でポリシーを記述するよりも AWS 管理ポリシーを使用する方が簡単です。チームに必要な権限のみを提供する [IAM カスタマー マネージドポリシーを作成する](#) には時間と専門知識が必要です。すぐに開始するには、AWS マネージドポリシーを使用できます。これらのポリシーは、一般的なユースケースをターゲット範囲に含めており、AWS アカウントで利用できます。AWS 管理ポリシーの詳細については、IAM ユーザーガイドの「[AWS 管理ポリシー](#)」を参照してください。

AWS サービスは、AWS 管理ポリシーを維持および更新します。AWS 管理ポリシーのアクセス許可は変更できません。サービスでは新しい機能を利用できるようにするために、AWS マネージドポリシーに権限が追加されることがあります。この種類の更新はポリシーがアタッチされている、すべてのアイデンティティ (ユーザー、グループおよびロール) に影響を与えます。新しい機能が立ち上げられた場合や、新しいオペレーションが使用可能になった場合に、各サービスが AWS マネージドポリシーを更新する可能性が最も高くなります。サービスは AWS マネージドポリシーからアクセス許可を削除しないため、ポリシーの更新によって既存のアクセス許可が損なわれることはありません。

さらに、は、複数のサービスにまたがるジョブ関数の マネージドポリシー AWS をサポートしています。例えば、ReadOnlyAccess AWS 管理ポリシーは、すべての AWS サービスとリソースへの読み取り専用アクセスを提供します。サービスが新機能を起動すると、は新しいオペレーションとリソースの読み取り専用アクセス許可 AWS を追加します。ジョブ機能のポリシーの一覧および詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[AWS のジョブ機能のマネージドポリシー](#)」を参照してください。

## AWS エンドユーザーメッセージング AWS マネージドポリシーのソーシャル更新

このサービスがこれらの変更の追跡を開始してからの AWS End User Messaging Social の AWS マネージドポリシーの更新に関する詳細を表示します。このページの変更に関する自動アラートについては、AWS 「エンドユーザーメッセージングソーシャルドキュメント履歴」ページの RSS フィードにサブスクライブしてください。

変更	説明	日付
AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルが変更の追跡を開始しました	AWS End User Messaging Social は、AWS マネージドポリシーの変更の追跡を開始しました。	2024 年 10 月 10 日

# AWS エンドユーザーメッセージングのソーシャルアイデンティティとアクセスのトラブルシューティング

以下の情報は、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルと IAM を使用する際に発生する可能性がある一般的な問題の診断と修正に役立ちます。

## トピック

- [End User Messaging Social AWS でアクションを実行する権限がありません](#)
- [iam:PassRole を実行する権限がありません](#)
- [自分の 以外のユーザーに AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルリソース AWS アカウントへのアクセスを許可したい](#)

## End User Messaging Social AWS でアクションを実行する権限がありません

アクションを実行する権限がないというエラーが表示された場合は、そのアクションを実行できるようにポリシーを更新する必要があります。

次のエラー例は、mateojackson IAM ユーザーがコンソールを使用して、ある *my-example-widget* リソースに関する詳細情報を表示しようとしたことを想定して、その際に必要な `social-messaging:GetWidget` アクセス許可を持っていない場合に発生するものです。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/mateojackson is not authorized to perform: social-messaging:GetWidget on resource: my-example-widget
```

この場合、`social-messaging:GetWidget` アクションを使用して *my-example-widget* リソースへのアクセスを許可するように、mateojackson ユーザーのポリシーを更新する必要があります。

サポートが必要な場合は、AWS 管理者にお問い合わせください。サインイン認証情報を提供した担当者が管理者です。

## iam:PassRole を実行する権限がありません

`iam:PassRole` アクションを実行する権限がないというエラーが表示された場合は、AWS End User Messaging Social にロールを渡すことができるようにポリシーを更新する必要があります。

一部の AWS のサービスでは、新しいサービスロールまたはサービスにリンクされたロールを作成する代わりに、そのサービスに既存のロールを渡すことができます。そのためには、サービスにロールを渡す権限が必要です。

次の例のエラーは、という IAM ユーザーがコンソールを使用して AWS End User Messaging Social marymajor でアクションを実行しようとするると発生します。ただし、このアクションをサービスが実行するには、サービスロールから付与された権限が必要です。メアリーには、ロールをサービスに渡す許可がありません。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/marymajor is not authorized to perform:
iam:PassRole
```

この場合、Mary のポリシーを更新してメアリーに iam:PassRole アクションの実行を許可する必要があります。

サポートが必要な場合は、AWS 管理者にお問い合わせください。サインイン資格情報を提供した担当者が管理者です。

## 自分の 以外のユーザーに AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルリソース AWS アカウント へのアクセスを許可したい

他のアカウントのユーザーや組織外の人が、リソースにアクセスするために使用できるロールを作成できます。ロールの引き受けを委託するユーザーを指定できます。リソースベースのポリシーまたはアクセスコントロールリスト (ACL) をサポートするサービスの場合、それらのポリシーを使用して、リソースへのアクセスを付与できます。

詳細については、以下を参照してください:

- AWS End User Messaging Social がこれらの機能をサポートしているかどうかを確認するには、「」を参照してください [AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルと IAM の連携方法](#)。
- 所有 AWS アカウント している のリソースへのアクセスを提供する方法については、IAM ユーザーガイドの [「所有 AWS アカウント している別の の IAM ユーザーへのアクセスを提供する」](#) を参照してください。
- リソースへのアクセスをサードパーティーに提供する方法については AWS アカウント、IAM ユーザーガイドの [「サードパーティーが所有する へのアクセスを提供する AWS アカウント」](#) を参照してください。
- ID フェデレーションを介してアクセスを提供する方法については、「IAM ユーザーガイド」の [「外部で認証されたユーザー \(ID フェデレーション\) へのアクセスの許可」](#) を参照してください。
- クロスアカウントアクセスにおけるロールとリソースベースのポリシーの使用法の違いについては、「IAM ユーザーガイド」の [「IAM でのクロスアカウントのリソースへのアクセス」](#) を参照してください。

# AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのコンプライアンス検証

AWS のサービスが特定のコンプライアンスプログラムの対象であるかどうかを確認するには、「[コンプライアンスAWS のサービス プログラムによる対象範囲内](#)」を参照して、関心のあるコンプライアンスプログラムを選択します。一般的な情報については、[AWS 「Compliance Programs Assurance」](#)を参照してください。

を使用して、サードパーティーの監査レポートをダウンロードできます AWS Artifact。詳細については、「[Downloading Reports in AWS Artifact](#)」を参照してください。

を使用する際のお客様のコンプライアンス責任 AWS のサービスは、お客様のデータの機密性、貴社のコンプライアンス目的、適用される法律および規制によって決まります。は、コンプライアンスに役立つ以下のリソース AWS を提供します。

- [セキュリティのコンプライアンスとガバナンス](#) – これらのソリューション実装ガイドでは、アーキテクチャ上の考慮事項について説明し、セキュリティとコンプライアンスの機能をデプロイする手順を示します。
- [HIPAA 対応サービスのリファレンス](#) – HIPAA 対応サービスの一覧が提供されています。すべての AWS のサービスが HIPAA の対象となるわけではありません。
- [AWS コンプライアンスリソース](#) – このワークブックとガイドのコレクションは、お客様の業界や地域に適用される場合があります。
- [AWS カスタマーコンプライアンスガイド](#) – コンプライアンスの観点から責任共有モデルを理解します。このガイドは、複数のフレームワーク (米国国立標準技術研究所 (NIST)、Payment Card Industry Security Standards Council (PCI)、国際標準化機構 (ISO) を含む) のセキュリティコントロールを保護し、そのガイダンスに AWS のサービス マッピングするためのベストプラクティスをまとめたものです。
- 「[デベロッパーガイド](#)」の「[ルールによるリソースの評価](#)」 – この AWS Config サービスは、リソース設定が内部プラクティス、業界ガイドライン、および規制にどの程度準拠しているかを評価します。AWS Config
- [AWS Security Hub](#) – これにより AWS のサービス、内のセキュリティ状態を包括的に把握できます AWS。Security Hub では、セキュリティコントロールを使用して AWS リソースを評価し、セキュリティ業界標準とベストプラクティスに対するコンプライアンスをチェックします。サポートされているサービスとコントロールの一覧については、[Security Hub のコントロールリファレンス](#)を参照してください。

- [Amazon GuardDuty](#) – 不審なアクティビティや悪意のあるアクティビティがないか環境をモニタリングすることで AWS アカウント、ワークロード、コンテナ、データに対する潜在的な脅威 AWS のサービスを検出します。GuardDuty を使用すると、特定のコンプライアンスフレームワークで義務付けられている侵入検知要件を満たすことで、PCI DSS などのさまざまなコンプライアンス要件に対応できます。
- [AWS Audit Manager](#) – これにより AWS のサービス、AWS 使用状況を継続的に監査し、リスクの管理方法と規制や業界標準への準拠を簡素化できます。

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルの耐障害性

AWS グローバルインフラストラクチャは、AWS リージョン およびアベイラビリティゾーンを中心に構築されています。は、低レイテンシー、高スループット、高度に冗長なネットワークで接続された、物理的に分離および分離された複数のアベイラビリティゾーン AWS リージョン を提供します。アベイラビリティゾーンでは、ゾーン間で中断することなく自動的にフェイルオーバーするアプリケーションとデータベースを設計および運用することができます。アベイラビリティゾーンは、従来の単一または複数のデータセンターインフラストラクチャよりも可用性が高く、フォールトトレラントで、スケーラブルです。

AWS リージョン およびアベイラビリティゾーンの詳細については、[AWS 「グローバルインフラストラクチャ」](#) を参照してください。

AWS グローバルインフラストラクチャに加えて、AWS End User Messaging Social には、データの耐障害性とバックアップのニーズをサポートするのに役立つ機能がいくつか用意されています。

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのインフラストラクチャセキュリティ

マネージドサービスである AWS End User Messaging Social は、ホワイトペーパー「[Amazon Web Services: セキュリティプロセスの概要](#)」に記載されている AWS グローバルネットワークセキュリティ手順で保護されています。

AWS 公開された API コールを使用して、ネットワーク経由で AWS End User Messaging Social にアクセスします。クライアントで Transport Layer Security (TLS) 1.0 以降がサポートされている必要があります。TLS 1.2 以降が推奨されています。また、DHE (Ephemeral Diffie-Hellman) や ECDHE (Elliptic Curve Ephemeral Diffie-Hellman) などの Perfect Forward Secrecy (PFS) を使用した暗号スイートもクライアントでサポートされている必要があります。これらのモードは Java 7 以降など、ほとんどの最新システムでサポートされています。

また、リクエストにはアクセスキー ID と、IAM プリンシパルに関連付けられているシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。または、[AWS Security Token Service \(AWS STS\)](#) を使用して、テンポラリセキュリティ認証情報を生成し、リクエストに署名することもできます。

## サービス間の混乱した代理の防止

混乱した代理問題は、アクションを実行するためのアクセス許可を持たないエンティティが、より特権のあるエンティティにアクションの実行を強制できてしまう場合に生じる、セキュリティ上の問題です。では AWS、サービス間のなりすましにより、混乱した代理問題が発生する可能性があります。サービス間でのなりすましは、1つのサービス (呼び出し元サービス) が、別のサービス (呼び出し対象サービス) を呼び出すときに発生する可能性があります。呼び出し元サービスは、本来ならアクセスすることが許可されるべきではない方法でその許可を使用して、別のお客様のリソースに対する処理を実行するように操作される場合があります。これを防ぐため、AWS では、アカウントのリソースへのアクセス権が付与されたサービスプリンシパルで、すべてのサービスのデータを保護するために役立つツールを提供しています。

リソースポリシーで [aws:SourceArn](#) および [aws:SourceAccount](#) グローバル条件コンテキストキーを使用して、ソーシャルメッセージングがリソースに別のサービスに付与するアクセス許可を制限することをお勧めします。クロスサービスアクセスにリソースを 1 つだけ関連付けたい場合は、[aws:SourceArn](#) を使用します。そのアカウント内のリソースをクロスサービスの使用に関連付けることを許可する場合は、[aws:SourceAccount](#) を使用します。

混乱した代理問題から保護するための最も効果的な方法は、リソースの完全な ARN を指定して、[aws:SourceArn](#) グローバル条件コンテキストキーを使用することです。リソースの完全な ARN が不明な場合や、複数のリソースを指定する場合には、グローバルコンテキスト条件キー [aws:SourceArn](#) で、ARN の未知部分を示すためにワイルドカード文字 (\*) を使用します。例えば、`arn:aws:social-messaging:*:123456789012:*`。

[aws:SourceArn](#) の値に Amazon S3 バケット ARN などのアカウント ID が含まれていない場合は、両方のグローバル条件コンテキストキーを使用して、アクセス許可を制限する必要があります。

[aws:SourceArn](#) の値は ResourceDescription である必要があります。

次の例は、ソーシャルメッセージングで [aws:SourceArn](#) および [aws:SourceAccount](#) グローバル条件コンテキストキーを使用して、混乱した代理問題を防ぐ方法を示しています。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
```

```
"Statement": {
  "Sid": "ConfusedDeputyPreventionExamplePolicy",
  "Effect": "Allow",
  "Principal": {
    "Service": "social-messaging.amazonaws.com"
  },
  "Action": "social-messaging:ActionName",
  "Resource": [
    "arn:aws:social-messaging::ResourceName/*"
  ],
  "Condition": {
    "ArnLike": {
      "aws:SourceArn": "arn:aws:social-messaging:*:123456789012:*"
    },
    "StringEquals": {
      "aws:SourceAccount": "123456789012"
    }
  }
}
```

## セキュリティに関するベストプラクティス

AWS End User Messaging Social には、独自のセキュリティポリシーを開発および実装する際に考慮すべきセキュリティ機能が多数用意されています。以下のベストプラクティスは一般的なガイドラインであり、完全なセキュリティソリューションを説明するものではありません。これらのベストプラクティスはお客様の環境に適切ではないか、十分ではない場合があるため、これらは指示ではなく、有用な考慮事項と見なしてください。

- 自分を含め、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルリソースを管理するユーザーごとに個別のユーザーを作成します。AWS ルート認証情報を使用して AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルリソースを管理しないでください。
- それぞれの職務の実行に最低限必要になる一連のアクセス許可を各ユーザーに付与します。
- IAM グループを使用して、複数のユーザーのアクセス許可を効果的に管理します。
- IAM 認証情報のローテーションを定期的に行います。

# End AWS User Messaging Social のサービスにリンクされたロールの使用

AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルは AWS Identity and Access Management (IAM) [サービスにリンクされたロール](#)を使用します。サービスにリンクされたロールは、AWS End User Messaging Social に直接リンクされた一意のタイプの IAM ロールです。サービスにリンクされたロールは AWS End User Messaging Social によって事前定義されており、サービスがユーザーに代わって他の AWS サービスを呼び出すために必要なすべてのアクセス許可が含まれています。

サービスにリンクされたロールを使用すると、必要なアクセス許可を手動で追加する必要がなくなるため、AWS End User Messaging Social の設定が簡単になります。AWS End User Messaging Social は、サービスにリンクされたロールのアクセス許可を定義し、特に定義されている場合を除き、AWS End User Messaging Social のみがそのロールを引き受けることができます。定義される許可は信頼ポリシーと許可ポリシーに含まれており、その許可ポリシーを他の IAM エンティティにアタッチすることはできません。

サービスリンクロールを削除するには、最初に関連リソースを削除する必要があります。これにより、リソースにアクセスするためのアクセス許可が誤って削除されないため、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルリソースが保護されます。

サービスにリンクされたロールをサポートする他のサービスの詳細については、[AWS 「IAM と連携するサービス」](#)を参照し、「サービスにリンクされたロール」列で「はい」があるサービスを探します。サービスリンクロールに関するドキュメントをサービスで表示するには、リンクで [はい] を選択します。

## AWS End User Messaging Social のサービスにリンクされたロールのアクセス許可

AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルは、AWSServiceRoleForSocialMessaging という名前のサービスにリンクされたロールを使用して、メトリクスを公開し、ソーシャルメッセージ送信に関するインサイトを提供します。

AWSServiceRoleForSocialMessaging サービスにリンクされたロールは、次のサービスを信頼してロールを引き受けます。

- `social-messaging.amazonaws.com`

AWSSocialMessagingServiceRolePolicy という名前のロールアクセス許可ポリシーにより、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルは、指定されたリソースに対して次のアクションを実行できます。

- アクション: "cloudwatch:PutMetricData"。対象リソース: all AWS resources in the AWS/SocialMessaging namespace.

ユーザー、グループ、またはロールにサービスリンクロールの作成、編集、または削除を許可するには、アクセス許可を設定する必要があります。詳細についてはIAM ユーザーガイドの「[サービスにリンクされた役割のアクセス許可](#)」を参照してください。

ポリシーの更新については、「」を参照してください[AWS エンドユーザーメッセージング AWS マネージドポリシーのソーシャル更新](#)。

## End AWS User Messaging Social のサービスにリンクされたロールの作成

IAM コンソールを使用して、AWSEndUserMessagingSocial - Metrics ユースケースでサービスにリンクされたロールを作成できます。AWS CLI または AWS API で、サービス名を使用してsocial-messaging.amazonaws.comサービスにリンクされたロールを作成します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[サービスリンクロールの作成](#)」を参照してください。このサービスリンクロールを削除しても、同じ方法でロールを再作成できます。

次の AWS CLI コマンドを使用して、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのサービスにリンクされたロールを作成できます。

```
aws iam create-service-linked-role --aws-service-name social-messaging.amazonaws.com
```

## AWS End User Messaging Social のサービスにリンクされたロールの編集

AWS End User Messaging Social では、AWSServiceRoleForSocialMessaging サービスにリンクされたロールを編集することはできません。サービスリンクロールの作成後は、さまざまなエンティティがロールを参照する可能性があるため、ロール名を変更することはできません。ただし、IAM を使用してロールの説明を編集することはできます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[サービスリンクロールの編集](#)」を参照してください。

## AWS End User Messaging Social のサービスにリンクされたロールの削除

サービスリンクロールを必要とする機能やサービスが不要になった場合は、ロールを削除することをお勧めします。そうすることで、積極的にモニタリングまたは保守されていない未使用のエンティ

ティを排除できます。ただし、手動で削除する前に、サービスリンクロールのリソースをクリーンアップする必要があります。

#### Note

リソースを削除しようとしたときに AWS End User Messaging Social サービスがロールを使用している場合、削除が失敗する可能性があります。失敗した場合は数分待ってから操作を再試行してください。

AWSServiceRoleForSocialMessaging で使用される AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルリソースを削除するには

1. list-linked-whatsapp-business-accounts API を呼び出して、使用しているリソースを確認します。
2. リンクされた各 Whats App Business Account について、disassociate-whatsapp-business-account API を呼び出して、SocialMessaging サービスからリソースを削除します。
3. list-linked-whatsapp-business-accounts API を再度呼び出して、リソースが返されないことを確認します。

サービスリンクロールを IAM で手動削除するには

IAM コンソール、AWS CLI または AWS API を使用して、AWSServiceRoleForSocialMessaging サービスにリンクされたロールを削除します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[サービスにリンクされたロールの削除](#)」を参照してください。

## AWS End User Messaging Social サービスにリンクされたロールでサポートされているリージョン

AWS End User Messaging Social は、サービスが利用可能なすべてのリージョンでサービスにリンクされたロールの使用をサポートしています。詳細については、「[AWS リージョンとエンドポイント](#)」を参照してください。

# インターフェイスエンドポイント (AWS PrivateLink) を使用して AWS End User Messaging Social にアクセスする

を使用して AWS PrivateLink、VPC と AWS End User Messaging Social の間にプライベート接続を作成できます。インターネットゲートウェイ、NAT デバイス、VPN 接続、または AWS Direct Connect 接続を使用せずに、VPC 内にあるかのように AWS End User Messaging Social にアクセスできます。VPC 内のインスタンスは、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルにアクセスするためにパブリック IP アドレスを必要としません。

このプライベート接続を確立するには、AWS PrivateLinkを利用したインターフェイスエンドポイントを作成します。インターフェイスエンドポイントに対して有効にする各サブネットにエンドポイントネットワークインターフェイスを作成します。これらは、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャル宛てのトラフィックのエントリポイントとして機能するリクエストマネージドネットワークインターフェイスです。

詳細については、「AWS PrivateLink ガイド」の [「Access AWS のサービス through AWS PrivateLink」](#) を参照してください。

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルに関する考慮事項

AWS End User Messaging Social のインターフェイスエンドポイントを設定する前に、「AWS PrivateLink ガイド」の [「考慮事項」](#) を参照してください。

AWS End User Messaging Social は、インターフェイスエンドポイントを介したすべての API アクションの呼び出しをサポートしています。

VPC エンドポイントポリシーは、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルではサポートされていません。デフォルトでは、インターフェイスエンドポイントを介して AWS End User Messaging Social へのフルアクセスが許可されます。または、セキュリティグループをエンドポイントネットワークインターフェイスに関連付けて、インターフェイスエンドポイントを介して AWS End User Messaging Social へのトラフィックを制御することもできます。

## AWS End User Messaging Social のインターフェイスエンドポイントを作成する

Amazon VPC コンソールまたは AWS Command Line Interface () を使用して、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのインターフェイスエンドポイントを作成できますAWS CLI。詳細

については、「AWS PrivateLink ガイド」の「[インターフェイスエンドポイントを作成](#)」を参照してください。

次のサービス名を使用して、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのインターフェイスエンドポイントを作成します。

- `com.amazonaws.region.social-messaging`

インターフェイスエンドポイントのプライベート DNS を有効にすると、デフォルトのリージョン DNS 名を使用して AWS End User Messaging Social に API リクエストを行うことができます。例えば、`service-name.us-east-1.amazonaws.com` と指定します。

## インターフェイスエンドポイントのエンドポイントポリシーを作成する

エンドポイントポリシーは、インターフェイスエンドポイントにアタッチできる IAM リソースです。デフォルトのエンドポイントポリシーでは、インターフェイスエンドポイントを介して AWS End User Messaging Social へのフルアクセスを許可します。VPC から AWS End User Messaging Social に許可されるアクセスを制御するには、インターフェイスエンドポイントにカスタムエンドポイントポリシーをアタッチします。

エンドポイントポリシーは以下の情報を指定します。

- アクションを実行できるプリンシパル (AWS アカウント、IAM ユーザー、IAM ロール)。
- 実行可能なアクション。
- このアクションを実行できるリソース。

詳細については、AWS PrivateLink ガイドの[Control access to services using endpoint policies \(エンドポイントポリシーを使用してサービスへのアクセスをコントロールする\)](#)を参照してください。

例: AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルアクションの VPC エンドポイントポリシー

以下は、カスタムエンドポイントポリシーの例です。このポリシーをインターフェイスエンドポイントにアタッチすると、すべてのリソースのすべてのプリンシパルに対して、リストされている AWS End User Messaging Social アクションへのアクセスが許可されます。

```
{
```

```
"Statement": [  
  {  
    "Principal": "*",  
    "Effect": "Allow",  
    "Action": [  
      "social-messaging:DeleteWhatsAppMessageMedia",  
      "social-messaging:PostWhatsAppMessageMedia",  
      "social-messaging:SendWhatsAppMessage"  
    ],  
    "Resource": "*"    
  }  
]  
}
```

## AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのクォータ

AWS アカウントには、AWS のサービスごとにデフォルトのクォータ (以前は制限と呼ばれていました) があります。特に明記されていない限り、クォータは地域固有です。一部のクォータについては引き上げをリクエストできますが、その他のクォータについては引き上げることはできません。

AWS アカウントには、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルに関連する以下のクォータがあります。

リソース	デフォルト値
WhatsApp Business Account (WABA)	リージョンあたり 25

AWS End User Messaging Social は、 から AWS End User Messaging Social API に対して実行できるリクエストの数を制限するクォータを実装します AWS アカウント。

Operation	デフォルトのクォータレート (1 秒あたりのリクエスト数)
SendWhatsAppMessage	1,000
PostWhatsAppMessageMedia	100
GetWhatsAppMessageMedia	100
DeleteWhatsAppMessageMedia	100
DisassociateWhatsAppBusinessAccount	10
ListWhatsAppBusinessAccount	10
TagResource	10
UntagResourceRate	10
ListTagsForResourceRate	10

# AWS 「エンドユーザーメッセージングソーシャルユーザーガイド」のドキュメント履歴

次の表に、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルのドキュメントリリースを示します。

変更	説明	日付
<a href="#">WhatsApp メッセージテンプレートを作成するための新しい API</a>	AWS End User Messaging Social API を使用して WhatsApp メッセージテンプレートを作成するサポートが追加されました。詳細については、「 <a href="#">CreateWhatsAppMessageTemplate API を使用したメッセージテンプレートの作成</a> 」を参照してください。	2025 年 7 月 25 日
<a href="#">メッセージごとに課金</a>	2025 年 7 月 1 日以降、AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルでは、WhatsApp メッセージの会話ごとではなく、メッセージごとに課金されます。詳細については、「 <a href="#">メッセージごとに課金される</a> 」を参照してください。	2025 年 6 月 30 日
<a href="#">リージョナルな可用性</a>	欧州 (フランクフルト) リージョンのサポートが追加されました。詳細については、「 <a href="#">リージョンの可用性</a> 」を参照してください。	2024 年 12 月 5 日
<a href="#">メッセージとイベントの送信先を追加する</a>	イベント送信先としての Amazon Connect のサポート	2024 年 12 月 1 日

を追加しました。詳細については、[「メッセージとイベントの宛先を追加する」](#)を参照してください。

### [AWS PrivateLink](#)

のサポートが追加されました AWS PrivateLink。詳細については、[「AWS PrivateLink」](#)を参照してください。

2024 年 10 月 22 日

### [初回リリース](#)

AWS エンドユーザーメッセージングソーシャルユーザーガイドの初回リリース

2024 年 10 月 10 日

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。